

福岡市埋蔵文化財年報 VOL.17

—平成14（2002）年度版—



平和台球場跡地で見つかった鴻臚館の石垣（奈良時代・南から）

2004

福岡市教育委員会

序

福岡市においては、文化財保護法の趣旨に基づき、埋蔵文化財の適切な保存と活用を図ることを目的として、公共及び民間の各種開発事業の事前審査、記録保存のための緊急調査、重要遺跡確認調査等を実施しております。

平成14年度は、ここ数年来の長引く不況下で開発事業の相対的な減少傾向があったものの、道路や下水道整備等の都市基盤整備を中心とした公共事業や、民間の専用住宅建設等の小規模な開発事業に起因する事前審査及び緊急調査の実施件数はほぼ例年どおりでした。これは、埋蔵文化財の周知化が進むとともに、開発関係各位の文化財保護に対するご理解が深められつつある状況を示していると思われます。本書は、平成14年度における埋蔵文化財保護行政の概要報告です。本書が文化財保護のより一層のご理解の一助となり、また学術資料として活用いただければ幸いです。

平成16年3月31日
福岡市教育委員会
教育長 生田 征生

例言

- ・本書は、埋蔵文化財課が平成14年度に実施した各種開発事業に伴う事前審査と発掘調査の概要及び本報告、ならびに新指定文化財の概要について収録したものである。
- ・本書に記載ある報告のうち、調査番号0207・0232の調査は、この年報をもって、本報告とする。その他については別途、本報告書が刊行される予定または、既刊であり、刊行年度については各報告の文末に記載している。
- ・Ⅱ.3)各調査の概要及び調査報告は各調査担当者が分担執筆した。
- ・本書は池崎諒二が編集した。

目次

I. 開発事前審査

- 1) 平成14年度の概要
- 2) 試掘調査一覧

II. 発掘調査の概要

- 1) 平成14年度発掘調査の概要
- 2) 発掘調査一覧
- 3) 各調査の概要及び調査報告

III. 平成14年度新指定文化財

附 平成14年度刊行報告書一覧

平成14年度文化財部の組織と事務分掌



埋蔵文化財課の職員構成

- 埋蔵文化財課長 山崎純男
- 調査第1係長 力武卓治
- 主任文化財主事 松村道博 杉山富雄 吉留秀敏
- 係員(文化財主事) 瀧本正志 池田祐司 蔵富士寛
- 阿部泰之 赤坂 亨
- 調査第2係長 田中壽夫
- 主任文化財主事 横山邦継 山崎龍雄 佐藤一郎
- 係員(文化財主事) 吉武 学 荒牧宏行 長家 伸 中村啓太郎
- 井上蘭子 本田浩二郎 松浦一之介 上角智希
- 事前審査係長 池崎譲二
- 主任文化財主事 米倉秀紀
- 係員(文化財主事) 大塚紀宜 久住猛雄 田上男一郎
- 課長（大規模事業等担当）二宮忠司
- 主 査 濱石哲也
- 係員(文化財主事) 菅波正人 屋山 洋 星野恵美
- 埋蔵文化財センター所長 山口譲治
- 運 営 係 長 村上敏文
- 主任文化財主事 常松幹雄
- 係員(文化財主事) 加藤良彦 比佐陽一郎

I. 開発事前審査

土木工事等の各種開発事業に係る埋蔵文化財の取り扱いについては、福岡市文化財分布地図を基本資料とし、これまでの発掘調査及び試掘調査等の成果を参考にしながら、書類審査・現地踏査・試掘調査等を実施し、開発事業計画地における埋蔵文化財の有無を確認した上で、保存に係わる協議等を行っている。

公共事業については、関係機関・部局に次年度予定の事業計画の照会を行い、市内内で実施予定の公共事業計画を全般的に把握し、埋蔵文化財の保存上問題になると判断される事業についてはその取り扱いについて協議を求めている。民間の開発事業については、都市計画法に基づく1,000㎡以上の開発事業、建築基準法に基づく建築事業等を対象として事前協議を求めている。また、開発業者や、不動産取引関係者、一般市民等の分布地図閲覧や埋蔵文化財に係る計画策定段階での照会にも窓口で応じ、埋蔵文化財の保存上の措置について必要な指示を行っている。

1) 平成14年度の概要

平成14年度の公共及び民間開発事業に伴う事前審査申請件数は、公共事業783件、民間事業915件の計1698件であった。また、事前審査窓口における埋蔵文化財の有無に係わる照会等は4662件であった。事業別では、新規受付件数で見ると公共事業が昨年度（1084件）と比較してほぼ横這い、民間事業は微減である。全市的にはここ数年の傾向として、都心部の博多区及び西部地区に申請件数が偏る傾向がある。各区別みると、博多区の391件が最も多く、西区の380件、次に早良区が280件となる。東区は箱崎遺跡の発掘調査の進展とともに周知化が進み、審査件数は増加傾向となっている。西区は昨年度とほぼ同じである。

事前審査の内訳をみると、民間申請件数の15%にあたる140件は埋蔵文化財包蔵地外である。試掘調査は329件について実施した。書類審査及び試掘調査等の結果、開発により保存上問題があり、本格的な調査が必要と判断されたのは63件である。その他については慎重工事、工事立会で対処した。

なお、窓口における照会は4662件で、昨年度の4540件と比較し、100件余りのやや増加である。不動産売買取引に伴うものがここ数年多くなっているが、周知化が進み窓口照会件数は安定化してきたものと思われる。

表1. 事前審査件数の推移（当該年度新規受付件数）

	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度
公共	561	566	674	872	1107	1084	783
民間	899	689	636	1001	1041	969	915
合計	1460	1255	1310	1873	2148	2053	1698

表2. 平成14年度事前審査内訳

区名	事業種別	審査種別（書類審査・現地踏査・試掘調査）で見分判断指示の結果														審査件数合計 14年度	窓口照会小計				
		開発に同意する			慎重に工事 立会いを要する			本格調査が必要			審査継続	重複審査	処理保留	取り下げ	その他						
		書類	踏査	試掘	書類	踏査	試掘	書類	踏査	試掘											
東区	公共 民間	24	0	3	44	1	13	3	0	1	1	0	7	0	1	1	0	118	218	631	
南区	公共 民間	21	0	2	60	1	30	4	1	2	1	1	4	4	0	1	0	132	201	699	
博多区	公共 民間	24	0	5	91	3	48	11	0	9	9	1	18	6	1	5	1	159	391	945	
中央区	公共 民間	10	1	0	8	1	10	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	25	128	776	
城南区	公共 民間	7	0	4	36	1	22	2	0	2	0	0	1	2	0	1	2	66	80	146	
早良区	公共 民間	12	0	3	53	1	49	5	0	3	2	0	4	3	0	0	3	104	160	284	
西区	公共 民間	15	0	5	59	5	30	4	0	1	2	0	4	3	0	0	3	171	189	380	
小計	公共 民間	116	1	23	418	13	202	30	1	18	15	2	38	19	2	9	11	915	1748	不明 103	
合計																				4662	

1) 試験調査一覧
公共事業関係

試験番号	調査番号	案件番号	交付日	申請地	積付面積	事業名	道路名	地理概要	調査・立会又は試験日	調査・立会又は試験結果	指示
14-287	0210	7 1 50	東	豊松3丁目	278.000	区画整理事業	稲崎遊歩	試験	平成15年2月26日	遊歩あり	要本調査
14-194	0254 0255	8 1 77	西	今宿		都市整備事業	今宿五高江遊歩	試験	平成14年11月18日	遊歩なし	要本調査
14-271	10 1 273	H11.07.15	博多	東早見1丁目6 7 7 - 6 外	800	道路新築	席田青木遊歩	試験	平成15年2月5日	遊歩なし	慎重工事
14-20	11 1 8	H11.04.22	博多	飯付6丁目	9,000	駅前改	高池遊歩	試験	平成14年4月13日	遊歩あり	要本調査
14-316	11 1 1	H11.04.01	南	井尻1丁目	206.507	道路新設	井尻B遊歩隣接	試験	平成15年3月14日	遊歩なし	開発同意
14-214	12 1 89	H13.07.11	東	香樟駅南1丁目		香樟駅周辺土地区画整理事業	包蔵歩外	試験		遊歩なし	開発同意
14-56	13 1 943	H15.01.11	博多	大字下月隈地内		空堀緑地造成	下月隈遊歩群	立会	平成14年6月27日	遊歩あり	工事立会
14-57	13 1 945	H14.01.11	早良	田村4丁目	2,475	市街田村4丁目住宅地造成	田村遊歩群	試験	平成14年6月19日	遊歩なし	慎重工事
13-344	13 1 820	H13.11.02	早良	次郎丸6丁目83-1-91-1田隣2丁目		市道有田重徳遊歩改良工事	次郎丸高石遊歩	試験	平成14年2月6日	遊歩あり	要本調査
14-190	13 1 820	H13.11.02	早良	次郎丸6丁目地内		市道有田重徳遊歩改良工事	次郎丸高石遊歩	試験	平成14年11月6日	遊歩あり	要本調査
14-30	13 1 1051	H14.05.09	博多	田隣2丁目地内	447	市民館改築	田村遊歩群	試験	平成14年11月6日	遊歩なし	慎重工事
14-83	13 1 1051	H14.05.09	博多	飯付2丁目2-2 0	447	市民館改築	飯付遊歩	試験	平成14年5月29日	遊歩なし	慎重工事
14-66	13 1 1052	H14.05.09	博多	飯付2丁目2-2 0	383	市民館改築	飯付遊歩	試験	平成14年7月24日	遊歩なし	慎重工事
14-68	13 1 105	H13.08.07	西	吉塚2丁目21-15	19,200	西郷(中田)聖立短期療養事業	吉塚遊歩群隣接	立会	平成14年7月8日	遊歩なし	開発同意
14-72	13 1 878	H14.12.06	西	今津地内	280	下水道施設	大原D遊歩	試験	平成14年7月3、10日	遊歩なし	立会
14-191	13 1 583	H13.10.10	西	元岡地内		下水道施設	元岡瓜尾貝塚	立会	平成14年7月2日	遊歩あり	工事立会
14-129	13 1 740	H13.10.10	博多	生の松原1丁目地内		下水道施設	下山門遊歩	試験	平成14年11月6日	遊歩なし	慎重工事
14-192	13 1 192	H13.08.17	早良	東早見1・2丁目	400	市道重原・四郎原公園遊歩改良工事	久保園遊歩	立会	平成14年9月25日	遊歩なし	工事立会
14-193	13 1 244	H13.08.12	早良	西園2丁目地内	6,139	市道重原・四郎原公園遊歩改良工事	西園大町遊歩群隣接	試験	平成14年11月8日	遊歩なし	慎重工事
14-47	14 1 7	H14.06.18	東	田村4丁目地内	20,700	市街小畑住宅地造成事業	田村遊歩群	試験	平成14年6月19日	遊歩なし	慎重工事
14-184	14 1 11	H14.06.20	東	香樟駅南1丁目の付帯地	7048	公債整備	元道防塁	試験	平成14年6月12日	遊歩なし	慎重工事
14-86	14 1 17	H14.06.28	西	名島1丁目地内	2703	公債整備	名島遊歩	試験	平成14年10月16日	遊歩あり	要調査
14-67	14 1 12	H14.08.01	博多	今津4820	3008	福岡電力研究所センター	今津A遊歩群隣接	試験	平成14年7月26日	遊歩なし	開発同意
14-130	14 1 23	H14.08.08	博多	三院2丁目3-8、3-14	1008	建物の解体・宅地造成	斐野B遊歩群	試験	平成14年7月12日	遊歩なし	慎重工事
14-137	14 1 32	H14.08.08	早良	斐野4丁目14-4	3008	建物の解体・宅地造成	斐野A遊歩群	試験	平成14年9月11日	遊歩なし	慎重工事
14-314	14 1 119	H15.01.17	博多	次郎丸6丁目3-1	2500	次郎丸中学校校舎改築工事	次郎丸高石遊歩	試験	平成14年8月12日	遊歩なし	慎重工事
14-317	14 1 121	H15.01.30	福岡	元町3丁目1-1	498	公民館新築	中ノ原遊歩	試験	平成15年3月19日	遊歩なし	慎重工事
14-270	14 1 140	H14.08.29	東	長尾1丁目2 6 7	2518	公民館新築	比佐遊歩群隣接	試験	平成15年3月19日	遊歩なし	開発同意
				扇田2丁目1084-1外	565	会館、納所増設	比佐遊歩群隣接	試験	平成15年2月5日	遊歩あり	要調査

試験番号	調査番号	発行番号	発行日	申請地	地区面積	事業名	通称名	処理概要	調査・立会又は 比較結果	指示	
H-170	14 1	240	H14.09.02	下臼井地内及び下月隈	14.000	空港整備事業、用地造成	上牟田、菟原、下月隈道路	立会	平成14年10月30日	選辦なし	工事立会
H-111	14 1	242	H14.09.02	博多駅前1丁目、駅前5丁目		脚型止水工事	博多道路群、吉塚道路群	試験	平成14年9月4日	選辦なし	償還工事
H-165	14 1	245	H14.09.27	大字草場 6 3	300	自然歩道整備	榎子台周縁	踏査	平成14年10月2日	選辦あり	資本調査
H-267	14 1	616	H14.10.08	田尻、太郎丸、元岡、桑原元沢地内	94.000	道路改良	九大移転用地内	試験	平成14年10月16日	選辦なし	償還工事
H-155	14 1	629	H14.10.10	賀茂3丁目	400	全府川改修工事	次郎丸改訂道路	試験	平成14年10月21日	選辦なし	償還工事
H-153	14 1	631	H14.11.20	野間2丁目B94-1.92-2	263	道路改良代替地	野間八通路群	試験	平成14年10月15日	選辦なし	開閉同意
H-218	14 1	653	H15.01.15	飯塚地内	196	駐車場整備	吉武道路群	試験	平成14年12月10日	選辦あり	償還工事
H-298	14 1	774	H15.02.28	吉塚2丁目S88 (B地点)	283	公葬による譲渡	吉塚桜町道路	試験	平成15年1月16日	選辦あり	要調査
H-297	14 1	785	H15.02.28	吉塚1丁目S51 (A地点)	237	公葬による譲渡	吉塚桜町道路	試験	平成15年3月5日	選辦あり	要調査
H-296	14 1	785	H15.03.05	吉塚2丁目S30-1他1筆 (C地点)	564	公葬による譲渡	吉塚桜町道路	試験	平成15年3月16日	選辦なし	開閉同意
H-315	14 1	787	H15.03.05	藤岡3丁目9 8 外	27	保守改良子会受取地	藤岡道路群	立会	平成15年3月17日	選辦あり	工事立会
H-154	13 1	907	H13.11.02	荻野2丁目2 5 - 2 1	336	庁舎増築	井相田道路群	試験	平成16年10月15日	選辦なし	償還工事
H-38	13 1	820	H13.11.02	次郎丸 6 丁目地内		市道有田直線幅員改修工事	次郎丸改訂道路	試験	平成14年6月26日	選辦あり	資本調査

民間開発関係

計画番号	調査番号	実施年月	実行日付	申請者	申請面積	工事面積	事業名	通称名	処理形態	調査・立会又は 試掘日	調査・立会又は 試掘場所	指示
14-007	14 2 5	H14.04.29	早良	南庄 3丁目17-2	370		土壌改良	有田遺跡群	試掘	H14.4.15	遺跡あり	慎重工事
14-008	14 2 965	H14.03.29	早良	小田原 丁目28-2		888	店舗建設	野子遺跡群	試掘	H14.4.15	遺跡なし	慎重工事
14-016	14 2 30	H14.04.15	早良	小田原 丁目2	339		共同住宅	有田遺跡群	試掘	H14.4.5	遺跡なし	慎重工事
14-021	14 2 69	H14.05.09	早良	飯倉 5丁目5番1号	213	213	頭 増築付宅	飯倉C遺跡群	試掘	H14.5.30	遺跡なし	慎重工事
14-022	14 2 77	H14.06.13	早良	東原 丁目764	217		専任住宅	東原下遺跡群	試掘	H14.5.22	遺跡あり	慎重工事
14-037	14 2 144	H14.06.05	早良	飯倉 4丁目250-20、-21	161		専任住宅	東原下遺跡群	試掘	H14.6.6	遺跡なし	慎重工事
14-043	14 2 115	H14.05.24	早良	野田1284、30-番、40-番	998		共同住宅	東原遺跡群	試掘	H14.6.11	遺跡なし	慎重工事
14-048	14 2 110	H14.06.23	早良	藤崎 1丁目1-2、15-1	1724	501	共同住宅	有田遺跡群	試掘	H14.6.18	遺跡あり	要本調査
14-050	14 2 109	H14.06.13	早良	南庄 3丁目15、12	608	299	共同住宅	有田遺跡群	試掘	H14.7.4	遺跡なし	慎重工事
14-063	14 2 168	H14.06.13	早良	芝原 6丁目111-46	963	416	共同住宅	芝原A区C遺跡群	試掘	H14.6.25	未調査	慎重工事
14-064	14 2 182	H14.06.17	早良	飯倉 5丁目220-1外	1406		共同住宅	飯倉遺跡群	試掘	H14.6.27	遺跡なし	慎重工事
14-070	14 2 204	H14.06.28	早良	船引町2-1、3、128-4、5、120	383		共同住宅	東原遺跡群	試掘	H14.7.9	遺跡なし	慎重工事
14-075	14 2 228	H14.07.08	早良	野田1284、30-番、40-番	645		牧場	芝原A区B遺跡群	試掘	H14.7.18	遺跡なし	慎重工事
14-078	14 2 126	H14.05.30	早良	小田原 丁目28-1外一帯	254		雑草刈草 雑草	有田遺跡群	試掘	H14.7.9	遺跡あり	慎重工事
14-080	14 2 246	H14.07.15	早良	田村 4丁目569-4	1264		既存付増築	田村遺跡群	試掘	H14.7.30	遺跡なし	慎重工事
14-090	14 2 197	H14.06.25	早良	飯倉 4丁目16-19	66	53	専任住宅	東原遺跡群	試掘	H14.7.30	遺跡あり	慎重工事
14-093	0231	14 2 178	H14.06.17	有田 1丁目250-13、-12	222		既存付増築	有田遺跡群	試掘	H14.8.9	遺跡あり	要本調査
14-097	14 2 298	H14.06.02	早良	小田原 丁目117	256		専任住宅	有田古墳群	試掘	H14.8.13	遺跡あり	慎重工事
14-098	14 2 302	H14.06.05	早良	芝原 6丁目1528-14	126		専任住宅	芝原A区C遺跡群	試掘	H14.8.13	遺跡あり	慎重工事
14-104	14 2 308	H14.06.08	早良	飯倉 1丁目27-460、27-470	357	78	専任付増築	飯倉付遺跡群	試掘	H14.8.22	遺跡あり	要付増築工事
14-115	14 2 362	H14.06.30	早良	飯倉 1丁目27-196-1	178	134	専任住宅	有田遺跡群	試掘	H14.9.12	遺跡あり	慎重工事
14-118	14 2 355	H14.06.26	早良	芝原 6丁目2-5	349		共同住宅	芝原A区C遺跡群	試掘	H14.9.12	遺跡なし	慎重工事
14-121	14 2 366	H14.06.03	早良	野子 4丁目1688-1	330		野子遺跡群	野子遺跡群	試掘	H14.9.19	遺跡なし	慎重工事
14-122	14 2 372	H14.06.05	早良	田村 4丁目1-4、-10	299	96	専任住宅	田村遺跡群	試掘	H14.9.19	遺跡なし	慎重工事
14-131	14 2 364	H14.06.30	早良	小田原 丁目10-13	1753		専任住宅	有田遺跡群	試掘	H14.9.19	遺跡あり	慎重工事
14-138	14 2 362	H14.06.30	早良	小田原 丁目96-1	178		専任住宅	有田遺跡群	試掘	H14.9.19	遺跡なし	慎重工事
14-139	14 2 375	H14.06.05	早良	飯倉 2丁目105	126		共同住宅	西原町遺跡群	試掘	H14.10.1	遺跡あり	要本調査
14-145	14 2 376	H14.06.07	早良	飯倉 2丁目106	298		共同住宅	西原町遺跡群	試掘	H14.10.1	遺跡あり	要本調査
14-172	14 2 459	H14.10.29	早良	飯倉 2丁目106	496		専任住宅	飯倉町遺跡群	試掘	H14.10.1	遺跡あり	慎重工事
14-176	14 2 364	H14.06.03	早良	野田1284、30-番、40-番	1124	65	船倉付増築	東原付下遺跡群	試掘	H14.10.11	遺跡なし	慎重工事
14-187	14 2 450	H14.10.07	早良	野田1284、30-番、40-番	1753		売契	有田遺跡群	試掘	H14.10.31	遺跡なし	慎重工事
14-188	14 2 460	H14.10.07	早良	小田原 丁目10-13	427		既存付増築	有田遺跡群	試掘	H14.10.31	遺跡なし	慎重工事
14-202	14 2 584	H14.11.12	早良	芝原 6丁目192-7	2510		既存付増築	芝原A区B遺跡群	試掘	H14.11.12	遺跡あり	条件付き
14-203	14 2 589	H14.11.01	早良	芝原 6丁目191-1、188-1	615	64	雑草工事	野子遺跡群	立会	H14.11.18	遺跡あり	条件付き
14-221	14 2 577	H14.11.08	早良	飯倉 4丁目187-1	662		共同住宅	飯倉町遺跡群	試掘	H14.11.21	遺跡なし	慎重工事
14-228	14 2 540	H14.11.01	早良	野田1284、30-番、40-番	1600	620	共同住宅	東原遺跡群	試掘	H14.11.21	遺跡なし	慎重工事
				田村 4丁目250-13、-12	1478		共同住宅	田村遺跡群	試掘	H14.12.10	遺跡あり	慎重工事
				有田 1丁目250-21	256	169	専任住宅	有田遺跡群	試掘	H14.12.19	遺跡あり	慎重工事

試案番号	副試案番号	副試案番号	交付番号	交付日	申請地	申請地 面積	工事 費額	事業名	道路名	処理 施設	調査・立会又は 試案日	調査・立会又は 試案結果	備考
14-200		14-2	850	H14.12.15	早良 号822丁目844-3	1180		売地	内野山通線併設	仮設	H14.12.25	道路より	条件付き換工工事
14-201		14-2	673	H14.12.16	早良 田原2丁目967-5	1101	403	仮設専用住宅	田村通線併設	仮設	H14.12.24	道路より	条件付き換工工事
14-203	0256	14-2	68	H14.05.09	早良 小田原2丁目155-1,156	715	300	共同住宅	有田通線併設	仮設	H14.11.14	道路より	要本調査
14-206		14-2	608	H14.12.13	早良 小田原1丁目4200-一	204		共同住宅	有田心通線併設	仮設	H15.1.7	道路より	換工工事
14-208		14-2	740	H15.01.17	早良 新7丁目889-1・3	961		共同住宅	東通線併設	仮設	H15.1.22	道路より	換工工事
14-209		14-2	689	H14.12.24	早良 田村4丁目979-1, 977-1	2092		共同住宅	田村通線併設	仮設	H15.1.20	道路より	換工工事
14-203		14-2	718	H15.01.10	早良 田原2丁目157-1	596		売地	田原通線併設	仮設	H15.1.20	包蔵地外	換工工事
14-205		14-2	729	H15.01.15	早良 小田原1丁目298-15	847		未定	有田心通線併設	仮設	H15.1.28	道路より	換工工事
14-206		14-2	733	H15.01.16	早良 小田原1丁目108-1	178		店舗	有田通線併設	仮設	H15.1.28	道路より	換工工事
14-209		14-2	744	H15.01.20	早良 次郎丸1丁目17-1	329		専用住宅	次郎丸心通線併設	仮設	H15.2.4	道路より	換工工事
14-279		14-2	743	H15.01.20	早良 重徳2丁目665	692		税金納付	重徳村下通線併設	仮設	H15.2.13	道路より	条件付き
14-286		14-2	702	H15.02.07	早良 大寺町西字上/第969番1	304	62	集会所	幸池通線併設	仮設	H15.2.19	道路より	換工工事
14-292		14-2	769	H15.01.28	早良 重入瀬1丁目879-1, 879, 889-2, 891-2	2923		併設	熊本通線併設	仮設	H15.2.25	道路より	換工工事
14-305		14-2	815	H15.02.20	早良 有田3丁目46-149-一	149		専用住宅	有田通線併設	仮設	H15.3.4	有無不明	換工工事
14-312		14-2	862	H15.03.10	早良 千歳6丁目543-18	152		専用住宅	野宮通線併設	仮設	H15.3.20	道路より	換工工事
14-313		14-2	887	H15.03.17	早良 田村6丁目121-7	4378	269	保育所改修	田村通線併設	仮設	H15.3.19	道路より	換工工事
14-319		14-2	849	H15.03.14	早良 西人瀬1丁目239-2・5	1442		宗教法人会館外・設計不明	南末通線併設	仮設	H15.3.24	道路より	条件付き
14-319		14-2	869	H15.03.04	早良 西人瀬1丁目239-6	1537		平明	南末通線併設	仮設	H15.3.24	道路より	条件付き
14-32		14-2	51	H14.04.26	早良 小田原1丁目873,377,382-2	212		専用住宅	有田通線併設	仮設	H14.5.14	道路より	工事立会
14-320		14-2	846	H15.03.04	早良 権臣177-10-一部份	915		要局	権臣3通線併設	仮設	H15.3.27	道路より	換工工事
—		14-2	174	H14.06.14	早良 重徳1丁目901	2011	100	事務所	重徳村下通線併設	舗装	H14.6.26	道路より	換工工事
14-2		14-2	840	H15.03.03	早良 南3丁目72番3	157		専用住宅	有田通線併設	仮設	H15.3.18	道路より	要本調査

＜城南区＞

試案番号	副試案番号	副試案番号	交付番号	交付日	申請地	申請地 面積	工事 費額	事業名	道路名	処理 施設	調査・立会又は 試案日	調査・立会又は 試案結果	備考
14-001		13-2	948	H14.03.20	城崎 赤山6丁目12-4,7-5	276		売地	赤山通線併設	仮設	H14.4.4	道路より	換工工事
14-010		13-2	803	H14.01.15	城崎 荒川1丁目269-270	800.3		専用住宅	飯倉通線併設	仮設	H14.4.25	道路より	換工工事
14-065		14-2	100	H14.06.19	城崎 田原2丁目329-3	142		売地	田原心通線併設	仮設	H14.7.4	道路より	換工工事
14-071		14-2	213	H14.07.1	城崎 田原2丁目28-6	1296	103	機庫、庫、専ら別荘併設	田原心通線併設	仮設	H14.7.11	有無不明	換工工事
14-094		14-2	245	H14.07.15	城崎 七郎6丁目359-45	280		共同住宅	飯倉心通線併設	仮設	H14.8.9	道路より	換工工事
14-117		14-2	347	H14.08.22	城崎 野原6丁目419	283	99	共同住宅	赤山通線併設	仮設	H14.8.3	道路より	換工工事
14-117		14-2	347	H14.08.22	城崎 野原6丁目419	283	99	共同住宅	赤山通線併設	仮設	H14.8.12	道路より	換工工事
14-119		14-2	401	H14.08.17	城崎 赤山6丁目215-4	148		専用住宅	赤山通線併設	仮設	H14.8.19	道路より	換工工事
14-122		14-2	446	H14.10.02	城崎 権井川3丁目409-16	331		要局	権井川心通線併設	舗装	H14.11.5	道路より	条件付き
14-136		14-2	428	H14.08.25	城崎 赤山6丁目-215-2	137		専用住宅	赤山通線併設	仮設	H14.10.23	道路より	換工工事
14-158		14-2	479	H14.10.10	城崎 片江1丁目44-38	2369	166	病院	片江心通線併設	仮設	H14.10.30	道路より	換工工事
14-173		14-2	500	H14.10.18	城崎 赤山6丁目227-3	285		専用住宅	赤山通線併設	仮設	H14.10.30	道路より	換工工事
14-175		14-2	489	H14.10.16	城崎 権井川4丁目329-19	251		専用住宅	飯倉心通線併設	仮設	H14.11.12	道路より	換工工事
14-177		14-2	81	H14.03.14	城崎 荒川1丁目592, 594, 596-600	597		売地後、マンション建設	長化心通線併設	仮設	H14.11.5	道路より	換工工事
14-209		14-2	439	H14.10.01	城崎 長尾5丁目298-1,299-79-一	960	613	共同住宅	長化心通線併設	仮設	H14.11.7	道路より	換工工事
14-209		14-2	439	H14.10.01	城崎 田原5丁目11-19	124		専用住宅	田原心通線併設	仮設	H14.12.2	道路より	工事立会

計画番号	開発箇所	実施時期	中 間 地	敷地 面積	工事 面積	事業名	道 路 名	計画 位置	調査・立会又は 試掘日	得 示	
14-002		14 2 103	H14.06.12	西	475	共同住宅	川島寺道線	試掘	H14.6.27	道路なし	慎重工事
14-074		14 2 220	H14.07.02	西	5460	造成(盛り土)	女京道線	試掘	H14.7.16	道路あり	慎重工事
14-077		14 2 21039	H14.07.01	西	159	専用住宅	戸切道線	試掘	H14.7.16	道路なし	慎重工事
14-116		14 2 0	H14.08.30	西	209	共同住宅	経島道線	試掘	H14.8.10	道路なし	慎重工事
14-133		14 2 391	H14.06.06	西	5202	特別養護老人ホーム等	野方宮内道、戸ノ道線	試掘	H14.5.26	道路なし	開発同意
14-146		14 2 421	H14.08.24	西	496	専用住宅	成沢筋	試掘	H14.10.10	道路なし	慎重工事
14-157		14 2 348	H14.08.22	西	604	専用住宅	鹿谷道線	立会	H14.10.18	道路なし	工事立会
14-161		14 2 390	H14.06.09	西	2403	病院用地	野方岩名道線	試掘	H14.5.26	道路あり	条件付き慎重工事
14-169		14 2 429	H14.06.26	西	540	売契	下山門敷町道線	試掘	H14.10.29	道路あり	条件付き慎重工事
14-185		14 2 422	H14.09.25	西	340	病院	川島寺道線	試掘	H14.11.12	道路あり	条件付き慎重工事
14-185		14 2 423	H14.09.25	西	84	店舗(薬局)	川島寺道線	試掘	H14.11.12	道路あり	条件付き慎重工事
14-204		14 2 568	H14.11.07	西	405	共同住宅	飯尾道線	試掘	H14.11.20	道路なし	慎重工事
14-216		14 2 587	H14.11.11	西	4902	店舗	藤本道線	試掘	H14.12.3	道路あり	慎重工事
14-217		14 2 597	H14.11.11	西	931	分譲住宅	谷上占道線C群	試掘	H14.12.5	道路なし	慎重工事
14-220		14 2 450	H14.01.30	西	9525	病院用地	池久入道線、池永台線	試掘	H14.13.12	道路なし	慎重工事
14-223		14 2 615	H14.11.26	西	1277	専用住宅	川島寺道線	試掘	H14.12.12	道路なし	慎重工事
14-225		14 2 614	H14.11.26	西	7094	事務所・倉庫・車庫	岩間戸原道線	試掘	H14.12.11	道路なし	開発同意
14-257		14 2 582	H14.11.11	西	19122	駐車場	長島山道線	試掘	H14.12.17	道路あり	要本調査
14-255		14 2 53	H14.04.30	西	184	専用住宅	歌島道線	試掘	H15.1.7	道路あり	慎重工事
14-258		14 2 686	H14.12.26	西	331	専用住宅	古武道線	試掘	H15.1.9	道路なし	慎重工事
14-257		14 2 739	H15.01.17	西	2952	特別養護老人	戸切道線	試掘	H15.1.22	道路なし	慎重工事
14-262		14 2 717	H15.01.16	西	1794	ホーム、診療所	橋本一丁目道線	試掘	H15.1.30	道路なし	慎重工事
14-277		14 2 755	H15.01.23	西	919	共同住宅	今宿川道線	試掘	H15.2.6	道路なし	慎重工事
14-290		14 2 773	H15.01.17	西	266	専用住宅	今宿川道線	試掘	H15.2.25	道路なし	慎重工事
14-291		14 2 802	H15.02.14	西	1438	専用住宅	橋本一丁目道線	試掘	H15.2.25	道路なし	開発同意
14-306		14 2 663	H14.12.12	西	338	事務所兼住宅	川島寺道線	試掘	H15.3.11	道路なし	慎重工事
14-311		14 2 793	H15.02.04	西	8550	病院用地	戸切道線	試掘	H15.3.20	道路なし	開発同意
14-321		14 2 864	H15.03.05	西	891	売契	都地道線	試掘	H15.3.27	道路なし	慎重工事
14-322		14 2 876	H15.03.12	西	513	売契	川島寺道線	試掘	H15.3.27	道路あり	条件付き
-		14 2 343	H14.08.20	西	538	専用住宅	古武道線	踏査	H14.9.10	道路あり	慎重工事
-		14 2 511	H14.10.21	西	431	専用住宅	橋本一丁目道線	踏査	H14.11.19	有無不明	慎重工事
-		14 2 791	H15.02.07	西	46866	墓地	相模川道線	踏査	H15.2.25	道路なし	慎重工事
-		14 2 44	H14.04.23	西	979	専用住宅	藤江道線	踏査	H14.4.26	道路あり	慎重工事
-		14 2 219	H14.07.02	西	1350	専用住宅	金太谷道線	踏査	H14.7.10	道路あり	慎重工事
-		14 2 228	H14.7.5	西	377	売契	ノゾリ製鉄入道線	踏査	H14.7.18	道路あり	要協議

<博多区>

計画番号	開発箇所	実施時期	中 間 地	敷地 面積	工事 面積	事業名	道 路 名	計画 位置	調査・立会又は 試掘日	得 示	
14-005		13 2 941	02.03.18	博多	700.34	専用住宅	吉原道線	試掘	H14.4.9	道路なし	慎重工事

棟名等	調査番号	受付番号	受付日	申請書日	申請書	工事期間	事業名	道路名	経過措置	調査・立命又は試験日	備考	
14-006		13 2 302	02.03.13	博多	昭陽町1丁目50-1/2	301.48	共同住宅	博多区道線群	試験	H14.4.15	道路なし	債権工事
14-016		13 2 782	01.12.12	博多	竹下5丁目26-7	437.1	専用住宅	昭陽区道線群	試験	H14.5.9	道路・建築物あり	工事立会
14-024		13 2 964	02.03.29	博多	東野2丁目16-9	210.7	教会	東野八道線群	試験	H15.5.9	有無不明	工事立会
14-027		14 2 84	H14.5.12	博多	昭陽町525, 619	127	店舗付住宅	博多道線群	試験	H14.5.23	道路あり	債権工事
14-030		14 2 61	H14.5.16	博多	昭陽町68番18号	800	テナントビル	博多道線群	試験	H14.5.23	道路あり	要申請
14-035		14 2 35	H14.4.19	博多	東野2丁目121-5, -7	231	専用住宅	東野八道線群	試験	H14.5.28	道路なし	要申請
14-038		14 2 103	H14.4.21	博多	板付4丁目6-5, 6, 7, 12	2639	事務所	板付道線群	試験	H14.6.4	道路なし	債権工事
14-040	0223	13 2 967	02.03.29	博多	昭陽町2丁目19	110.1	専用住宅	昭陽区道線群	試験	H14.6.10	道路なし	要申請
14-051		14 2 152	H14.6.7	博多	博多駅前6丁目26	505	専用住宅	博多道線群	試験	H14.6.20	道路あり	要申請
14-052		14 2 47	H14.5.1	博多	東野町1丁目228	1484.4	工場・店舗付住宅 工場・店舗付住宅 工場・店舗付住宅	比志道線群	試験	H14.5.16	道路なし	債権工事
14-053		14 2 47	H14.4.26	博多	昭陽町1117-1	315	共同住宅	東野八道線群	試験	H14.6.30	道路あり	要申請
14-072		13 2 919	02.03.08	博多	板付4丁目4-1	583	共同住宅	板付道線群	試験	H14.7.4	道路なし	債権工事
14-075		14 2 215	H14.7.2	博多	東野2丁目488-7	1429	売契	東山大道線群	試験	H14.7.18	道路あり	要申請
14-079	0228	13 2 934	02.03.14	博多	元町1丁目29-15	331.87	倉庫兼住宅	南八道線群	試験	H14.7.9	道路あり	要申請
14-082		14 2 211	H14.7.1	博多	昭陽町2丁目17-10, -12, -15, -17	358	倉庫兼住宅	昭陽区道線群	試験	H14.7.16	道路あり	債権工事
14-086		14 2 192	H14.6.21	博多	昭陽町3丁目10-2	165	専用住宅	比志道線群	試験	H14.8.1	道路あり	要申請
14-089		14 2 254	H14.7.18	博多	博多駅前6丁目118, 180	1388	共同住宅	比志道線群	試験	H14.8.1	道路あり	要申請
14-095		14 2 262	H14.7.18	博多	博多駅前6丁目17, 18-1	1031	店舗兼住宅	比志道線群	試験	H14.7.2	道路あり	要申請
14-099	0233	14 2 148	H14.6.6	博多	山王2丁目17-2, 44	2863	事務所・工場 事務所・工場	比志道線群	試験	H14.7.2	道路あり	要申請
14-100		14 2 283	H14.7.19	博多	東野町3丁目370, 371	221	共同住宅	東野道線群	試験	H14.7.29	4-2-434と同一	工事立会
14-102	0230	13 2 945	02.03.19	博多	竹下3丁目398, 598	57	未定	東野道線群	試験	H14.7.19	道路あり	工事立会
14-103		14 2 305	H14.6.6	博多	昭陽町125, 126	263	倉庫	東野道線群	試験	H14.7.25	道路あり	要申請
14-105		14 2 171	H14.6.13	博多	昭陽町1077-13	261	専用住宅	博多道線群	試験	H14.8.20	道路あり	要申請
14-105		14 2 172	H14.6.14	博多	東野2丁目1-62, 63	320	専用住宅	高道線群	試験	H14.8.22	道路あり	債権工事
14-106		14 2 271	H14.7.22	博多	昭陽町136	97	マンション	博多道線群	試験	H14.8.27	有無不明	条件付債権工事
14-107		14 2 317	H14.6.9	博多	東野町3丁目3-5	291	売契	東野道線群	試験	H14.8.27	道路あり	債権工事
14-108	0244	14 2 291	H14.7.30	博多	古戸野87	405	共同住宅(賃貸マンション)	博多道線群	試験	H14.8.20	道路あり	要申請
14-112		14 2 351	H14.6.23	博多	東野2丁目0-1, 0-4	4864	売契	井田中心道線群	試験	H14.9.3	道路あり	要申請
14-114		14 2 318	H14.8.12	博多	博多駅前2丁目27, 28	106	売契	比志道線群	試験	H14.9.10	道路あり	要申請
14-123		14 2 380	H14.6.6	博多	東野2丁目14-11	202	専用住宅	東野八道線群	試験	H14.9.17	道路あり	債権工事
14-126		14 2 377	H14.6.5	博多	山王1丁目129-1	558	売契	比志道線群	試験	H14.9.24	道路なし	債権工事
14-127	0234	14 2 354	H14.8.26	博多	昭陽町2丁目7-11	292	共同住宅	昭陽区道線群	試験	H14.9.17	道路あり	要申請
14-134	0233	14 2 329	H14.8.19	博多	昭陽町2丁目24-1	1359	共同住宅	昭陽区道線群	試験	H14.9.25	道路あり	債権工事
14-135		14 2 386	H14.6.9	博多	昭陽町1丁目41, 44, 45-2	648	売契(マンション兼店舗)	昭陽区道線群	試験	H14.10.3	道路なし	債権工事
14-144		14 2 358	H14.6.27	博多	昭陽町3丁目25-5	6000	事務所付専用住宅	昭陽区道線群	試験	H14.10.8	道路なし	債権工事
14-147		14 2 292	H14.7.31	博多	光任町3丁目25-5	160	専用住宅	中ノ町道線群	試験	H14.10.3	道路なし	債権工事
14-147		14 2 330	H14.8.12	博多	東野町3丁目25-5	160	専用住宅	東野八道線群	試験	H14.10.8	道路なし	債権工事
14-148		14 2 410	H14.6.19	博多	昭陽町155-1, 2, 3, 4	139	共同住宅	博多道線群	試験	H14.10.8	道路あり	要申請

長瀬市の 建設番号	建設時期	交付番号	交付日	申請地	地積 面積	工費 総額	事業名	道路名	地積 面積	設置 位置	設置・立寄方法 の区分	備考
14-151		14 2 222	H14.07.05	南多	1079				試験	H14.8.6	道路あり	工事立会
14-152		14 2 408	H14.09.10	南多	202				試験	H14.10.16	道路あり	鎮工工事
14-156		14 2 412	H14.09.19	南多	2134				試験	H14.10.15	道路あり	鎮工工事
14-159		14 2 425	H14.09.25	南多	5050				試験	H14.10.22	道路あり	鎮工工事
14-166		14 2 36	H14.04.19	南多	210				試験	H14.9.12	道路あり	鎮工工事
14-168		14 2 478	H14.10.10	南多	254				試験	H14.10.24	道路あり	要本調査
14-171		14 2 393	H14.09.11	南多	1028				試験	H14.11.6	道路あり	鎮工工事
14-181	0288	14 2 368	H14.09.04	南多	1241	381			試験	H14.10.8	道路あり	要本調査
14-182		14 2 461	H14.10.03	南多	531	192			試験	H14.11.7	道路あり	鎮工工事
14-183		14 2 525	H14.10.25	南多	224	73			試験	H14.11.7	要確認	鎮工工事
14-195		14 2 433	H14.09.27	南多	1312				試験	H14.10.24	道路あり	要協議
14-195		14 2 433	H14.09.27	南多	1312				試験	H14.11.19	道路あり	要協議
14-197		14 2 471	H14.10.08	南多	19946				試験	H14.11.13	道路あり	要本調査
14-199		14 2 547	H14.11.01	南多	1249				試験	H14.11.13	道路あり	要本調査
14-207		14 2 508	H14.11.19	南多	147				試験	H14.11.28	道路あり	鎮工工事
14-210		14 2 558	H14.11.05	南多	365	200			試験	H14.12.3	道路あり	鎮工工事
14-213		14 2 602	H14.11.19	南多	162				試験	H14.12.5	道路あり	鎮工工事
14-215		14 2 594	H14.11.18	南多	347	63			試験	H14.12.3	道路あり	鎮工工事
14-220		14 2 605	H14.11.20	南多	245				試験	H14.12.19	道路あり	鎮工工事
14-229		14 2 657	H14.12.10	南多	184				試験	H15.1.9	道路あり	鎮工工事
14-242		14 2 369	H14.09.17	南多	113				試験	H15.1.16	道路あり	条件付き鎮工工事
14-246		14 2 600	H14.11.19	南多	1588	801			試験	H15.1.17	道路あり	条件付き鎮工工事
14-246		14 2 664	H14.12.12	南多	1594	976			試験	H15.1.17	道路あり	工事立会
14-248		14 2 741	H15.01.17	南多	116				試験	H15.1.15	道路あり	工事立会
14-254		14 2 682	H14.12.20	南多	89				試験	H15.1.23	道路あり	要本調査
14-260		14 2 547	H14.11.01	南多	1249				試験	H15.1.23	道路あり	要本調査
14-261		14 2 780	H15.01.15	南多	228				試験	H15.1.26	道路あり	鎮工工事
14-273		14 2 714	H15.01.10	南多	2335				試験	H15.2.6	道路あり	鎮工工事
14-274		14 2 775	H15.01.30	南多	965	974			立会	H15.2.6	道路あり	鎮工工事
14-278		14 2 758	H15.01.24	南多	914				試験	H15.2.13	道路あり	鎮工工事
14-280		14 2 789	H15.02.07	南多	1864				試験	H15.2.13	道路あり	要協議
14-281		14 2 726	H15.01.15	南多	488				試験	H15.2.16	道路あり	要協議
14-282		14 2 727	H15.01.15	南多	268				試験	H15.2.4	道路あり	要協議
14-284		14 2 776	H15.01.30	南多	274				試験	H15.2.4	道路あり	工事立会
14-294		14 2 817	H15.02.21	南多	1800				試験	H15.2.20	道路あり	条件付き
14-299		14 2 719	H15.01.10	南多	587	360			試験	H15.3.25	道路あり	鎮工工事
14-318		14 2 818	H15.02.21	南多	401	207			試験	H15.3.13	道路あり	鎮工工事
14-324		14 2 643	H14.10.23	南多	242				試験	H15.1.30	道路あり	鎮工工事

試験番号	調査番号	受付番号	受付日	申請地	申請面積	工事面積	事業名	選 挙 区	候補者	期票・立会又は 試験日	期票・立会又は 試験結果	備 考
14-326	14	2	713	H15.1.9	博多	1272	取組	那珂谷休遊部	試験	H15.2.4	選勝あり	慎重工事
14-327	14	2	676	H14.12.18	博多	162	専用住宅	栗野心遊部	試験	H15.1.7	選勝あり	新協議
14-327	14	2	677	H14.12.18	博多	162	専用住宅	栗野心遊部	試験	H15.1.7	選勝あり	新協議
14-328	14	2	861	H15.3.10	博多	162	栗野心遊部	栗野心遊部	試験	H15.3.20	選勝あり	要本調査
14-425	14	2	825	H15.2.25	博多	262	売却後専任または共同住宅	那珂谷遊部	試験	H15.3.13	選勝あり	慎重工事
—	—	—	—	—	—	159	駐車場造成	尾ヶ瀬古墳	立会	H14.12.4	選勝なし	工事立会
—	—	—	—	—	—	992	倉庫増築	上月園1号遊部	立会	—	—	工事立会
14-2	14	2	118	H14.5.27	博多	503	舟水1丁目339、1339、6332、4332-5	栗野心遊部	試験	H14.6.18	選勝なし	開会同意
14-2	14	2	603	H14.11.20	博多	109	共同住宅	那珂谷遊部	試験	H14.12.5	選勝あり	開会同意
14-2	14	2	899	H15.3.20	博多	6612	店舗	比佐遊部	試験	H15.3.24	選勝あり	要本調査

<東区>

試験番号	調査番号	受付番号	受付日	申請地	申請面積	工事面積	事業名	選 挙 区	候補者	期票・立会又は 試験日	期票・立会又は 試験結果	備 考
14-009	0245	13	2	931	02.03.12	東	福岡3丁目3358-10-一部	福岡3丁目3358-10-一部	試験	H14.4.22	選勝あり	要本調査
14-014	14	2	40	H14.4.22	東	190	福岡2丁目3380	専用住宅	試験	H14.5.2	選勝なし	開会同意
14-019	14	2	58	H14.5.1	東	43500	福岡1丁目22第1号	元遊部	試験	H14.5.14	選勝あり	慎重工事
14-025	14	2	28	H14.4.17	東	414	香梅4丁目2083-6-7、-11、-12、-15	香梅入遊部	試験	H14.5.16	選勝なし	慎重工事
14-081	14	2	225	H14.7.5	東	252	香梅1丁目620-36	香梅遊部	試験	H14.7.23	選勝なし	慎重工事
14-096	14	2	267	H14.7.19	東	2705	土井2丁目109.10.11.12-1~3	物納	試験	H14.8.6	選勝なし	開会同意
14-113	14	2	244	H14.7.12	東	88	福岡1丁目28-11	レンガ小建物を建設	試験	H14.9.10	選勝あり	工事立会
14-120	14	2	233	H14.7.9	東	391	三宮1丁目1370、1371-1、1371-3	専用住宅	試験	H14.9.17	有無不明	立会
14-125	14	2	365	H14.9.3	東	863	三宮1丁目1383、1379	売買	試験	H14.9.17	選勝あり	新協議
14-128	14	2	369	H14.9.5	東	2064	麻原、納付費改築	元遊部	試験	H14.9.19	選勝あり	要本調査
14-164	14	2	492	H14.10.17	東	6900	福岡3-25-3	広谷寺	立会	H14.10.29	—	工事立会
14-167	14	2	467	H14.10.7	東	790	馬場4丁目3-25	元遊部	試験	H14.10.31	選勝なし	慎重工事
14-200	14	2	552	H14.11.5	東	630	香梅4丁目1117-1	共同住宅	試験	H14.11.18	選勝なし	慎重工事
14-205	0252	14	2	367	H14.9.3	東	福岡3丁目3380	賃貸マンション	試験	H14.11.17	選勝あり	要本調査
14-222	14	2	623	H14.11.28	東	472	香梅4丁目2119-4	ガリンスワンドフ	試験	H14.12.10	選勝なし	慎重工事
14-232	0260	13	2	915	02.03.06	東	福岡3丁目199-49	共同住宅(賃貸)	試験	H14.12.19	選勝あり	要本調査
14-234	14	2	661	H14.12.11	東	502	下原4丁目907-6	高野遊部	試験	H14.12.26	選勝あり	要本調査
14-249	14	2	565	H14.11.7	東	1063	福岡3丁目284-7	高野遊部	試験	H14.12.26	選勝あり	要本調査
14-264	14	2	695	H14.12.25	東	204	名島3丁目2438-1	名島遊部	試験	H15.2.6	選勝あり	慎重工事
14-272	14	2	791	H15.2.4	東	551	土井2丁目258-1、257-4	高田建設校地	試験	H15.2.6	選勝あり	慎重工事
14-275	14	2	441	H14.10.1	東	705	福岡3丁目2482、2432-1、2橋	共同住宅	立会	H15.1.14	選勝あり	工事立会
14-300	14	2	767	H15.1.28	東	8266	博多駅前2丁目699-3	包島神外	試験	H14.10.29	選勝あり	要本調査
14-323	14	2	712	H15.1.9	東	404	福岡1丁目2031、2029-1、2、30-一部	共同住宅	試験	H15.3.6	包島神外	開会同意
14-325	14	2	835	H15.2.28	東	165	福岡1丁目35-3	福岡遊部	試験	H15.3.11	選勝あり	要本調査
14-335	14	2	82	H14.5.14	東	752	三宮2丁目176-1	三宮遊部	試験	H14.5.28	選勝なし	慎重工事
14-940	14	2	119	H14.5.27	東	632	名島3丁目2089-3、-4、-5	心身障害者福祉作業所	試験	H14.6.6	選勝なし	慎重工事
14-945	14	2	15	H14.4.10	東	190	志賀原505-408-3、408-10-一部	専用住宅	試験	H14.6.13	選勝なし	慎重工事
14-987	14	2	167	H14.5.12	東	169	福岡1丁目2829-2	福岡遊部	試験	H14.7.25	選勝あり	慎重工事

計画番号	調査番号	交付番号	交付日	申請地	申請面積	工事面積	事業名	通称名	収容頭数	開業・立寄又は試験日	開業・立寄又は試験日	備考
—	0247	14 2 611	H14.11.25	東 船越3丁目9-33	65	106	長巻住宅	船越通称	—	—	—	遊積あり 要本調査
—	—	14 2 67	H14.5.9	東 多々島1丁目726-1	216	—	共済住宅	多々島	—	H14.5.16	—	遊積なし 要本調査
—	0245	14 2 586	H14.11.12	東 船越3丁目3366-1	188	662.47	共済住宅	船越通称	—	H14.10.28	—	遊積あり 要本調査

＜南区＞

計画番号	調査番号	交付番号	交付日	申請地	申請面積	工事面積	事業名	通称名	収容頭数	開業・立寄又は試験日	開業・立寄又は試験日	備考
14-003	13 2 921	H14.3.8	南 大橋3丁目310-1・310-3・310-6	—	662.47	—	共済住宅	三宅公園	—	平成14年4月2日	—	遊積なし 慎重工事
14-004	13 2 944	02.03.18	南 船越1丁目777-1・5・82-1・4・87-11	1,493.12	—	—	専用住宅	北松通称	—	平成14年4月2日	—	遊積なし 慎重工事
14-013	14 2 23	H14.4.14	南 野多目2丁目709	1312	—	—	専用住宅	野多目通称	—	H14.4.26	—	遊積なし 慎重工事
14-017	14 2 45	H14.4.23	南 五十川2丁目3038-209の一部・3038-21	68	—	—	専用住宅	五十川通称	—	H14.5.9	—	未確定 工事立会
14-018	14 2 60	H14.5.2	南 白根1丁目178-1	418	—	—	変置	白根通称	—	H14.5.14	—	遊積あり 慎重工事
14-029	14 2 63	H14.5.7	南 老司1丁目412-3,412-6	337	—	—	専用住宅	野多目公園	—	H14.5.21	—	遊積なし 慎重工事
14-036	14 2 11	H14.4.5	南 五十川2丁目229-2・219-4	60	—	—	専用住宅	五十川通称	—	H14.4.30	—	遊積あり 要本調査
14-036	14 2 64	H14.5.7	南 井尻5丁目396-5	173	—	—	専用住宅	井尻公園	—	H14.5.28	—	遊積あり 要本調査
14-039	14 2 106	H14.5.21	南 南大橋1-26-8	196	—	—	共済住宅	三宅公園	—	H14.6.4	—	遊積なし 慎重工事
14-050	14 2 134	H14.6.3	南 野田3丁目97・98・99	1072	—	—	分譲マンション	中村野通称	—	H14.6.20	—	遊積なし 慎重工事
14-055	14 2 175	H14.6.14	南 橋平3丁目221-1	212	—	—	共用住宅	橋平通称	—	H14.6.25	—	遊積なし 慎重工事
14-060	14 2 166	H14.6.12	南 三宅2丁目996-1・996-7	260	—	—	専用住宅	三宅公園	—	H14.7.11	—	遊積あり 慎重工事
14-110	14 2 200	H14.6.25	南 大橋2丁目674-1	500	—	—	未定	大橋公園	—	H14.8.29	—	遊積あり 慎重工事
14-124	14 2 133	H14.6.3	南 井尻2丁目120-6	33	—	—	専用住宅	五十川通称	—	H14.9.17	—	遊積あり 慎重工事
14-132	14 2 389	H14.9.9	南 片原7丁目1481-166	212	—	—	専用住宅	西の堤通称	—	H14.9.24	—	遊積なし 慎重工事
14-142	14 2 430	H14.9.26	南 中村野3丁目261	402	—	—	専用住宅	中村野通称	—	H14.10.1	—	遊積あり 慎重工事
14-149	14 2 381	H14.9.5	南 野越3丁目42-1	2,666.00	—	—	校舎増築	外木原通称	—	H14.10.10	—	遊積なし 慎重工事
14-162	14 2 438	H14.9.30	南 白根3丁目42-1	476	299	—	専用住宅	五十川通称	—	H14.10.29	—	遊積なし 慎重工事
14-174	14 2 509	H14.10.21	南 野越3丁目205	394	173.3	—	専用住宅	中村野通称	—	H14.11.11	—	遊積あり 慎重工事
14-178	0250	14 2 544	H14.11.1	南 大橋1丁目1359-3	276	191	専用住宅	三宅公園	—	H14.11.8	—	遊積あり 要本調査
14-179	0269	14 2 545	H14.11.1	南 大橋1丁目1357-7	179	130	専用住宅	三宅公園	—	H14.11.5	—	遊積あり 要本調査
14-180	0251	14 2 546	H14.11.1	南 大橋1丁目1357-8	174	119	専用住宅	三宅公園	—	H14.11.5	—	遊積あり 要本調査
14-186	14 2 526	H14.10.25	南 野田2丁目225の1-一部	153	27	—	地下(地下のみ)車庫	野田入通称	—	H14.11.14	—	遊積なし 慎重工事
14-186	14 2 527	H14.10.25	南 野田2丁目225の1-一部	133	27	—	地下(地下のみ)車庫	野田入通称	—	H14.11.14	—	遊積なし 慎重工事
14-198	14 2 506	H14.10.21	南 五十川2丁目17-9	717	244	—	専用住宅	五十川通称	—	H14.11.14	—	遊積あり 工事立会
14-201	14 2 562	H14.11.7	南 野越3丁目238	194	—	—	(二)非居住宅	中村野通称	—	H14.11.21	—	遊積なし 慎重工事
14-206	14 2 583	H14.11.12	南 野越3丁目356-50の一部	133	—	—	専用住宅	野越通称	—	H14.11.26	—	遊積あり 慎重工事
14-211	14 2 613	H14.11.25	南 南大橋1丁目15-15	416	—	—	変置(専用住宅)	三宅公園	—	H14.12.3	—	遊積なし 慎重工事
14-212	14 2 538	H14.11.1	南 井尻5丁目143-6・63	179	—	—	専用住宅	井尻通称	—	H14.12.5	—	遊積あり 慎重工事
14-240	14 2 651	H14.12.5	南 五十川2丁目576-1・-3	586	—	—	倉庫	五十川通称	—	H15.1.14	—	遊積なし 慎重工事
14-244	14 2 619	H14.11.27	南 五十川2丁目25-26	309	184	—	社庫	五十川通称	—	H15.1.14	—	遊積あり 慎重工事
14-245	14 2 33	H14.4.18	南 老司1丁目627-201履住办	6770	—	—	共用住宅	老司公園	—	H14.8.23	—	遊積なし 階段設置
14-253	14 2 536	H14.10.31	南 五十川2丁目27-3	143	—	—	専用住宅	五十川通称	—	H15.1.21	—	遊積なし 慎重工事
14-265	14 2 684	H14.12.20	南 大橋1丁目576-2	900	296	—	遊積あり共同住宅	大橋通称	—	H15.1.21	—	遊積なし 階段設置
14-283	14 2 700	H14.12.27	南 五十川1丁目648-1	3,480.1	200	—	倉庫増築	那珂通称	—	H15.2.20	—	遊積なし 慎重工事

試験番号	調査番号	交付番号	交付日	申請地	積込 面積	工場 面積	事業名	建設名	取得 時期	調査・立命又は 試験結果	備 考	
14-288		14 2 779	H15.2.3	南	726		売買	原形改築棟	既設	H15.2.27	遺構なし	積込工事
14-289		14 2 780	H15.2.3	南	469		専用住宅	和田入蔵神庫	既設	H15.2.27	遺構あり	築地掘
—	0225	14 2 66	H14.5.8	南	132	68	専用住宅	弥水改築棟	調査	H14.5.14	遺構あり	築地掘査
—		14 2 220	H14.7.4	南	3700		納税滞滞	寺壇A・B古庫群	調査	H14.7.11	遺構なし	積込工事

II. 発掘調査の概要

本市における埋蔵文化財の発掘調査は、西部地域（早良区、城南区、西区）を埋蔵文化財課第一係、東部地区（中央区、博多区、東区、南区）を同第二係が担当している。また、西区元岡一帯にかかる九州大学移転予定地については、別途担当課（大規模事業担当）を置き調査を実施している。

発掘調査にあたっては、本市の「整理収蔵要項」に従い、個々の遺跡に調査番号をつけ、遺構・遺物及び記録類の登録を行っている。調査番号は、西暦年度下2桁と年度中の番号を組み合わせた4桁で表している。1遺跡の調査が複数年にまたがる場合は、開始年度の登録番号のみとなる。なお、複数の遺跡を同一調査事業で調査する場合は、原則として遺跡毎に調査番号を付している。

1) 平成14年度の概要

市域内で実施された本年の発掘調査件数は、13年度からの継続事業が4件、14年度新規事業が62件の計66件である。所管課別では、埋蔵文化財課による公共及び民間開発に伴う調査が61件（13年度からの継続事業3件、14年度新規事業58件）、大規模事業担当課による九州大学移転予定地の発掘調査が3件、文化財整備課事業では史跡指定地の現状変更に伴う確認調査が2件である。このほか、福岡県教育委員会民間調査会社による調査各1件があった。

予算別では、国庫補助事業が28件（国補21件、国補+民間受託6件、国庫+令達1件）、民間受託事業が18件、公共受託事業が16件、令達事業が10件、市単費事業が1件である。

調査件数は、博多区が最も多く19件、西区11(3)件、早良区10件、城南区1件、中央区2(1)件、東区10件、南区7件である。博多区では博多遺跡群を主として、那珂・比恵遺跡等の周辺での調査が顕著である。東区においては昨年度同様箱崎遺跡の調査事例が増加しつつある（()内は13年度からの継続事業）。

表1. 事前審査件数の推移（当該年度新規受付件数）

	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度
民間	35(2)	54(2)	43(4)	37	43
現場整備	3	1	1	2	1(3)
公共	34(5)	33(3)	34(4)	22	18(1)
合計	71	88	76(1)	61	62(4)

表2. 発掘調査面積の推移 (m)

	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度
民間	9,033	19,842	28,473.6	11,465	12,421
現場整備	2,999	7,843	399.4	6,200	39,799
公共	55,032	73,849	71,055.0	32,663	36,914
合計	67,064	101,534	99,928.0	50,328	89,134

表3. 平成14年度事前審査内訳（事業及び区別一覧）

区名	事業種別	命達	受託	調査主体別内訳					総計	埋蔵文化財	大規模事業担当	遺跡群担当	文化財整備課	福岡県
				補助	補助民受	補助令達	市単費	小計						
東区	公共	3	0	0	0	0	0	3						
	民間	0	0	4	3	0	0	7		10				
博多区	公共	1	2	0	0	0	0	3						
	民間	9	4	1	1	0	1	15		19		1	(1)	
中央区	公共	0	0	1	0	0	0	1						
	民間	0	0	0	0	0	0	0		1				
南区	公共	2	0	0	0	0	0	2						
	民間	2	7	0	1	0	0	9		11				
早良区	公共	1	0	0	0	1	0	2						
	民間	0	3	3	1	0	0	7		10				
城南区	公共	0	0	0	0	0	0	0					1	
	民間	0	1	0	0	0	0	1		1				
西区	公共	2	4	1	1	0	0	7						
	民間	0	1	1	1	0	0	3		10	6	4		
小岩	公共	9	6	2	0	1	0	18						
	民間	0	16	19	6	0	1	42		62	4	1	0(1)	1
合計		9	22	21	6	1	1	60		1				

II. 発掘調査の概要



平成14年度発掘調査地点位置図

2) 平成14年度発掘調査一覧

調査番号	番付番号	遺跡名	遺跡略称・大数	調査原因	予算種別	所在地	申請面積(m ²)	対象面積(m ²)	調査面積(m ²)	占積	調査開始	調査終了	担当者
0201	13-2-757	赤木原遺跡	YNB 6	図書館建築	民受	南 白根3丁目42-1	234	265	265	HI4.4.1	HI4.5.17	長家	
0202	13-2-414	鶴崎遺跡	HKZ 29	共同住宅(R.C10F)	国補	東 鶴崎3丁目2388・2440	579	80	80	HI4.4.1	HI4.4.26	松浦	
0203	12-1-136	大崎巨遺跡	OOE 9	長秋太平佛造詣造詣事業	令達	大崎4丁目14-41	8800	1400	830	HI4.4.1	HI4.7.30	上角	
0204	12-1-202	元岡・桑原遺跡群	MOT 29	大学移転用地造成工事	公受	元岡・桑原	2750000	4000	4000	HI4.4.4	HI5.9.30	星野	
0205	12-2-478	原遺跡群	HAA 22	共同住宅建築	民受	原8丁目	1662	582	582	HI4.4.1	HI4.4.26	池田	
0206	13-2-468	野芥遺跡	NKE 11	病院建築	受託	早良 野芥5丁目208-1外9筆	14784	527	2	HI4.4.8	HI4.7.19	阿部	
0207	13-2-478	比恵遺跡	HIE 78	給油所建設	国補	博多 山王2丁目531・51	1909	58	58	HI4.4.15	HI4.4.24	本田	
0208	13-2-838	寺島遺跡	TRS 5	共同住宅建築	国補	南 横平南町10	223	89	89	HI4.4.1	HI4.4.12	井上	
0209	13-1-820	次郎原石遺跡群	JRT 2	道路新設(有田直留線)	令達	早良 次郎丸2丁目	2830	2830	2830	HI4.4.15	HI4.7.16	杉山	
0210	—	鶴崎遺跡	HKZ 30	土地区画整理	令達	東 鶴崎1丁目、馬出5丁目	—	5000	5000	HI4.4.9	HI5.5.13	佐藤	
0211	12-1-271	権原入遺跡	SEA 2	国庫整備	国補・令達	早良 大字権原1418-1地	800	1162	1162	HI4.4.12	HI4.7.26	池田	
0212	13-2-705	東油山古墳群I	HAK-C 1	老人健康保健施設建設	受託	南 松原6丁目	6381	598	2	HI4.4.26	HI4.7.31	荒牧	
0213	13-2-865	有田遺跡群	AKT 203	専用住宅建築	国補	早良 小田部5丁目82-1・-2	341	119	119	HI4.5.7	HI4.5.27	本田	
0214	13-2-931	鶴崎遺跡	HKZ 31	共同住宅建築	民受・国補	東 鶴崎3丁目3358-10一筆	198	198	80	HI4.5.9	HI4.6.14	松浦	
0215	14-2-11	五十川遺跡群	GJK 9	専用住宅	国補	南 五十川2丁目220・219-4	60	60	42	HI4.5.10	HI4.5.20	山崎六	
0216	10-1-273	鹿田大谷遺跡群	OTN 6	都市計画道路阿蘇阿蘇線 0404号地、東工管理区内の 北条・遺跡地区に古墳群	令達	博多 東平尾2丁目498-7	8000	2500	355	HI4.5.8	HI4.7.13	井上	
0217	13-2-652	那珂遺跡群	NAK 84	確認調査	確認調査	博多 那珂2丁目13番2号地	662	—	—	HI4.5.10	HI4.5.14	田上・久住	
0218	—	福岡城跡	FUE 49	確認調査	国補	中央 城内1-1	—	1000	1	HI4.5.13	HI5.3.31	大塚	
0219	—	下月原C遺跡群	SHC 8	調査池建設	公受	博多 下月原池内	65000	7400	7400	HI4.5.18	HI5.3.31	山崎龍・荒牧	
0220	13-2-620	博多遺跡群	HKT 138	共同住宅(店舗付)	民受	博多 赤坂町35-36-37	385	272	272	HI4.6.3	HI4.8.23	本田	
0221	13-2-752	博多遺跡群	HKI 139	ワンルーマンマンション建設	民受	博多 赤坂町627-1	544	410	410	HI4.6.7	HI4.8.23	長家	
0222	13-2-807	徳木古墳群	TKK 4	農園造成	国補	西 大字赤木字7928-19・-41	530	249	2	HI4.6.14	HI4.8.29	藤本	
0223	13-2-967	舞鶴原遺跡群	ZSK 12	専用住宅	国補	博多 昭陽町2丁目19	110	29	29	HI4.6.18	HI4.6.28	松浦	
0224	12-1-1014	鶴崎遺跡群	HKZ 32	都市計画道路福岡阿蘇線	令達	東 鶴崎3丁目池内?	—	—	—	HI4.4.22	HI4.9.20	中村	
0225	14-2-466	赤木原遺跡群	YNB 7	専用住宅	国補	南 鶴崎1丁目36-22	132	68	56	HI4.6.25	HI4.7.2	吉武	
0226	14-2-99	周船寺遺跡群	SSI 14	共同住宅建築	民受・国補	西 飯式字井野1921番2	1342	488	488	HI4.8.1	HI4.9.20	阿部	
0227	14-2-183	下月原D遺跡群	SOM 3	分譲共同住宅	民受	西 下月原3丁目470	1499	1029	1029	HI4.8.1	HI4.11.10	杉山	

0228	13-2-404	南八幡道群	MFM	11	共同住宅建築	民受・国補	博多	元町1丁目20-15	200	170	H14.8.1	H14.8.23	上角	
0229	13-1-77	五十川道群	GJK	10	道路新設	命達	南	五十川2丁目26.30.31.33	7480	1320	H14.8.19	H15.2.28	横山	
0230	13-2-945	有田道群	NAK	85	防音壁	委託	博多	竹3丁目39外59番	111	161	H14.8.27	H14.9.18	井上	
0231	14-2-178	有田道群	AKT	204	店舗併用住宅	国補	早良	有田1丁目25-13、-12	222	74	H14.8.19	H14.8.30	松浦	
0232	14-2-33	老古古墳	RZK	5	(共同住宅)	国補	南	鹿毛町4丁目27-20-一部576.081-a	576.081-a	235	H14.8.23	H14.8.26	吉武	
0233	14-2-148	比恵道群	HIE	79	整備工堀、豊里堀、ショールーム	委託	博多	山王2丁目7-2、44	1026	880	H14.9.4	H14.12.4	長家	
0234	14-2-354	箱崎道群	ZSK	13	共同住宅建築	国補	博多	新和町2丁目7-11	292	167	H14.9.26	H14.10.11	古武学	
0235	14-2-96	比恵道群	HIE	80	共同住宅建築	委託	博多	博多駅前3丁目50番	377	166	H14.9.24	H14.11.22	中村	
0236	14-2-369	箱崎道群	HKZ	33	庫裏、納付室改築	国補	東	馬出5丁目202、503	2063	140	H14.9.24	H14.10.8	本田	
0237	14-2-110	藤崎道群	FUA	32	共同住宅建築	民受	早良	藤崎1丁目12-1、2、55-1	1724	501	H14.10.1	H15.1.31	池田	
0238	14-2-253	博多道群	HKZ	140	共同住宅建築	民受	博多	上呉服町161-4	251	133	H14.10.10	H14.12.18	井上	
0239	14-2-254	比恵道群	HIE	81	共同住宅建築	民受	博多	博多駅前1丁目118、189	1388	486	H14.10.15	H14.12.10	瀧本	
0240	-	元岡・桑原道群	MOT	30	学校	委託	西	元岡・桑原	2450	2450	H14.8.1	H14.9.30	二宮	
0241	-	新西町道群	NSJ	15	学校建設	福岡県	早良	西新	1800	1800	H14.10.3	H14.10.29	岸本(福岡県)	
0242	-	元岡・桑原道群	MOT	31	学校	委託	西	元岡・桑原	1975	1975	H14.10.1	H15.2.28	二宮	
0243	14-2-329	箱崎道群	ZSK	14	共同住宅建築	国三リビック	博多	新和町2丁目24-1	1359	650	H14.11.5	H15.1.24	三上	
0244	14-2-291	博多道群	HKZ	141	共同住宅建築	民受	博多	古門戸町87	406	200	H14.11.20	H15.1.24	三上	
0245	14-2-585	箱崎道群	HKZ	34	共同住宅建築	国補(短期)	東	箱崎3丁目335番-1	188	100	H14.11.14	H14.12.2	中村	
0246	-	飯氏二塚古墳	DK	2	範囲確認調査	国補(保存)	西	飯氏	-	110	H14.11.15	H15.1.15	吉武	
0247	14-2-611	箱崎道群	HKZ	35	共同住宅建築	国補(短期)	東	箱崎3丁目9-33	65	32	H14.12.2	H14.12.10	中村	
0248	14-2-368	那珂道群	NAK	86	共同住宅建築	民受	博多	那珂1丁目550	1241	370	H14.12.5	H14.2.19	長家	
0249	14-2-545	三宅庵寺	MKG	3	専用住宅	国補(専任)	南	大橋1丁目1157-7	179	64	H14.11.28	H14.12.28	田中	
0250	14-2-546	三宅庵寺	MKG	4	専用住宅	国補(専任)	南	大橋1丁目1157-8	174	72	H14.11.28	H14.12.28	田中	
0251	14-2-544	三宅庵寺	MKG	5	専用住宅	国補(専任)	南	大橋1丁目1159-3	276	93	H14.11.28	H15.1.8	田中	
0252	14-2-367	箱崎道群	HKZ	36	共同住宅建築	民受・国補	東	箱崎3丁目3380	472	199	H14.12.11	H15.2.21	本田	
0253	10-1-20	箱崎道群	HKZ	37	道路(馬出東浜線)	命達	東	馬出5丁目地内	483	483	H14.12.13	H15.3.31	中村	
0254	13-1-233	今宿五郎江道群	IZG	8	伊都区画整理	命達	西	今宿町108-1他	297	297	H14.12.19	H15.1.8	杉山	
0255	13-1-233	今宿五郎江道群	IZG	9	伊都区画整理	命達	西	今宿町79-1他	300000	500	2120	H14.12.25	H15.3.29	杉山
0255	13-1-233	谷道群	TAN	1	上に同じ	命達	西	今宿町79-1他	上に含む	上に含む	上に同じ	上に同じ	杉山	

0256	14-2-68	有田遺跡群	ART 205	共同住宅建築	民受・国補	早良小田那2丁目155-1,156	715	300	346	H15.1.20	H15.2.21	護本
0257	—	元町・森田跡群	MOT 32	大学新設	公受	西 元圃・桑原			1700	H15.1.20	H15.3.29	二宮
0258	14-2-741	那珂遺跡群	NAK 87	共同住宅建築	国補(短期)	博多 東光寺丁目376-3	116	20	20	H15.1.31	H15.2.4	井上
0259	14-2-641	飯倉B遺跡群	IKR-B 2	共同住宅建築	民受	城南 渡口丁目582-594-596-600	625		339	H15.2.3	H15.3.20	藏富士
0260	13-2-915	箱崎遺跡	HKZ 38	共同住宅建築	民受・国補	東 箱崎3丁目9-49	327		90	H15.2.3	H15.3.8	荒牧
0261	3-1-414	高畑遺跡	TKB 19	道路(都市高速)	公受	博多 板付6丁目1-48他		400	204	H15.1.21	H15.2.28	吉武
0262	14-2-841	藤崎遺跡	FUA 33	共同住宅集点施	国補(短期)	早良 百達1丁目857-4	155	155	90	H15.3.3	H15.3.12	吉留

0129 福岡城跡第48次調査(FUE-48)

所在地 福岡市中央区城内1
調査原因 復元整備のための内容確認調査
調査期間 2002.4.1～2003.3.31

調査面積 308㎡
担当者 井澤洋一・榎本義嗣
処置 調査後埋め戻し

位置と環境 福岡城跡は博多湾岸の中央部に占地し、博多湾に向かって北側に延びる舌状丘陵および東西両側の谷部に位置している。築城時には大規模な造成が行われており、丘陵の削平土により谷部を埋め、本丸・二の丸・三の丸の郭を造りだしている。また、前面の砂丘や潟を埋め立てることによって、城下町を形成している。

今回調査を行った上の橋大手門は城の北西に位置する正門で、元文2(1737)年に焼失し、同年に再建され、明治時代初期まで二層櫓門が存在していたことが、古写真から判明している。今回の調査は昨年度に引き続き虎口部分および北側の石垣天端を調査対象とした。

検出遺構 虎口部分では、櫓門礎石、関石、側溝および暗渠を検出した。礎石は玄武岩製の自然石を用いており、大半が原位置を保った状態で確認できた。城内排水のための暗渠は明治時代の陸軍駐屯以降に改変が加えられているものの、良好に遺存しており、砂岩を主体とする割石を組合わせた構造を有する。門下の中央を斜方向に横切り、城外に延長するものと推測される。また、関石の前面には玉砂利を敷いている。

石垣天端の調査は、古写真に見られる下屋部分および絵図に見られる渡櫓門の構造確認のために実施したもので、明治時代の旧表土中からは多量の瓦が出土した。なお、現在も調査途中であるため、詳細は不明であるが、今後は幕末の整地面を精査する予定である。

出土遺物 瓦を主体として土師器、陶磁器、鉄製品、漆喰片等が現在のところコンテナケースにして約100箱が出土している。瓦には軒瓦や瓦製作工人名をスタンプした文字瓦が認められた。

まとめ 昨年度調査を実施した下の橋大手門と礎石位置がほぼ合致することから、両大手門は、同規模、同一構造の櫓門であることが推測される。今後の下の橋大手門復元整備にあたっての貴重な材料となり得る。



1. 調査地点の位置 (60 舞鶴 0164 1 : 8000)



2. 石垣北側天端調査区全景 (東から)



3. 石垣北側天端調査区瓦出土状況 (東から)

0144-1 浦江遺跡第5次調査 (URA-5)

所在地 福岡市西区金武内地
 調査原因 圃場整備事業
 調査期間 2002.4.1～2003.1.31

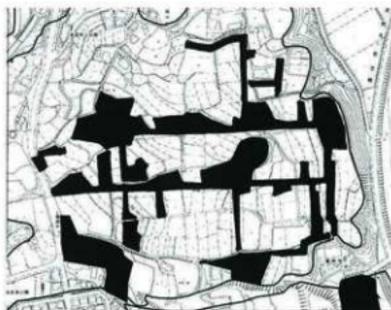
調査面積 36,387
 担当者 杉山・吉留・池田・久住・蔵富士・阿部・赤坂
 処置 記録保存

位置と環境 浦江遺跡は室見川中流域西岸の標高40～55mの扇状地～段丘上にあり、旧石器・縄文時代～中世に及ぶ集落、官衙、生産、墳墓などの複合遺跡である。これまで本遺跡では道路、災害復旧、住宅建設に伴い一部が調査され、弥生時代表棺墓、古墳時代住居跡、中世集落などが確認されている。今回の事業対象地はこれらを含む遺跡全体16万㎡であり、発掘調査は構造物である道路、水路と削平が行われる田面部分に限り実施した。

検出遺構 1～3面の遺構面が確認された。遺構は時代別に以下ようになる。縄文時代早期集石、土坑、弥生時中期の集落5地点(竪穴式住居、掘立柱建物、貯蔵穴など)、溝、表棺群古墳時代後期の古墳群(14基)、土坑。古代(飛鳥)の掘立柱建物群 中世の集落3地点(掘立柱建物井戸、穴蔵、鍛冶炉、土壇墓、溝など)。

出土遺物 旧石器時代 石器など 縄文時代 土器類、石器など 弥生時代 土器類、石器類、鉄器、石製品など 古墳時代 須恵器、土師器、鉄器(武器、馬具)、装身具(玉類、耳環)、石製品など 古代 須恵器、土師器など 中世 土師器、瓦器、輸入陶磁器類、国産陶磁器類、金属器、石製品、鉄滓、羽子など合計コンテナ200箱。

まとめ 今回の調査では弥生時代以降の水田関連遺構、集落、墳墓を検出した。特に扇状地中央に設けられた弥生時代中期のかんがい用基幹水路は同時期の集落の消長と関連し、西山山麓扇状地の開発の推移を明らかにする手がかりが得られた。また、後期群集墳は近世水田開発により墳丘を失い、今次調査で初めて明らかに出来た。墳丘、石室上部は破壊されていたが、石室内の保存は良く、豊富な副葬、供献品が出土した。段丘端部で確認された古代の掘立柱建物群は大型で規格性を有し何らかの官衙施設とみられた。中世集落の中で、中央高台にある大塚地区では大規模な造成事業に伴い、構口、母屋、脇屋などで構成される居館があり、該期村落史を検討する上で貴重な成果となった。



1. 調査地点の位置 (94 金武 0444 1 : 8000)



2. 第5次調査全景 (東から)



3. 3区検出遺構全景 (南から)

0144-2 浦江古墳群第1号墳調査 (UEK-1)

所在地 福岡市西区金武字浦江地内
調査原因 重要遺跡内容確認調査
調査期間 2002.11.1~2003.1.31

調査面積 1,850㎡
担当者 吉留 秀敏・蔵富士 寛
処置 埋め戻して現状保存

位置と環境 浦江古墳群は、早良平野の奥部に位置し、室見川左岸に展開する丘陵裾部に占地する。現在までに確認された古墳のうち、第1号墳は最大の規模を有している。周辺には、市指定史跡、吉武熊山古墳や夫婦塚古墳等のほか、後期古墳が数多く分布している。

検出遺構 本古墳は、周辺の耕地化による削平の結果、墳丘盛土はほとんど失われており、石室及び周溝が残るのみであった。また、主体部は横穴式石室で、天井部を中心に破壊を受けていたが、石室壁体は比較的良好な状態で遺存していた。出土遺物や石室の構造等からみて6世紀後半の所産と思われる。

調査の結果、本古墳の墳丘は、径25~26mを測る大型の円墳であることが判明し、石室奥壁に彩色壁画を確認することができた。壁画は赤一色のみで描いている。顔料の剥落のため、現状では全体像をうかがうことはできないが、渦巻き状の文様が確認できた。

出土遺物 石室内及び周溝から馬具や耳環等の金銅製品、鉄鏃、刀子等の鉄製品、須恵器や土師器が出土している。特に注目されるのは装飾付須恵器や新羅土器である。出土遺物の総量はコンテナ30箱分である。

まとめ 本古墳は、墳丘規模や出土品からみて、近隣の乙石地域の夫婦塚古墳よりも先行して造営された首長クラスの墳墓と考えられる。また、石室奥壁で確認された彩色壁画は、本古墳から北西へ約1kmほどに位置する吉武K7号墳との関連性が考えられる。



1. 調査地点の位置 (94 金武 2827 1 : 8000)



2. 第1号墳全景 (南西から)



3. 石室奥壁 (南から)

0144-3 浦江遺跡（甕棺墓地区）調査

所在地 福岡市西区金武浦江地内
 調査原因 重要遺跡内容確認調査
 調査期間 2001.11.27～2003.1.31

調査面積 400㎡
 担当者 吉留 秀敏・蔵富士 寛
 処置 埋戻して現状保存

位置と環境 浦江遺跡は福岡市の西端、早良平野南西の台地上に位置している。周辺には東入部遺跡、浦江谷遺跡などが分布する。

本調査は、人力で、約30cmの表土を除去することから始めた。遺構面は標高37m前後のローム層の再堆積面で設定した。調査は溝によって区画された甕棺墓の範囲確認という目的で約400㎡の範囲で実施した。

検出遺構 調査の結果、弥生時代中期に造営された区画墓を検出した。区画墓は北側を谷の崩落のため失うが、南西方向に陸橋部を有し、その周囲に長楕円形の土坑が掘削され、結果的に区画溝が形成されたものである。溝は、断面がU字形で幅約2mから3mで、検出面から底面までの深さは0.5m前後を測る。溝中からは、丹塗りの高坏や器台、壺、甕などが出土した。上面はかなり削平をうけているが部分的に盛り土が確認された。溝で囲まれた150㎡の範囲で27基の甕棺墓が検出された。甕棺墓の多くは共通の方向性をもって整然と配されている。5群程度にグルーピングできる系列墓であろう。中心主体とみられる13号甕棺墓から水銀朱が検出された以外、副葬遺物は一切見られなかった。

出土遺物 出土遺物として甕棺および祭祀土器などコンテナ100箱分がある。

まとめ 周辺での調査事例は充実しており、同一平野内における比較検討が可能である。今後の調査において遺跡群の全容が明らかになることに期待したい。



1. 調査地点の位置 (94 金武 0444 1 : 8000)



2. 区画墓全景



3. 区画墓13号甕棺調査風景 (南より)

0201 弥永原遺跡群第6次調査 (YNB-6)

所在地 南区日佐3丁目42-1

調査原因 図書館増設

調査期間 2002.4.1～5.17

調査面積 265㎡

担当者 長家伸

処置 記録保存

位置と環境 弥永原遺跡群は福岡市と春日市の市境に位置する洪積丘陵上に立地する。また本遺跡群の東側には須玖丘陵が位置している。対象地である丘陵は昭和33年に学校建設に伴う造成工事の折に甕棺墓・土壇墓・石棺墓が確認されている地点であり、今回の調査地点は旧幼稚園構内にあたり、弥生時代中期の甕棺墓が多く発見された地点として知られている。

検出遺構 調査前は未舗装の平坦地で、標高24.6mを測る。遺構面は表土を60～130cm除去した鳥栖ローム層上面である。遺構面は北東側に向かって緩やかな傾斜を持ち、遺構面標高は南側で24m、北東隅で23.3mを測る。検出した遺構は弥生時代中期後半～後期の埋葬遺構40基のほかは奈良時代までの柱穴・溝である。弥生時代の埋葬遺構が主体となり、内訳は甕棺墓19基、土壇墓17基、石蓋土坑墓2基、石棺墓2基である。埋葬遺構は調査地南半部分に集中しており、分布の北限は捉えることができた。また40基中6基に水銀朱の塗布が認められたが、その他の副葬品は出土していない。

出土遺物 遺物は総計でコンテナ71箱分出土しているが、その大半は甕棺である。これ以外では土器片、鉄器等が少量出土するのみである。

まとめ 今回の調査ではそれまで甕棺墓群として知っていた地点の、具体的な様相の一端を確認することができた。またこれまで知られていた丘陵上の埋葬遺構群は、以前の造成によりその多くが失われたものと考えられていたが、縁辺部分については比較的良好な状態で遺存していることも明らかとなった。

報告書は2003年度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置 (26 上日佐 0105 1 : 8000)



2. 調査区南半全景 (北から)



3. 調査区北半全景 (北から)

0202 箱崎遺跡第29次調査 (HKZ-29)

所在地 福岡市東区箱崎3丁目2398番他
 調査原因 共同住宅建設
 調査期間 2002.4.1～4.26

調査面積 80㎡
 担当者 松浦 一之介
 処置 記録保存

位置と環境 箱崎遺跡は博多湾東岸に形成された南北に長い砂丘上に位置する。後背部には宇美川河口が深く湾入していた。またこの砂丘の西端に博多遺跡群が立地し、この間に堅粕遺跡群、吉塚遺跡群、吉塚本町遺跡群、吉塚祝町遺跡群などが立地する。

調査は先ず重機で表土除去作業を行い、約1.4m掘削した標高2.5m付近で遺構面(黄褐色砂層)に達した。その後人力で遺構を発掘し順次記録した。

検出遺構 検出した遺構は柱穴、土坑、溝状遺構、性格不明遺構からなる。柱穴は約90個検出したが、調査区が狭長で掘立柱建物の復元には至っていない。調査区のほぼ中央で検出されたSX-002は深さ約40cmを測る平面不整形の遺構である。底面に礫を敷き詰め、地山と礫との間には黒褐色の粘質土層があり、下端周囲に杭列が検出された。これらの状況から池状遺構の可能性が考えられる。この他、長方形の土塊の底部に扁平な石材を数個敷いた遺構や、幅約1m、深さ約20cmの溝の底部に礫が疎らに敷かれた性格不明遺構などが検出された。

出土遺物 出土遺物は、龍泉窯系青磁(碗)、同安窯系青磁(碗・皿)、白磁(碗・皿)、土師器(坏・皿)、施釉陶器、土鍋、滑石製品、銅銭、鉄釘、碁石、平瓦などコンテナケースに6箱がある。陶磁器の底部には墨書されたものも見られる。また廃棄土坑の土を水洗したところ、動物骨や魚骨片が検出された。

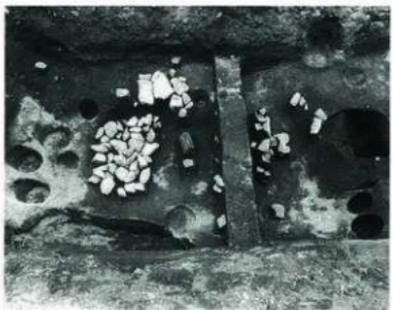
まとめ 出土遺物から遺構の年代は12世紀～13世紀代のもので近世のものに大別される。大半の遺構の年代はこれの中でも12世紀後半～13世紀初頭と考えられる。遺跡の性格は現在のところ不明確であるが、池状遺構と考えられる遺構などから、屋敷地や寺院関連施設などの苑池の一部であった可能性も考えられる。調査地点の性格は、周辺の調査成果と併せて今後の検討課題となるであろう。



1. 調査地点の位置 (34 箱崎 2639 1 : 8000)



2. 東半調査区全景 (東から)



3. SX-002地状遺構検出状況 (北から)

0203 大橋E遺跡第9次調査 (OOE-9)

所在地 福岡市南区大橋4丁目地内
調査原因 道路建設
調査期間 2002.4.1～7.30

調査面積 830㎡
担当者 上角 智希
処置 記録保存

位置と環境 大橋E遺跡是那珂川の中流域に位置する遺跡であり、弥生時代から中世にかけての集落跡が発見されている。本調査区は遺跡分布推定域のほぼ中央に位置し、道路予定地内のA区、B区の2地点を調査した。

検出遺構 A区では760㎡を調査し、中世の溝1条、掘立柱建物1棟および近世の土坑数基を検出した。遺構密度は低く、北半については遺構が皆無で旧地形が近代の水田造成時に削平されたもようである。また、縄文時代の包含層を確認し一部についてトレンチ調査を行なった。B区では70㎡を調査し近世の溝2条、土坑2基を検出した。溝は調査区南隅でL字に曲がり、東側隣地の第7次調査区へ延びる。この溝は7次調査区で検出された建物を囲む屋敷の区画溝の一部と考えられる。

出土遺物 遺物は両区合わせてコンテナ5箱分が出土した。中世の土器・陶磁器が大半であるが、A区では縄文早期の楕形鎌の未欠損品、剥片、押型文土器の小片など計7点や弥生時代の磨製石斧が出土した。

まとめ A区では中近世の集落跡を検出したが遺構密度は疎である。北側については後世の削平により遺構が消失している。包含層から縄文時代早期の石器・土器が出土している。B区では隣の7次調査区で検出された近世の掘立柱建物を囲む溝の続きを検出した。

報告書は2003年度に刊行済みである。



1. 調査地点の位置 (39 三宅 2382 1:8000)



2. A区北半全景 (東から)



3. 溝 SD03 (東から)

0204 元岡遺跡群第29次調査 (MOT-29)

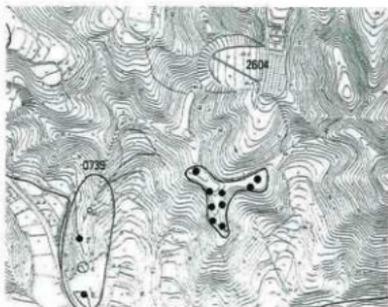
所在地 福岡市西区大字元岡字石ヶ原
 調査原因 大学移転に伴う造成工事
 調査期間 2002.4.5～2003.9.30

調査面積 4,000㎡ (古墳9基)
 担当者 星野 恵美・菅波 正人
 処置 記録保存

位置と環境 調査地点は九州大学統合移転用地の東側丘陵上の古墳群(元岡古墳群N群)で、北側には前方後円墳の石ヶ原古墳が隣接する。古墳群は標高52～66mにあり、現況は山林である。古墳は9基を確認したが、いずれも後世の開発のため、遺存状況は悪く、石室はいずれも横穴式石室であるが、半壊もしくは全壊状態に近い。また、盛土は流失している。

各古墳の概略を列記する。

遺構・遺物 1号墳は墳径約12mの円墳である。石室は半壊状態で、敷石が一部残る。須恵器壺や鉄製刀子が出土した。6世紀前半の築造と考えられる。この古墳群の中では最も古く位置づけられる。2号墳は1号墳に隣接する。墳径約10m。石室から8世紀に下る須恵器、土師器が出土した。3号墳は墳径10m。石室は羨道部分が削平されているが、石室は天井付近まで遺存する。奥壁幅1.9m、玄室長2m超を測る。床面には手のひら大の石が敷かれる。玄室の中央には人骨が遺存していた。奥壁と玄門付近では7世紀末に位置づけられる須恵器高坏・蓋が、人骨の付近で耳環が出土した。また、石室前面の墳丘表土から口縁の内側に「大道」とヘラ描きされた甕が出土した。4号墳は墳丘、石室は全壊状態である。5号墳は奥壁、側壁の一方が遺存する。石室の崩壊した石の間から須恵器壺などが出土した。6号墳の墳丘は削平されている。石室は奥壁と側壁の一部及び敷石が遺存する。鉄鎌、刀子などが出土した。7号墳は比較的遺存状況のよい石室である。玄室長2.4m、幅1.2mを測る。床面には拳大の礫が前面に敷かれる。玄門付近で耳環が出土した。8号墳は側壁の一部が遺存する。9号墳の石室は全壊状態である。(遺物はコンテナ26箱出土)



1. 調査地点の位置 (129 桑原 2604 1 : 8000)



2. 調査区全景 (南から)



3. 3号墳石室 (南から)

0205 原遺跡群第22次調査 (HAA-22)

所在地 福岡市早良区原8丁目
1170-1,1171-1,1177-1
調査原因 共同住宅建設
調査期間 2002.4.1～4.26

調査面積 528㎡
担当者 池田 祐司
処置 記録保存

位置と環境 原遺跡群は早良平野の博多湾寄りの微高地上に位置する。金屑川を挟んで西側の台地には有田遺跡群が広がる。本調査地点は9次調査地点の東に隣接する。9次調査では15・16世紀の居館と考えられる溝と掘立柱建物、弥生時代の溝等が検出されている。

検出遺構 遺構は弥生時代、古墳時代前期と15・16世紀のものに溝7条、掘立柱建物3棟、土坑、ピット等を検出した。弥生時代は平面円形の土坑を2基検出し、そのうち1基は断面袋状を呈し貯蔵穴と考えられる。古墳時代は溝の一部が調査区北西隅をかすめ、やや北に屈曲する。15・16世紀では9次調査の続きで東西に走る溝を検出した。この溝は新旧2本の切り合からなり、古い方は調査区東端で屈曲する。9次調査と合わせると1辺約60mの方形区画に復元することができる。区画内には溝にほぼ並行した掘立柱建物を確認した。

出土遺物 弥生時代では中期後半の土器、古墳時代では古式土師器が出土した。中世の溝からは土師皿、土鍋、備前系すり鉢、火舎、陶磁器等が出土した。その中には色彩を施した白磁の人形の頭があり、その顔は西洋人の意匠で特異なものである。

まとめ 中世では9次調査との関連で1辺60mの居館の溝(堀)を復元することができた。その区画内には掘立柱建物が並び、館の配置の一部を窺い知ることができる。また、この溝は新たに掘削され、その延長は東側にさらに延び、館は拡張された可能性がある。

報告書は2003年度刊行予定である。



1. 調査地点の位置 (82 原 0311 1 : 8000)



2. 調査区全景 (北東から)



3. SD001・002 (東から)

0206 野芥遺跡群第11次調査 (NKE-11)

所在地 早良区野芥5丁目6番37号
 調査原因 病棟増築
 調査期間 2002.4.8～7.19

調査面積 526.6㎡
 担当者 阿部 泰之
 処置 記録保存

位置と環境 標高約600mを測る油山より北方に延びる丘陵上に野芥遺跡群は位置する。東方の飯倉丘陵には飯倉A～G遺跡が広がり、南方、油山の尾根線上には、後期群集墳が分布する。今次調査は、野芥遺跡の南端付近にて実施された。南側隣地では、平成8年に、中世の柱穴群・旧石器時代の土坑が検出された第7次調査が実施されている。

検出遺構 遺構は、標高約32mの現地表面から-0.5～1mの明黄褐色粘質土上に検出される。

検出した遺構は、古墳時代後期末頃の竪穴住居跡7軒以上・掘立柱建物1棟以上・15世紀前後の溝5条・池状遺構1・ピット多数である。

出土遺物 出土した遺物は、水田開削時に遺構面が大きく削平されていたため多くはないが、住居跡から須恵器・土師器細片、溝・池状遺構から陶磁器・瓦類が出土した。また、遺構検出面はロームの再堆積土であり、この層から石器・剥片類が出土した。土器の摩滅が激しいため断定はできないが、石器は縄文時代早期後半頃の所産とした。

まとめ 本調査区南側において検出した竪穴住居跡をはじめとする古墳後期の遺構は、さらに調査区外南および東側に伸びる可能性が高い。ピット群は、第7次調査検出のピット群に続くものであろう。池状遺構は、出土遺物から時期は15世紀代と思われ、文献に見える「野芥大聖寺」との関連も考えられる。遺構検出面のローム再堆積層には旧石器～縄文早期と思われる遺物が包含されており、7次調査時のように、本調査区周辺に旧石器～縄文時代の遺構が存在する可能性が考えられる。

2003年度報告書刊行予定。



1. 調査地点の位置 (84 重留 0319 1 : 8000)



2. 北側調査区全景 (南から)



3. 南側調査区全景 (南から)

0207 比恵遺跡群第78次調査 (HIE-78)

所在地 博多区山王2丁目58-1・51

調査原因 給油所建設

調査期間 2002.4.15~4.24

調査面積 57.8㎡

担当者 本田 浩二郎

処置 記録保存

位置と環境 比恵遺跡群は、福岡平野の中央部付近に位置しており、御笠川と那珂川に挟まれた洪積丘陵の北端部近くに位置している。比恵遺跡群の南側には、那珂遺跡群が存在しているが、両遺跡は、検出される遺構・遺物より一連の遺跡と考えられており、その分布範囲は南北2.4km×東西0.5~0.8kmの規模で復元・推定されている。

検出遺構 第78次調査地点は、比恵遺跡群の西側端部に位置しており、調査地点の現状は給油所であり、現地表面の標高は6.30m前後を測る。

調査は給油所建て替えに伴い、地下に埋設される給油タンクの部分の約100mを対象として行った。試掘調査の成果を基に遺構検出面である八女粘土層上面まで重機により掘削を行い、遺構検出・掘り下げを行った。調査区南側は過去の給油タンク埋設によって遺構は既に消滅しており、北側の約60mについて調査を行った。

比恵遺跡の調査では、遺構検出面は鳥栖ローム層面上において設定するが、本調査地点では鳥栖ローム層は土層断面においても調査区南側にわずかに検出されるのみで、遺構面としては検出されなかった。水田開発または東側を北流する御笠川の氾濫などによって流失してしまったものと考えられる。遺構面となる八女粘土層の標高は4.6~5.0mを測り、北西方向に緩やかに傾斜する。八女粘土層の遺構面直上には、弥生時代の遺物を含む黒色粘質土の包含層と水田の床土である暗黄褐色粘質土が堆積する。調査区内の土層断面観察では畦畔などの施設は検出されず、水田遺構については時期・規模など不明な点が多い。

検出した遺構は方形土坑・溝状遺構・ピット群がある。土坑・ピット内には包含層と同質の黒色粘質土が堆積しており、鳥栖ローム土がブロック状に混入する。



1. 調査地点の位置 (37 東光寺 0127 1:8000)



2. 北側調査区全景 (南東から)



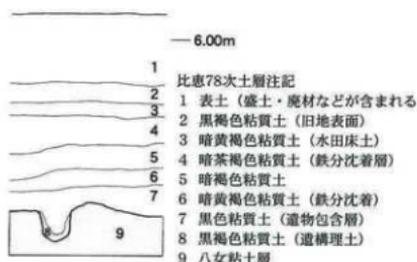
3. 南側調査区全景 (北西から)

これらの遺構からは弥生時代前期後半から後期にかけての遺物が出土するが、包含層自体にも同時期の遺物が含まれており、遺構の時期を示すかは不明である。調査区南東側で検出されたSD-01とした溝状遺構は、かろうじて残存する鳥栖ローム層上面から掘削されており、断面形は緩いU字形を呈する。調査区北側の八女粘土層面上では検出されず、溝底面は鳥栖ローム土層内の標高4.70m前後で収まっていたものと考えられる。南西側を攪乱され幅は不明であるが、N-51'-W方向に主軸をとる。埋土より弥生土器の小破片が出土するが、後世の混入と考えられる。

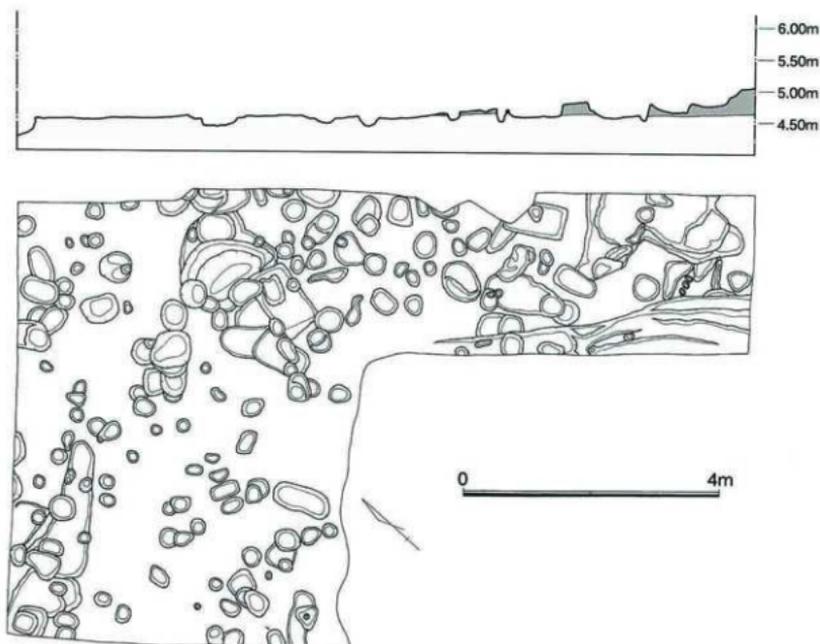
出土遺物

遺物は、弥生土器・須恵器・石簾などの石器がコンテナケース1箱分出土した。いずれも小破片であり、器面も摩滅が著しく遺存状態は悪い。

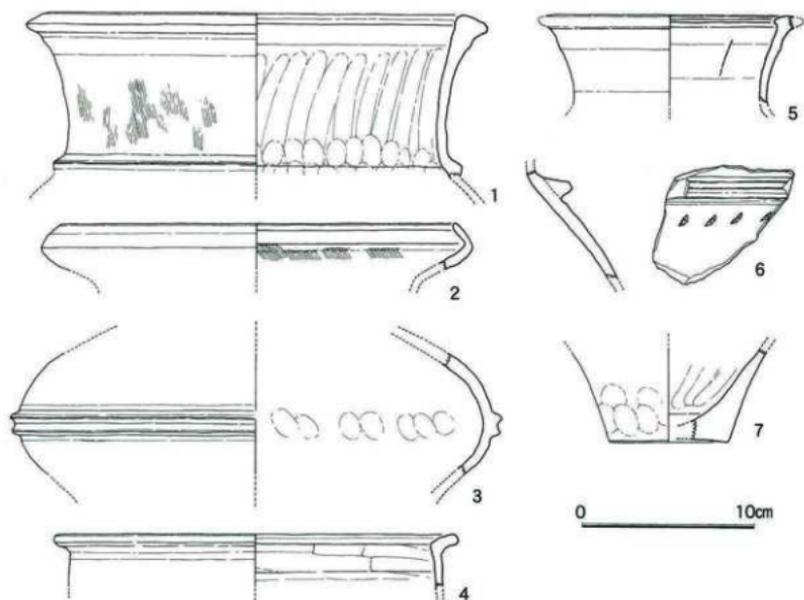
1は壺である。復元口径27.0cmを測り、頭部には突帯を巡らす。外器面には刷毛目調整、内器面には指ナゲ痕が観察できる。2は壺口縁部片である。復元口径22.8cmを測り、内器面には刷毛目調



4. 土層図 S = 1/40



5. 遺構実測図 S = 1/80



6. 遺物実測図1 S=1/3

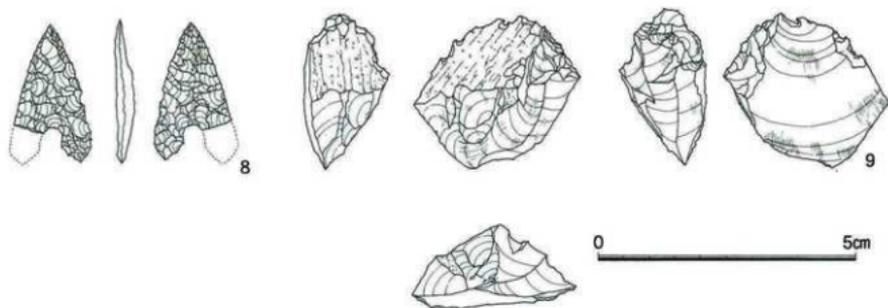
整が観察される。3は壺胴部片である。胴部復元径28.4cmを測り、最大径部付近に突帯を二条巡らす。摩滅が著しいが、わずかにヘラ磨きの痕跡が観察できる。4は甕口縁部片である。復元口径は23.4cmを測る。5は壺口縁部片である。口唇部は欠損する。内器面には横方向の板ナデ痕が残る。6は壺胴部片である。体部上半部の破片であり、頸部下に断面形が台形の突帯を巡らし、突帯下にはヘラ状工具先端部による刺突紋を施す。7は甕底部片である。復元底径6.8cmを測る。外器面に



7. 調査区北側全景（東から）



8. 調査区東側全景（西から）



遺物実測図2 S=1/1

は指頭圧痕、内器面には指ナデ痕が観察できる。8は黒曜石核である。9は黒曜石製の石鏃である。脚部を欠損する。色調は乳白色を呈し、全長27mm、全幅15mm、全厚3.7mmを測る。

まとめ

今回の調査によって、比恵遺跡群の分布範囲がこれまでの推定範囲よりも東側方向に拡大することが明らかとなった。近年の比恵遺跡群内で行われた発掘調査においても、遺跡推定範囲の東側で行われた調査が数次あり遺構が確認されている。本調査の成果もこれを裏付けるものと言えよう。また、遺構検出面が鳥栖ローム土層面上ではなく八女粘土層面上であることも、本調査地点付近の古地形を復元する上で貴重な成果であると言えよう。



10. 調査区全景 (南から)



11. SD-01土層断面 (北から)



12. 調査区中央部全景 (西から)

0208 寺島遺跡第2次調査 (TRS-2)

所在地 福岡市南区横手南町10-8

調査原因 共同住宅建築

調査期間 2002.4.1～4.12

調査面積 89㎡

担当者 井上 蘭子

処置 記録保存

位置と環境 寺島遺跡は、福岡平野の南寄り、那珂川と御笠川に挟まれた丘陵上に立地する。本調査区は遺跡のほぼ中央に位置する。遺構は現地表下約1m、標高約16.0～16.3mの鳥栖ローム上面で検出された。

検出遺構 遺構面である鳥栖ローム上面には、約30cmの厚さで包含層が堆積しており、南東から北西へ向かい緩く傾斜して落ちる。検出遺構は、竪穴住居址3軒、柱穴、土坑である。竪穴住居址は調査区の南東隅で一部検出されたためトレンチを設定したところ、少なくとも3軒が確認された。いずれも平面は方形を呈し、SC19は一辺約4mを測る。SC15、SC19ともに壁際には壁溝を巡らせる。また、いずれの住居址の床面からも若干浮いた位置に甕、高杯、小壺が廃棄されていた。出土土器から、兩住居址の時期は古墳時代前期であると考えられる。

出土遺物 古墳時代須恵器などパンケースで5箱分が出土した。

まとめ 本調査区の南側に位置する第1次調査地点では、弥生時代から古墳時代にかけての住居址、井戸、古代の溝が検出されている。今回は古墳時代前期頃の竪穴住居址が検出され、概期の集落が広がることが確認された。また、遺構面が北西から南東へ向かい高く上がり、住居址が南東付近に分布することから、集落は南東へ広がると考えられる。



1. 調査地点の位置 (25 井尻 01021 : 8000)



2. 調査区北側全景 (南から)



3. 竪穴住居跡 SC15 (南から)

0209 次郎丸高石遺跡第5次調査 (JRT-5)

所在地 早良区次郎丸6丁目地内

調査原因 道路新設

調査期間 2002.4.16~7.16

調査面積 272㎡

担当者 杉山富雄

処 置 記録保存

位置と環境 北へ緩く傾斜する早良平野の中央部に位置する。位置と環境調査地点は南北に長く、平坦な南半部の標高は12mである。北半部は浅い谷につながり、北端で標高11.5mである。現況は水田となっている。

検出遺構 遺構は、水田床層下の古い扇状地堆積物上面で検出された。谷にかかる北端部では旧表土と思われる黒色土が残っている。ここでは遺構がその上位から掘り込まれていたものと考えられたが、掘り下げ中に掘方を検出することはできなかった。

遺構の密度は薄い。調査区北半部から中央部にかけて土壇、柱穴、小穴が分布する。土坑からは投棄されたような状態で古墳時代前期の土師器がまとめて出土した。また、弥生土器(中期が主)もいくつかの遺構から出土している。柱穴から掘立柱建物2棟を復元できる(2×5間 平安時代?、1×1間)。調査区中央から南半部にかけて不正な円形または矩形の土坑が散布する。断面から掘削された後、自然に埋没したことが窺われる。遺物の出土はなかった。「風倒木痕」も調査区の全域に分布する。いずれのもの、樹木が北西方向に一時に倒れたように観察される。

出土遺物 石鏃は縄文時代のものであるが、土器の出土はなかった。弥生土器は中期の壺、甕がある。古墳時代前期の土師器には甕、高坏などがある。ほかに少量、黒色土器などが出土した。

ま と め 地形の旧状を復元することが難しいが、一帯では、谷に面した緩斜面を主に遺構が散布していることが予想される。調査報告書は2003年度刊行。



1. 調査区地点の位置(83 野芥 2447 1 : 8000)



2. 調査区1区全景(南から)



3. 調査区全景(南から)

0210 箱崎遺跡第30次調査 (HKZ-30)

所在地 東区箱崎1丁目1番他
調査原因 土地区画整理事業
調査期間 2002.4.9～2003.5.13

調査面積 4,700㎡
担当者 佐藤一郎・松浦一之介・赤坂亨
処置 記録保存

位置と環境 調査地は宇美川下流域、多々良川河口左岸の古砂丘上に立地する箱崎遺跡群の南東部、式内社宮崎宮の東250mに位置する。

検出遺構 遺構面は表土(攪乱層)直下、標高3m前後の砂層上面で確認された。検出された遺構は10～15世紀の溝、井戸、土坑、掘立柱建物、柱穴・ピット状遺構である。現在の街区毎に今年度は11～17区の調査区を設定した。12区では平安末の2間×10間以上の長大な掘立柱建物を検出した。柱穴底面には扁平な根石が据えられていた。13区では鎌倉時代の幅1.5mの溝を延長65m検出した。現在の宮崎宮を中心とした地割りと方位をほぼ同じくする。井戸は18基、土坑は25基、柱穴は400以上検出した。

出土遺物 前調査区で出土した遺物はコンテナ600箱。中世前半からは対外交渉の拠点の一つとして、宋商人が居留し中心地「博多」を補完する役割を担ったとされる。当該期の遺構の密度、遺物の出土量、中国陶磁器の占める割合は博多遺跡群の中心部に及ばないが、畿内系の土器・瓦、豊前系の土師器、高麗青磁などは博多に匹敵もしくはそれ以上に高い頻度で出土している。

まとめ 宮崎宮は1051年に石清水八幡宮の別宮となるが、権門社寺との結びつきをこれらの考古遺物から窺うことができよう。



1. 調査地点の位置 (34 箱崎 2639 1 : 8000)



2. 12区根石が据えられた掘立柱建物(北東から)



3. 13区空中写真(上が北東)

0211 椎原A遺跡第2次調査 (SBA-2)

所在地 早良区大字椎原656他

調査原因 圃場整備

調査期間 2002.4.12~7.26

調査面積 1162m²

担当者 池田祐司

処 置 記録保存

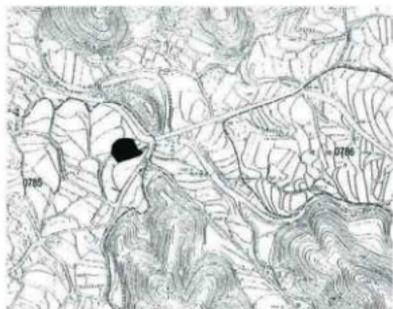
位置と環境 椎原A遺跡は福岡市早良区西区に広がる早良平野から板谷峠に至る谷筋にあたり、標高200m前後の土石流扇状地に位置する。調査地点は椎原川にせり出す丘陵の西側で北に向かって傾斜し、西には小規模な谷が入る。

検出遺構 現水田の耕作土および盛り土下の黄褐色層が遺物包含層で、縄文時代前期を中心とした遺物が出土し、土坑、集石等を検出した。土坑のうち2基は焼土坑で中世以降のものと考えられる。他の土坑は不整形のものが多く、縄文時代の包含層と似た埋土で縄文時代前期の遺物が出土する。土坑SK01は100×75cmの楕円形で深さ98cmを測り、落とし穴状を呈す。SK010、013、030、031は4~5m大の不整形形または方形を呈す土坑で、SK010からは多くの竊式土器が出土した。このほか、浅い楕円形、不整形のくぼみ状の土坑があり、遺物が集中するものが多い。集石は50×50cmほどの規模で10~15cm大の礫で構成する。

出土遺物 包含層は2カ所に集中する部分がある。遺物は土器と石器で土器では押型文土器、手向山式、轟B式、轟CD式、曾畑式土器、石器では石鏃、石匙、削器、磨製石斧等が出土した。このうち轟B式土器が最も多い。

まとめ 住居跡は確認できなかったが、縄文時代前期に一定期間居住域として使用されたものと考えられる。遺構遺物は南側には広がるが、東西の広がりはほとんどないと考えられる。市域において、当該期の遺構、遺物は少なく稀少な資料を得ることができた。

報告書は平成15年度刊行予定。



1. 調査地点の位置 (早良 12 椎原 0785 1:8000)



2. 調査区全景 (北東から)



3. 集石遺構 (北から)

0212 東油山古墳群E群第1次調査(HAK-E-1)

所在地 南区松原6丁目863番2

調査原因 老人福祉施設建設

調査期間 2002.4.25～7.31

調査面積 598㎡

担当者 荒牧宏行

処置 記録保存

位置と環境 油山から北へ派生した標高30mの尾根線上に位置する。1、2号墳は南北に30m隔てて構築された円墳である。

検出遺構 1号墳は径13m、2号墳は径12mを測り、主体部はともに西側へ開口した横穴式石室である。1号墳玄室は奥幅220cm、長軸長430cmを測り大型である。羨道部は抜き取られているが2号墳同様に腰石に1石を用いた短い形状と考えられる。石室床面は40cm大の平坦な石を敷き詰めた上に拳大以下の玉石を敷いた2面の構造である。

2号墳玄室は奥幅205cm、長軸長375cmを測り、1号墳よりやや小振りである。床面は下底に敷き詰めら40cm大の平石の間に細石が詰まり、一部その上に拳大の角礫が検出された。羨道部は腰石に1石を用いた主軸長180cmの玄室に対して短く、更に前面にはハの字に開いた短い前庭部の積石が接続する。

2号墳の墳端で幅40cm、長さ95cmを測る小石室を検出した。主軸を2号墳と同じくし、刀子1、鉄鏃1を副葬した小児用と思われる。

出土遺物 1、2号墳の副葬品は多く残り、1号墳では鉄器は刀3振、鋤先1、刀子、馬具、鏃多数（短頭鏃含む）が出土し、装飾品では耳環12個、ガラス玉の他、瑪瑙製の勾玉を親玉にし、空玉（未分析）が集中した首輪と思われるものも出土した。2号墳からは提瓶、平瓶等の須恵器が多く出土した他、玄室から12個の耳環、鉄刀1、鉄斧1、鉄鏃多数が出土した。

まとめ 1、2号墳は立地、石室構造が類似し、6世紀後半に築造された1号墳から2号墳への変遷が考えられる。追葬は7世紀後半代までみられる。また、その立地、墳丘、石室規模、遺物等から群集墳のなかでも当該2基は比較的上位の階層に位置するものと思われる。



1. 調査地点の位置(68 山田 0228 1:8000)



2. 1号墳石室全景(東から)



3. 2号墳石室全景(北東から)

0213 有田遺跡群第203次調査 (ART-203)

所在地 福岡市早良区小田部5丁目82-1
・82-2

調査原因 専用住宅建築

調査期間 2002.5.7～5.27

調査面積 119.4㎡

担当者 本田浩二郎

処置 記録保存

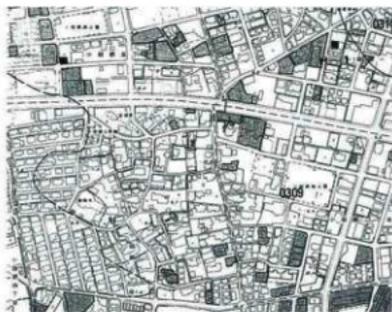
位置と環境 有田遺跡群は福岡市の南西部に広がる早良平野の北側中央部に位置する。標高15m前後を測る洪積世独立台地上に占地し、有田地区・小田部地区・南庄地区の三地区に大きく分けられる。本調査地点は小田部地区に位置する。

検出遺構 本調査地点は、小田部地区に位置し、西側には第125次調査、南側には第142次調査・第143次調査地点等が存在している。調査以前の現状は宅地であり、標高は5.7m前後を測る。調査は約120㎡の狭い範囲の中で行われ、古墳時代中期の竪穴住居一軒、近世の溝遺構一条、建物としてはまとめられない柱穴群などの遺構を検出した。竪穴住居は調査区内に南側半分のみが掛かるのみで北側半分は調査区外に延びる。完掘できなかったため、住居の全容は判然としないが、検出部分より一辺5.7m前後を測る方形住居が復元できる。住居は周囲にコの字にベッド状遺構を配置し、中央部付近に炉を設置する。隣接する第125次調査で検出された焼失住居と同様に、住居床面上からは炭化材・焼土が多量に検出された。近世の溝は、旧小田部村の区画を示す一端であり、近辺の調査区においても検出されている。

出土遺物 土師器・須恵器・近世国産陶器・黒曜石剥片などコンテナ3箱分が出土した。

まとめ 調査区南側の遺構は過去の削平により既に消滅していたが、北側では良好に遺存していた。これまでの調査により付近は北側方向に傾斜する地点と考えられていたが、実際の地形の落ち際は調査区より北東側に位置していることが明らかとなった。

報告書は2003年度刊行予定。



1. 調査地点の位置(82 原 0309 1 : 8000)



2. 竪穴住居全景 (南東から)



3. 調査区東側全景 (南から)

0214 箱崎遺跡第31次調査 (HKZ-31)

所在地 福岡市東区箱崎3丁目3358-1

調査原因 共同住宅建設

調査期間 2002.5.9~6.14

調査面積 80㎡

担当者 松浦一之介

処置 記録保存

位置と環境 箱崎遺跡は博多湾東岸に形成された南北に長い砂丘上に位置する。後背部には宇美川河口が深く湾入していた。またこの砂丘の西端に博多遺跡群が立地し、この間に堅粕遺跡群、吉塚遺跡群、吉塚本町遺跡群、吉塚町遺跡群などが立地する。

検出遺構 重機で標高2.6m付近の遺構面（黄褐色砂層）までの表土を除去し、以下を人力で発掘し順次記録した。排土処理の都合上、反転調査した。ほとんど攪乱されておらず、遺構の遺存状況は非常に良好であった。

検出した遺構は柱穴、土坑、井戸、溝状遺構、性格不明遺構からなる。柱穴は約50個検出したが、調査区が狭長で掘立柱建物の復元には至っていない。調査区の北側に検出されたSK-001は長さ約2m、深さ約0.8mを測る平面楕円形の廃棄土坑である。有機質腐食土層と黄褐色砂層の互層であり、生活残滓を捨てた後、砂で覆ったものと考えられる。この他、長方形の土坑の底部に扁平な石材を数個敷いた遺構や、幅約1m、深さ約20cmの溝の底部に礫が疎らに敷かれた性格不明遺構などが検出された。この他調査区南側に焼土層が3層確認された。

出土遺物 出土遺物は龍泉窯系青磁（碗・皿・小碗）、同安窯系青磁（碗・皿）、高麗青磁（碗）、青磁合子、白磁（碗・皿・四耳壺・合子・水注）、黄軸陶器（甕）、褐軸陶器（四耳壺）、国産陶器（甕・鉢）、土師器（皿）、鉄製品、鉄滓などコンテナケースに18箱がある。周辺の調査区と比較して陶磁器の出土量が多く、器種も豊富である。また墨書陶磁器も見られる。廃棄土坑の土を水洗したところ、炭化米や魚骨が検出された。

まとめ 出土遺物から遺構の年代は12世紀～13世紀と考えられる。この内、12世紀後半からの遺構が多い。また焼土層の年代は、壁面の土層観察から最も下の焼土層が13世紀前半の遺構に切られるので、これより以前の所産と考えられる。周辺の調査区と比較して輸入陶磁器の出土量と器種が豊富である。



1. 調査地点の位置 (34 箱崎 2639 1 : 8000)



2. 北半調査区全景(南から)



3. 南半調査区全景(北から)

0215 五十川遺跡群第9次調査 (GJK-9)

所在地	福岡市南区五十川2丁目219-4. 220-4	調査面積	42㎡
調査原因	専用住宅建設	担当者	山崎龍雄
調査期間	2002.5.10～5.20	処置	記録保存

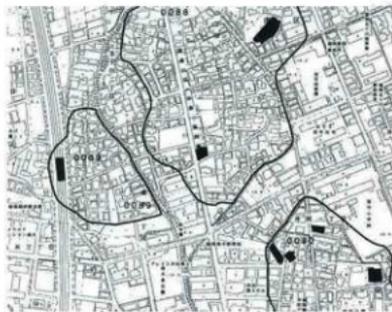
位置と環境 五十川遺跡群是那珂川の右岸の、春日市の須玖丘陵から北に伸びる台地上に立地している。周辺には比恵遺跡群、那珂遺跡群や井尻B遺跡群など、弥生時代から中世にかけての大遺跡がある。これらの遺跡は台地上に途切れることなく繋がっている。

検出遺構 調査はバックホーで、約50～60cmの表土を除去することから始めた。遺構面は鳥居ローム層で、その標高は最高で9.4mを測る。遺構面の北側は段落ちしており、地表面から深さ1.3mとなる。この部分は宅地化する以前は水田であった。

検出した遺構は弥生時代と思われる木棺墓1基、古代から中世の溝3条、円形の井戸状遺構2基、ピットなどである。溝1条は南側の一段低くなった部分で検出した。狭い調査区のため、井戸などは完掘出来ず、全容は把握出来なかった。

出土遺物 出土量はコンテナ3箱ほどで少ない。種類としては弥生土器、古代瓦、中世の播鉢や土師器皿、中国産の越州窠青磁や白磁・青磁・陶器片などと、磨石・砥石小片が出土している。井戸から中国銭が2枚出土している。

まとめ 狭い調査区のため、十分な調査は出来ず、また遺構の性格も十分把握し得ないが、遺構の時期は弥生時代から中世までであり、調査地周辺には該期の遺構が全体に存在することが考えられる。今後、調査地南側の道路予定地で調査が行われるので、遺構の全容把握についてはそれに期待したい。



1. 調査地点の位置 (24 板付 0088 1 : 8000)



2. 検出遺構全景 (南から)



3. 木棺墓 (西から)

0216 席田大谷遺跡群第6次調査 (OTN-6)

所在地 博多区東平尾2丁目4

調査原因 道路改良工事

調査期間 2002.5.08～7.13

調査面積 355㎡

担当者 井上満子

処置 記録保存

位置と環境 席田大谷遺跡群は、福岡平野の東側に南東から北西へ延びる月隈丘陵の北端部近くに広がる。現在までに5次の調査が行われており、いずれも丘陵上に位置している。現在までの調査で弥生時代～古墳時代の集落が検出されている。現地表下約2m、標高7.3～7.6mの黄褐色土（花崗岩パイラン土）上面が遺構面となり、南東から北西へ向かい傾斜して落ちる。

検出遺構 調査区北側に遺構が集中していた。調査区の南側は遺構面が高く、遺構は少なくなり、削平を受けていると推定される。検出された遺構は、弥生時代の円形住居址（2軒の切り合い）、掘立柱建物4棟、井戸2基、土坑、その他柱穴多数である。また、調査区北西端は地山が北へ急に落ち込み、土器を多量に含む黒褐色～灰褐色粘質土が堆積していた。特に地山の落ち際に土器が集中している。ほとんどは破片であるため、調査区東側の丘陵上集落より流れ込んできたものと思われる。

出土遺物 弥生時代中期～後期を主体とする土器がパンケースで70箱出土している。

まとめ 本調査区の遺構密度から、集落は西側にも広がり、本調査区を含む丘陵裾部の一帯は微高地が続くと推定される。

報告書は2003年に刊行予定である。



1. 調査地点の位置 (23 雀居 0024 1 : 8000)



2. 調査区全景 (北から)



3. 調査区北側包含層土器溜 (西から)

0217 那珂遺跡群第84次調査 (NAK-84)

所在地 博多区那珂2丁目213-2、

214-1, 214-3, 221

調査原因 確認調査

調査期間 2003.5.10～5.14

調査面積 152m²

担当者 久住猛雄・田上勇一郎

処置 埋め戻し保存

位置と環境 那珂遺跡群は、御笠川と那珂川に挟まれた段丘上に位置する。調査地は那珂遺跡群のほぼ中央部で、那珂八幡古墳の南側に位置する。前年度末の83次調査では、共同住宅建設に伴ない道路面まで掘削する部分の記録保存を行った。敷地中央部については、建設基礎工事が遺構に影響しないよう行われる予定であった。しかし、工事立会の結果、表土の掘取り工事が遺構面に一部及んだこと、また前年度検出の方形周溝墓が前方後方形になることが判明したことから、工事を一時中断し、関係者と協議の上、今回の確認調査を行うことになった。

検出遺構 古墳時代前期の前方後方形周溝墓1、弥生時代後期～終末期の溝状遺構2、飛鳥時代～奈良時代の竪穴住居1+ α （削平で貼床のみのものがある）、弥生時代および古代～中世の土坑・柱穴、古代末～中世の包含層などを検出した。なお、遺構の多くは平面検出にとどめ、少量の遺物や覆土の色・質による時期の推定のためその変動はありうる。前方後方形周溝墓、溝状遺構、包含層の一部のみトレンチ調査を行っている。なお調査後は埋め戻し、建設基礎工事は遺構面の上に盛土して行うよう指導している。

出土遺物 限定的な調査のため遺物の出土は少なく、ハンケース1箱程度である。弥生土器、古式土師器、飛鳥時代～奈良時代の土師器・須恵器、古代末以降の土師器・輸入陶磁器がある。

まとめ 前方後方形周溝墓は、周溝内法で全長約18.7m、後方部幅11.8m、くびれ部幅約5m、前方部幅約7.4mを測る。また周溝墓東側は小溝を切るが、この溝は83次のSD009と合わせて芯々幅約6mの並列溝となり、弥生時代終末期成立の道路遺構の一部であろう。なお周溝墓は飛鳥時代以降に破壊されている。

報告書は83次調査と合わせて2004年度末に刊行される予定である。



1. 調査地点の位置(38 塩原 0085 1:8000)



2. 調査区全景 (東から、手前が前方部)



3. 調査区全景 (西から、奥側が前方部)

0218 福岡城址第49次（鴻臚館跡）調査（FUE-49）

所在地 福岡市中央区城内1
調査原因 確認調査
調査期間 2002.5.13~2003.3.31

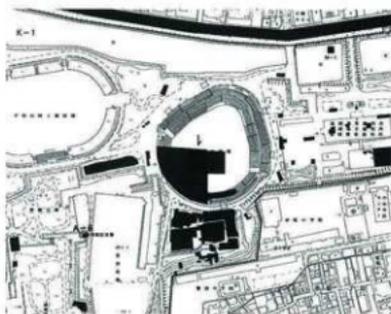
調査面積 1200㎡
担当者 折尾学・大庭康時
処置 埋め戻し保存

位置と環境 国指定史跡福岡城跡（舞鶴公園）内に所在した、鴻臚館跡の全容解明を目的とした確認調査である。鴻臚館跡関連調査では、第18次となる。平和台野球場跡地南半分の調査を第IV期とし、平成14年度はその北側中央部分を対象とした。

検出遺構 バックホウで平和台野球場に関わる盛土を除去し、以下を人力で精査した。福岡城関連の遺構としては、三の丸中央を東西に通る道路遺構と、それに面した家臣（上士）屋敷の柱穴や土坑などを検出した。鴻臚館の遺構としては、第I期の土留石垣、掘立柱建物、掘立柱塀、第II期の石垣、布掘掘立柱列、第III期の礎石抜き跡、第IV期以降の廃棄土坑を検出した。第II期の石垣は、高さ4.2mで東西に築かれたもので、延長20m分を確認したのみであるが、さらに東西に伸びるものと考えられる。

出土遺物 このほか、後期古墳の石室残欠を検出した。大量の鴻臚館関係瓦、初期貿易陶磁器、新羅焼き、須恵器、土師器などが出土した。

まとめ 鴻臚館北館が、当初から大規模な造成を伴ったことが明らかとなった。出土遺物の年代観から、鴻臚館の第I期施設が作られたのは、7世紀後半頃であり、後期古墳を削平して、整地を行っていた。8世紀前半には、さらに大規模な盛土をおこなって拡張し、その南側には高さ4mを超える石垣を築いて、第II期の施設を設けた。8世紀後半にこの石垣を埋め込み、第III期の礎石建物を営んでいる。さらに、谷を挟んだ南館と北館が同一規格で設計されるようになるのは第II期以降であり、第II期に鴻臚館の構造上の画期があったことが推測できる。



1. 調査地点の位置（60 舞鶴 0193 1：800）



2. 調査区全景



3. 作業風景

0219 下月隈C遺跡第8次調査 (SHC-8)

所在地 博多区月隈4丁目
 調査原因 調節池建設
 調査期間 2002.4.1～2003.3.31

調査面積 10,000㎡
 担当者 山崎龍雄・荒牧宏行
 処 置 記録保存

位置と環境 調査区は福岡空港の南側、御笠川右岸の沖積微高地上に広がる下月隈C遺跡の中央部に位置する。現在の標高は9～10mを測る。調節池建設に伴う調査は今年度で5年目を数え、弥生時代から鎌倉時代にかけての各時代の遺構が調査されている。

検出遺構 今年度の調査地点は用地の南東側である昨年度の調査成果に基づいて、主に3時期の遺構面を調査した。

上から第1面、中世前期では席田郡の条里地割に沿う大溝や水田と土坑を検出し、調査区中央部では、条里の坪境と思われる大畦を検出した。第2面の古墳時代後期から古代前期の面では水田と溝、川と堰、土壌を検出した。奈良時代の川は昨年度『皇后宮職』木簡を検出した続きである。

第3面の弥生時代前期から弥生終末期の面では、20棟を超える多数の掘立柱建物群、溝、土坑、井戸、柱穴群などを検出した。建物の柱穴には柱や礎板などが残っていた。

出土遺物 弥生時代前期から中世後半にかけての時期の遺物が出土した。出土量は土器・陶器・磁器・石器と木製品・種子・獣骨などの自然遺物が総量でコンテナ約300箱である。

特筆すべき遺物として、第2面の奈良時代から平安時代初めの川からは墨書土器や人面墨書土器・人形など水祭祀に関連する遺物が出土している。

ま と め 今回の調査地点では台地中央から北側にかけて弥生時代の集落を確認した。时期的には前期から出現する集落で、谷一つ西に隔てた第6次調査区でも同時期の集落が存在する。下月隈C遺跡では浅い谷に隔てられた細長い沖積微高地上に弥生時代の集落が点在していることが判明した。



1. 調査地点の位置 (10 下月隈 2625 1 : 8000)



2. 第3面の弥生時代集落



3. 検出された弥生時代の建物

0220 博多遺跡群第138次調査 (HKT-138)

所在地 博多区冷泉町35・36・37

調査原因 共同住宅建設

調査期間 2002.6.3～8.23

調査面積 27,185㎡

担当者 本田浩二郎

処置 記録保存

位置と環境 博多遺跡群は中世都市「博多」を中心とした弥生時代から近世にかけての複合遺跡である。

第138次調査地点は博多浜の中央部付近に位置しており、南北方向に狭長な地形であることから、南北で1・2区と分け調査を行い、1区で三面、2区では二面の遺構面を設定し大別して5時期に分けられる遺構面の調査を行った。

検出遺構 検出された遺構は溝遺構・廃棄土坑・柱穴・井戸・古墳時代の住居などがある。1区では中世前半期の時期の近接する整地層が複数面検出され、整地層中からも大量の遺物が出土した。

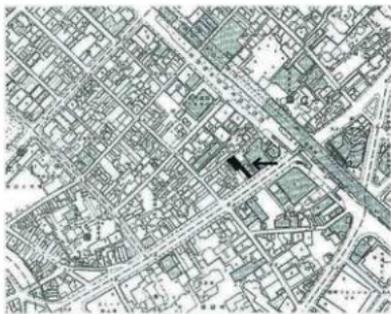
砂層面上で検出される溝遺構は8世紀から9世紀代の時期が考えられ、東西方向または直交するように掘削されており、何らかの区画溝と考えられる。調査区付近では、官衙に関連する施設の存在が推定されており、今回検出された溝遺構などもこれらに関連する可能性が考えられている。

基盤層となる砂丘砂は北側（海側）に向かって緩やかに傾斜する状況が検出され、調査区北側に谷地形が存在することが想定される。

出土遺物 遺物はコンテナケース240箱分の弥生土器・古式土師器・土師器・須恵器・貿易陶磁器・銅銭・銅製品・獣骨などが出土した。注目される遺物として、第50号遺構から出土した墨書土師器坏がある。器の内外面に合わせて4頭以上の馬が描かれており、絵馬に相当するものと考えられる。

まとめ 調査区が狭長であるため、断片的な資料のみの検出となったが、付近の調査成果より古代の区画方向が復元でき、当時の空間利用について貴重な知見を得ることができた。

調査報告書は2004年度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置 (49 天神 0121 1 : 8000)



2. 1区第1面全景 (南から)



3. 1区第2面全景 (南から)

0221 博多遺跡群第139次調査 (HKT-139)

所在地 博多区冷泉町527番1他
 調査原因 共同住宅建設
 調査期間 2002.6.3～8.23

調査面積 410㎡
 担当者 長家 伸
 処置 記録保存

位置と環境 博多遺跡群はJR博多駅から北西に延びる「大博通り」を中心として広がる古砂丘上に立地する遺跡群である。この砂丘は東西方向に延びる3列の砂丘列によって構成されているが、今回の調査対象となったのは内陸側、通称「博多浜」の西端部分にあたる。調査地点の南には博多総鎮守として知られる櫛田神社がある。

検出遺構 調査は現地表面から1.8～2.3mの表土を除去して行った。地山砂丘砂の標高は南側で3m前後、北側で2.4mを測る。遺構は井戸、土坑、溝、柱穴等が確認されている。遺構の時期は奈良時代～近世に位置付けられるが、11世紀後半～12世紀代の遺構・遺物を中心としている。

遺構として認められるのは奈良時代から、SE0116からは墨書、獸脚、水晶等が出土している。ついで中世前半代には遺構・遺物共に最盛期を迎える。特に井戸は切り合いを有しながら調査区全体に広がっている。13世紀代には鉄銅関連の鋳型・羽口・銅滓などが認められる。この後の時期には南東側に位置する第80次調査においても廃棄坑から歡喜天鋳型をはじめとする関連遺物が出土している。室町時代には東半部分に溝が数条確認されている。近世には瓦組み井戸が認められ、廃棄時に鉄鋳造関連遺物(炉壁、鉄滓)が投棄されている。

出土遺物 遺物は総計でコンテナ231箱分出土している。主体は白磁を中心とする11世紀後半～12世紀代の陶磁器・土師器である。遺構には伴わないものの遺物としては弥生時代のものから認められる。また鉄・銅の鋳造関連遺物が認められる。

まとめ 今回の調査では中世前半代を中心として多くの遺構・遺物を確認した。特に井戸は各時代を通じて、良好な資料を提供している。また生産関連の遺物も比較的まとまって認められる。時期により生産内容が異なっており、今後遺物分布の検討も必要である。

報告書は2003年度に刊行予定である。



1. 調査区地点の位置(41 天神 0121 1 : 8000)



2. 調査区東半全景(西から)



3. SE0122 (南から)

0222 徳永古墳群H群第4次調査 (TKK-H-4)

所在地 西区大字徳永アラタ
384-19、384-41
調査原因 農地開発 (山林開墾)
調査期間 2002.6.14～8.29

調査面積 249m²
担当者 瀧本 正志
処置 記録保存

位置と環境 徳永古墳群は、市西部に位置する高祖山から北へ舌状にのびる丘陵背上に築かれた群集墳のひとつで、標高50m前後に築かれた10数基の円墳から構成される。当該調査古墳である11号墳と13号墳は東西に並ぶ位置関係にある。

検出遺構 11号墳は横穴式石室を主体部とする円墳で、墳径11mを測る。石室の上半部は欠失し、墳丘中央部は陥没していた。石室の入り口は南方に開口し、羨道は1mと短く前庭部につづく。玄室は両袖式で幅2m、奥行き2.8mを測り、ひと抱えほどの花崗岩で築いている。床面は残存状況から、造営時に石敷きであったと考えられる。閉塞施設は、厚さ10cmほどの板石を玄門に立て掛け、外側を小石で埋めている。墳丘東側裾部周縁には高さ0.7m程の石積みが巡る。13号墳は墳丘の東部をわずかに残すのみで、石室をはじめとする古墳施設の大半を欠失する。11号墳と同規模の古墳と推定される。

出土遺物 11号墳玄室からは鉄鏃、ガラス玉、周溝からは須恵器平瓶、杯身片が出土。また、墳丘土内からは縄文時代の石斧、黒曜石製石鏃・剥片、甕形土器も出土しており、出土遺物総量はコンテナ2箱である。

まとめ 11号墳の追葬回数は不明であるが、出土遺物などから6世紀末頃に築造されたものと推定され、13号墳についても積極的根拠には欠くものの同時期と推定される。またこれら古墳群の被葬者は徳永もしくは女原地区に生活基盤を有していたと考えられる。

なお、本調査では住居跡等の直接的遺構の発見には至らなかったが、遺物の出土状況から当該地において縄文時代後期の集落が存在していた可能性は極めて高く、今後の周辺地域における重要な検討課題といえる。

調査報告書は2004年度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置(121 飯氏 0713 1 : 8000)



2. 第11号墳墳丘残存状況 (東から)



3. 第11号墳石室残存状況 (南から)

0223 雑餉隈遺跡群第12次調査 (ZSK-12)

所在地 福岡市博多区昭南町2丁目19番地
 調査原因 専用住宅建設
 調査期間 2002.6.18～6.28

調査面積 29㎡
 担当者 松浦 一之介
 処置 記録保存

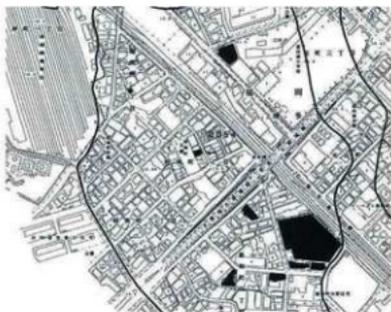
位置と環境 雑餉隈遺跡群は、東西を御笠川と那珂川に挟まれた須玖丘陵の北東に延びる台地上に立地する。調査地点は本遺跡群の西側である。福岡市の最南端で、春日市との市境付近に位置する。周辺には麦野遺跡群や南八幡遺跡群などが展開する。

検出遺構 調査は先ず重機で表土除去作業を行い、約20cm掘削した標高20.5m付近で遺構面（鳥栖ローム層）に達した。その後人力で遺構を発掘し順次記録した。排土処理の都合上、反転調査した。

検出した遺構は竪穴住居址、土坑、柱穴からなる。いずれも大きく削平されていた。竪穴住居址は3棟検出したが、調査区が狭いためいずれも全体の規模は不明である。この内SC-01は一辺が3.2mを測り、方形もしくは長方形を呈するものと考えられる。住居の北側では、竈と思われる非常に固く締まった灰白色粘土層が一部検出されたが、調査区が狭く全体の構造は不明である。床面の遺存状況は良好で、地山由来の粘質土で貼床が施され、床面直上からは破碎した土師器や須恵器が出土した。

出土遺物 出土遺物は須恵器（坏・蓋）、土師器（坏・高坏・甔）などの他、平瓦が1点出土した。総量はコンテナケースに4箱分である。

まとめ 出土遺物から遺構の年代は8世紀代と考えられる。この他の年代を示す遺物は出土しなかった。雑餉隈遺跡群及びその周辺の麦野遺跡群や南八幡遺跡群などでは、当該時期の竪穴住居址から構成される集落遺跡が相次いで調査されているが、本調査区もその一部である。また1点のみ出土した平瓦片は、JR鹿児島線を挟んで北側約150mの位置にある雑餉隈遺跡群第9次調査地点で、奈良時代の大型掘立柱建物が発見されていることから、これとの関連が想起される。



1. 調査地点の位置 (13 雑餉隈 0054 1 : 8000)



2. 西半調査区全景(西から)



3. SC-001竪穴住居址遺物出土状況 (西から)

0224 箱崎遺跡第32次調査 (HKZ-32)

所在地 東区箱崎3丁目地内

調査原因 道路建設

調査期間 2002.4.22～9.20

調査面積 442.43㎡

担当者 中村啓太郎

処置 記録保存

位置と環境 箱崎遺跡は博多湾に面した砂丘上に立地する中世を中心とした遺跡である。本調査区は遺跡群の北西端、道路を挟んで東西2地点に位置する。

検出遺構 検出した遺構は掘立柱建物、井戸、溝、土坑、柱穴等である。西側地点は遺跡端に位置し、次期は中世末～近世を中心とし、遺構の密度は薄い。東側地点は複数の整地層及び焼土層が確認された。残りのよい第2焼土層は13世紀後半～14世紀前半と考えられる。これらは周囲の調査でも確認されておりかなりの広範囲にわたるものと思われる。

出土遺物 出土遺物は土師器、須恵器、瓦器、輸入陶磁器類、陶器類、瓦、釘等の鉄製品、石鍋等の石製品がコンテナ45箱出土している。陶磁器類の中には火を受けたものが幾つか存在する。

まとめ 今回の調査では遺跡が従来の周知範囲より西へ拡大することが確認された。焼土層については単なる火事によるものか、戦火によるものか現時点では分からないが、大規模な火災である。



1. 調査地点の位置 (34 箱崎 2639 1 : 8000)



2. A区全景 (西から)



3. B区全景 (西から)

0225 弥永原遺跡群第7次調査 (YNB-7)

所在地 福岡市南区柳瀬1丁目121-3
 調査原因 専用住宅建築
 調査期間 2002.6.25~7.2

調査面積 132.32㎡
 担当者 吉武 学
 処 置 記録保存

位置と環境 弥永原遺跡群は須玖丘陵の西側に細く伸びる丘陵上にあり、谷を挟んで東側に臼原遺跡（今は弥永原遺跡に含まれる）があり、臼原遺跡＝墓地、弥永原遺跡＝集落として一対になるものとみられる。第7次調査地点はこの細い丘陵の西側斜面に立地し、丘陵上には第1～5次調査地点が位置している（1～3次は同じ地点）。

検出遺構 対象地の地形的制約から試掘調査を行うことができなかったため、盛土の除去後に立会調査により遺構を確認し、その後人力を投入して掘削作業を行った。埋め戻しは行っていない。基盤土は花崗岩風化土や八女粘土が再堆積した層で、西に下る。標高18.5～19m。基盤土の上に厚さ20cmの黒色粘質土が乗り、弥生時代中期～古墳時代前期の土器を含む。検出遺構は、弥生時代後期末の溝1条と時期不明の小ピット群である。溝は横断面形が逆台形状で、幅1.5m、深さ0.4～0.5m、長さ約8mを確認した。西へ向かって落ち、底面には水流によってえぐられた窪みがあり、粗砂が堆積していた。勾配の緩やかな部分から廃棄土器が多量に出土した。

出土遺物 包含層からコンテナ4箱、溝から同11箱の土器が出土した。特筆すべき遺物として溝下層より半島系の硬質土器片が出土した。

ま と め 今回の調査で確認した溝は、集落の環溝の一部である可能性が高い。一方、第3次調査でも、弥生時代中期にさかのぼる可能性のあるV字溝と、弥生時代後期の逆台形溝の二つの溝が確認されている。時期や溝断面形からみると、後者の溝が今回のものに近いが、現状では位置的にみて一連のものとは考えがたい。今回の調査結果から、周辺の宅地下に遺構が残っていることは確実とみられるので、柳瀬1丁目での今後の開発行為には特に留意が必要である。



1. 調査地点の位置 (40 老司 0105 1 : 8000)



2. 作業風景 (南から)



3. 調査区全景 (北から)

0226 周船寺遺跡群第14次調査 (SSJ-14)

所在地	福岡市西区大字飯氏字井町921-2	調査面積	488.25㎡
調査原因	共同住宅建築	担当者	阿部泰之
調査期間	2002.8.1～9.20	処置	記録保存

位置と環境 本調査区は、糸島平野の東端、周船寺川によって形成された沖積微高地上に広がる、周船寺遺跡群の南部に位置する。遺構は、標高約10mの現地表面からマイナス30から80cm、明褐色から暗褐色を呈するシルト質土上にて検出される。

検出遺構 検出した遺構は、溝1条である。幅50から80cmを測り、南西から北東方向に伸びる。時期は、遺構検出面のシルト質土が縄文時代晩期頃の包含層となっており、この遺物が混じったため詳しい時期はわからない。また、遺構検出面のシルト層の下層から、微高地の間に形成された、小規模な谷地形が検出された。

出土遺物 出土した遺物は、コンテナにして20箱を数える。混入と思われるわずかな弥生土器をのぞけば、ほとんどすべてが縄文土器である。下層の谷地形からは、黒曜石が多数出土した。

まとめ 今回の調査で検出された遺構は、溝1条のみである。下層の谷地形に沿って掘られているため、おそらくそう新しいものにはならないと思われるが、詳しい時期は今のところ不明である。既往の調査例から推して、集落の中心部は本調査区よりさらに西側になると思われる。



1. 調査地点の位置 (132 千里 0689 1 : 8000)



3. 縄文土器出土状況 (東から)



2. 検出遺構全景 (北から)

0227 下山門乙女田遺跡第3次調査 (SMO-3)

所在地 西区下山門3丁目470

調査原因 共同住宅建築

調査期間 2002.8.1~11.10

調査面積 1,009㎡

担当者 杉山富雄

処置 記録保存

位置と環境 早良平野西部の室見川と十郎川との間の沖積低地のなかでも、長柄川流域に位置する。博多湾に面した愛宕山から小戸にかけて点在する残丘間に発達した砂州上に砂丘が生成しているが、遺跡はその後背湿地にあたる低平な地形上に立地する。

検出遺構 調査区中央に東西方向の溝3条がある。南側のもは雨落ち溝状で浅く、礫が密集する。他の2条は水路か、流水の痕跡をとどめている。溝の埋没後溝と軸を同じくして柵が設置されている。溝の南北には柱穴が密集する。南側の一群は、大形で根石、柱痕跡などを残すものが顕著である。この柱穴群は全体として矩形の範囲に収まる。柱穴群の南辺では、これに沿うように小穴列が東西方向に延びており、柵が設置されていたものか。調査区南辺部および、溝北側に方形の土壌が集中する。すべて底面に粗砂の薄層が残り、それより上は人為的に埋められている点で覆土、底面の様態がすべて共通しており、分布の様態と併せて特異である。井戸5基は調査区の2カ所に分布する。石組み、桶を井戸側とするもの、素掘りのものとある。調査区南半部では銅銭を埋納する遺構2基を検出した。一方は土師器坏内に納めるもの、他方は小穴である。

出土遺物 遺物は糸切底の土師器坏・皿のほかに、調査区南半部では宋代の白磁、龍泉窯系をはじめとする青磁などが、北部では朝鮮製陶磁器が出土している。また、銅銭が井戸埋土、包含層など各所から出土した。

まとめ 南側の柱穴群は、規模と全体の分布状態から大形の建物を構成するもの考えられる。全体として第1次・2次調査地点の柱穴群に連なると考えられるもので、北側に推定される微高地に向かって広がっていることが推測される。

調査報告書は2003年度刊行。



1. 調査区的位置(90 石丸 2474 1 : 8000)



2. 調査区南半(北から)



3. 調査区北半(南から)

0228 南八幡遺跡群第11次調査 (MHM-11)

所在地 福岡市博多区元町1丁目29-15

調査原因 共同住宅建築

調査期間 2002.8.1～8.23

調査面積 177㎡

担当者 上角智希

処置 記録保存

位置と環境 南八幡遺跡群は福岡市の南端部、雑餉隈丘陵上に立地する。雑餉隈丘陵は諸岡川などによる開析を受けて谷部は複雑に入り、支丘がやつで状に展開している。その各支丘上に南八幡遺跡群をはじめとする遺跡が立地している。本調査区は低丘陵の東南側裾部にあたり、東側隣接地は30年前まで池であった。

検出遺構 現地地下0.8～1.6mで古代の遺構面を検出した。遺構面は東側の池に向かって落ちていく。主な検出遺構は方形の竪穴住居跡1棟、掘立柱建物2棟、溝2条、土壇3基、ピットである。竪穴住居跡は壁高が50cmとかなり深く、東壁中央で作り付けの竈を検出した。壁面は赤く焼け、周辺で灰白色粘土片、土師器の変が出土した。掘立柱建物の規模は1間×2間および1間×1間で、軸方向を同じくする。これらの遺構はすべて古代に属する。

出土遺物 出土した遺物はコンテナ2箱である。古代の土師器、須恵器が出土している。

まとめ 本調査区は丘陵東側裾部の斜面にあたっており、遺構密度は低い。周辺の調査事例と同様に古代の集落跡が検出された。



1. 調査地点の位置 (13 雑餉隈 0051 1 : 8000)



2. 検出遺構全景 (南東から)



3. S B07掘立柱建物 (東から)

0229 五十川遺跡第10次調査 (GJK-10)

所在地 福岡市南区五十川2丁目
 調査原因 市道御供所并尻線建設
 調査期間 2002.8.19~2003.3.26

調査面積 1,100㎡
 担当者 横山邦継・上角智希
 処置 記録保存

位置と環境 五十川遺跡は、福岡平野を北流する那珂川右岸の洪積低丘陵上に展開する弥生時代中期～古代にかけての複合遺跡である。今回調査は、道路新設(幅20m)に伴い遺跡南端部(A・B・D区)・北端部(C区)の4地点である。

検出遺構 各調査区の主な検出遺構について述べる。A区では、古墳時代前期円墳1基、7世紀初頭竪穴住居跡1・溝2、13世紀代の土壇6・溝1、他にピット群を検出した。B区では弥生前期V字溝・貯蔵穴2、中世後期溝1などを検出した。また、C区では弥生前期の方形竪穴住居跡1・袋状貯蔵穴4・長方形土壇2、弥生中期初頭の円形竪穴住居跡2、古墳時代前期の方形周溝墓2・箱式石棺1、平安後期土壇墓1、室町時代の大溝2を検出した。D区では弥生前期の溝1、弥生中期初頭溝1、室町時代の溝4・土壇1を検出した。各区ともに遺構の時期的な構成は共通している。

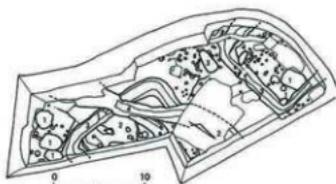
出土遺物 弥生時代前期から中世後半期にかけての遺物が出土した。出土量は、土器・陶磁器・石器・炭化米などの遺物を含めて総量がコンテナ約100箱である。

遺物では、夜白式土器・黒曜石剥片、朝鮮系無紋土器等の弥生前期土器類、等の古墳相伴土器、李朝象嵌青磁・洪武通宝等の銅銭が出土している。

まとめ 今回の調査地点では丘陵南端から北端にかけて弥生時代前期集落、古墳前期墳墓、中世後期の集落・墓地を確認することができた。北端部の前期集落は初めての調査例である。また、各地点に見られる遺跡の時期は共通しており、時間的に連続しない様相が明らかとなった。



1. 調査地点の位置 (24 板付・38 塩原 1 : 8000)



2. C区遺構全体図

- (1. 弥生前期
 2. 弥生中期
 3. 古墳前期
 4. 中世)



3. A区溝出土土器類 (1/6)

0230 那珂遺跡群第85次調査 (NAK-85)

所在地 博多区竹下3丁目1-3
調査原因 防音壁建設
調査期間 2002.8.27~9.18

調査面積 161㎡
担当者 井上 蘭子
処 置 記録保存

位置と環境 那珂遺跡群は、福岡平野の中央部、那珂川と御笠川に挟まれた洪積丘陵上に立地する。アサヒビール株式会社博多工場は、那珂遺跡群の北西端に位置し、本調査区は工場敷地内の南東端に位置する。現地地表約40~150cmの標高約6.7~7.8mの鳥栖ローム上面が遺構面となる。現在のローム面は南西から北東へ向かい緩く上がり、さらに北東側では北西へ向かい傾斜して落ちる。

検出遺構 井戸3基、弥生時代前期の貯蔵穴2基、土坑、ピットが検出された。SE08の底部には、須恵器の大型壺の口縁部が据え置かれていた。上端の直径は約3mでかなり大型の井戸である。また、貯蔵穴はいずれも底部のみの残存で上部はかなり削平を受けている。

出土遺物 SE08とSE09からは須恵器、土師器、瓦などがかなり多く検出された。また、SE09からは越州窯系の青磁片が出土している。

まとめ 本調査区の南西側に位置する14次調査地点では、弥生時代前期の貯蔵穴、古墳時代後期の竪穴住居址、古代の井戸、掘立柱建物が検出されており、本調査区と一連の集落の広がりや推定される。また、14次調査地点では、本来は北東側へ、本調査区では南西側へ向かい地形が上がっていたと考えられ、14次調査地点と本調査区の間には丘陵状の高まりがあったと推定される。

報告書は2004年に刊行予定である。



1. 調査地点の位置(37 東光寺 0085 那珂遺跡群)



2. SE09・SE10 (北西から)



3. SE08底部須恵器大型壺検出状況 (北東から)

0231 有田遺跡群第204次調査 (ART-204)

所在地 福岡市早良区有田1丁目
25番地の13他

調査原因 店舗併用住宅建設

調査期間 2002.8.19~8.30

調査面積 74㎡

担当者 松浦一之介

処置 記録保存

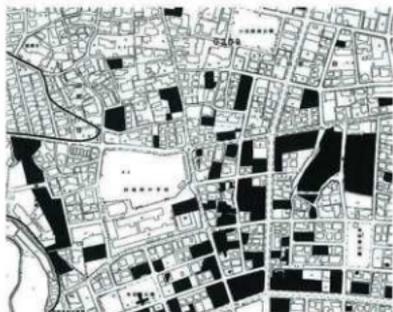
位置と環境 有田遺跡群は室見川の開析によって形成された早良平野のほぼ中央に位置し、標高15m前後を測る独立中位段丘に立地する。この台地の形成は洪積世に位置づけられ、本遺跡は旧石器から近世にかけての複合遺跡である。

調査は先ず重機で表土除去作業を行い、約40cm掘削した標高10.5m付近で遺構面（ローム層）に達した。その後人力で遺構を発掘し順次記録した。排土処理の都合上、反転調査した。

検出遺構 検出した遺構は溝1条のみである。この溝は東西方向に延び、深さ110cm以上を測る。立上りの部分に浅い犬走り状の段が付く。調査区の北側で検出され、溝の北側の立上りりは調査区外の道路下にあるものと考えられる。幅や断面の形状などは明確にできない。この他の遺構はない。

出土遺物 出土遺物は土師器片などビニール袋1袋に満たない。

まとめ 出土遺物から溝の年代は中世と考えられる。



1. 調査地点の位置 (82原 0309 1:8000)



2. 北半調査区全景 (南から)



3. SD-001溝西壁土層断面 (東から)

0232 老司古墳第5次調査 (RZK-5)

所在地 南区老司4丁目20番地内
 調査原因 共同住宅建築及び重要遺跡
 範囲確認調査
 調査期間 2002.8.23～8.26 (2日間)

調査面積 235.2m²
 担当者 吉武 学
 処 置 記録保存

調査に至る経過

調査地は老司古墳前方部の南側の旧畑地で、標高約37m、前方部頂との比高差約8mを測る。福岡財務支局保有の国有地であった平成12年5～9月に、売却に先立って実施した試掘調査により暗渠状の遺構が認められたため、今回の造成工事にあたって詳細な発掘調査を試みたものである。

位置と環境

老司古墳は那珂川西岸に位置し、背振山系の片縄山から派生する花崗岩基盤の丘陵上に立地する前方後円墳である。1966～69年に九州大学が第1～3次調査、1987年に福岡市教育委員会が第4次調査を行い、1989年に調査報告書が刊行済みである。



1. 調査地点の位置 (40 老司 0850 1:8000)

検出遺構

調査区は東西2ヶ所に分かれ、西側A区は共同住宅建築にかかる部分で、削平した斜面を厚く埋めており遺構は全くみられない。東側B区は古墳の範囲確認調査として実施した部分で、花崗岩風化土の斜面に3条の溝状の窪みを検出した。窪みの覆土は砂質土で、古墳から転落したものとみられる拳大の葺石や埴輪の破片が含まれていたが、蛇行する平面プランおよび凹凸をなす底面の状況からは人為的な遺構とは考えにくい。おそらく、降雨等により抉られて生じた自然流路に、古墳外表の一部が流出堆積したものと考えられる。その後、畑地開墾などの際に段状に造成され、その一部が残ったものであろう。一方、斜面の堆積土からは遺物が一切出土せず、今回の調査では段状に造成された時期を特定することはできなかった。



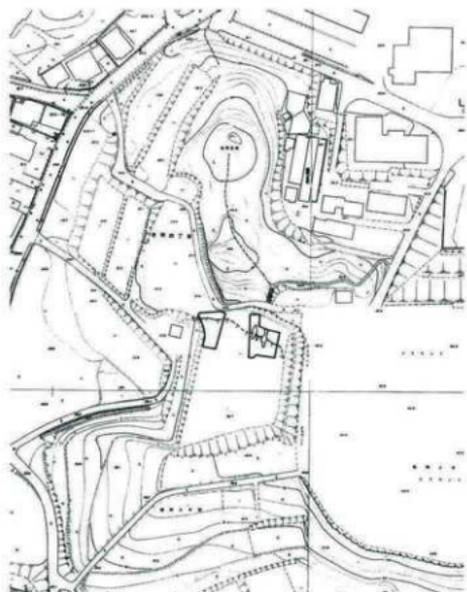
2. 西側A区全景 (西から)

出土遺物

東側B区の溝状の窪みより、壺形埴輪と円筒埴輪の小片がポリ袋にして1袋出土した。いずれも摩滅して器面の残りは悪い。1は壺形埴輪の口縁部付近、3は同じく底部付近の破片で、3の外面には縦ハゲがかすかに残る。2は胴部の破片だが埴輪かどうか不明。薄手で、内面に横のヘラ削り、外面に縦ハゲが残る。4は円筒埴輪の底部片で、内面に指頭痕を留める。5～8は円筒埴輪の胴部片で、5のみ突帯が残り、突帯上で径30.4cm、外面縦ハゲで内面は不明。他は突帯が剥げ落ちた胴部片でいずれも調整は不明瞭である。

まとめ

調査の結果、古墳外表の一部が流出堆積したものを検出したが、対象地においては老司古墳と関連する遺構はもとより、何らの人為的遺構も確認することができなかった。



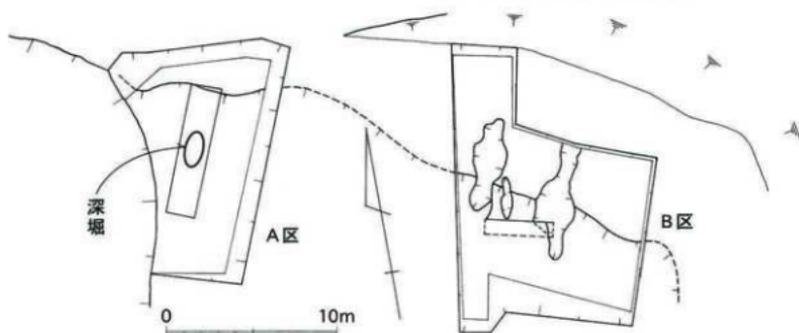
3. 調査区の位置 (1 : 2000)



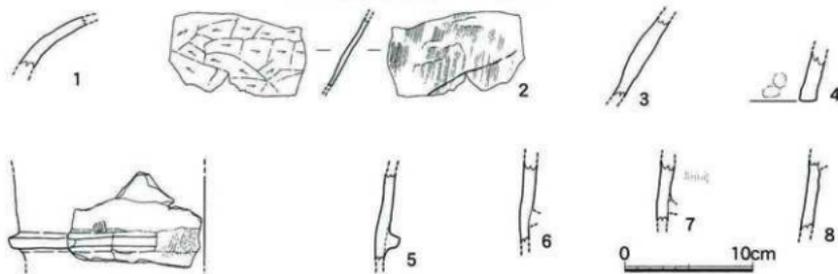
4. 東側B区全景 (南西から)



5. B区溝状の窪み (北東から)



6. 調査区の平面図 (1 : 300)



7. 出土遺物 (1 : 4)

0233 比恵遺跡群第79次調査 (HIE-79)

所在地 博多区山王2丁目17番2、44番

調査原因 整備工場等建設

調査期間 2002.9.4～12.4

調査面積 880㎡

担当者 長家伸

処置 記録保存

位置と環境 比恵遺跡群は福岡平野の中央部分を北流する那珂川と御笠川に挟まれた洪積台地上に立地する。本調査地点は台地の東側にあたり以前は比恵喪棺遺跡として周知されていたところである。

検出遺構 検出遺構は竪穴住居跡2棟、掘立柱建物3棟、井戸24基の他、溝、土坑、柱穴等が確認されている。また「水城東門ルート」の延長と考えられる道路状遺構が確認されている。井戸は弥生時代中期後半～後期を主体とし、中世前半代のものが数基認められる。竪穴住居跡・掘立柱建物は弥生時代及び古墳時代後期のものであろうか。道路状遺構は官道の西側を画する直線溝が確認されたが、東側の溝は認められなかった。また道路に伴うと考えられる砂質土を充填した付圧状の痕跡が部分的に残っているが、これは区画溝埋没後に行われており、溝の更にも西側にも広がっている。出土遺物からは溝が奈良時代後半代の埋没と考えられるが、付圧痕跡部分からは中世前半代の陶磁器類も出土している。

出土遺物 遺物は総計でコンテナ51箱分出土している。弥生時代の井戸からは投棄された土器の他、容器・杭その他の木製品も出土している。また道路状遺構の区画溝からは内面全体に墨痕が付着した高台付き椀が出土している。

まとめ 今回の調査では後世の削平が進んでおり、井戸等の深い遺構が主体であったが、本来は弥生時代中期後半以降の生活遺構が濃密に展開していたものと考えられる。また「水城東門ルート」は今回西側側溝と考えられる溝を確認したことにより、その直進性が確認されている。これにより今後の調査地点の設定がより具体的にできるものと考えられる。

報告書は2003年度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置 (37 東光寺 0127 1:8000)



2. C調査区全景 (北から)



3. A調査区全景 (西から)

0234 雑餉隈遺跡群第13次調査 (ZSK-13)

所在地	福岡市博多区新和町2丁目7番11	調査面積	167㎡
調査原因	共同住宅建築	担当者	吉武 学
調査期間	2002.9.26~10.11	処 置	記録保存

位置と環境 雑餉隈遺跡群は須玖丘陵の北東側の低丘陵上に位置する。第13次調査地点は遺跡の南側の最高所に近い部分にあたり、現地表面の標高は22.5m、遺構面の標高は22m強を測る。道路を挟んで東側に5・8・10次調査地点が隣接する。現況は駐車場である。

検出遺構 調査はバックホーによる表土除去と、この撤出から開始した。地表下0.35mで黒色土（古代遺物包含層）、0.55mでローム層（遺構検出面）となるが、調査期間の制約及びび出土遺物が極く少量であったため、黒色土はバックホーにより除去した。その後人力を投入して掘削作業を行った。埋め戻しは行っていない。

基盤土は鳥栖ローム層で、調査区内でゆるく西に下る。最上部にはアカホヤや黄砂を含む暗黄褐色粘質土が乗り、この上面が遺構検出面となる。検出遺構は、竪穴住居跡の床面の可能性がある浅い土坑1基、掘立柱建物4棟、ピット多数である。出土遺物が少ないが、周辺の調査事例から推して古代のものと考えられよう。これらの遺構の調査終了後、ローム層を対象に先土器時代の調査を行った。鳥栖ローム上部より黒曜石・安山岩などの剥片・チップ類が出土したが定型的な利器は認められず、出土状況は散漫で石器の集中箇所も認められなかった。ナイフ形石器文化期後半期のもと考えられる。

出土遺物 先土器時代の石器、古代の土器など、あわせてコンテナ2箱である。

ま と め 第5・8・10次調査の所見から、今回の調査地点には古代の掘立柱建物群が展開していることが予想されたが、これを追認する結果となった。先土器時代については同前調査で4カ所の遺物集中区が認定されており、今回はこれにさらに1群を加えることとなった。



1. 調査地点の位置 (13 雑餉隈 0054 1 : 8000)



2. 調査区全景 (北から)



3. 先土器時代調査区全景 (東から)

0235 比恵遺跡群第80次調査 (HIE-80)

所在地 博多区博多駅南3丁目50番地
調査原因 共同住宅建設
調査期間 2002.9.24~11.22

調査面積 165.7㎡
担当者 本田浩二郎
処置 記録保存

位置と環境 比恵遺跡群は、福岡平野の中央部近くに位置しており、御笠川と那珂川に挟まれた洪積丘陵の北端部に位置する。比恵遺跡の南側には那珂遺跡群が展開しており、両遺跡は検出される遺構・遺物などから一連の遺跡と考えられる。

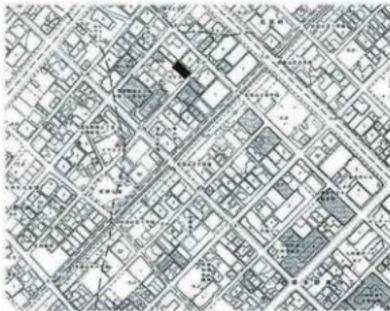
検出遺構 第80次調査地点は弥生時代に埋没した谷地形の内部に位置していることが周辺の調査から判明しており、包含層の調査を目的として掘り下げを行った。比恵遺跡の遺構面となる鳥栖ローム土層は谷地形の内部であることから調査地点では検出されず、鳥栖ローム層下に堆積する八女粘土層を基盤層として掘り下げを行った。

弥生時代の遺物を包含する黒色粘質土層面上には、古代の時期が考えられる水田面が検出されたが、畦畔などの施設は検出されず水田の規模などは不明確である。

出土遺物 遺物は弥生土器・石器・木器・木製品などがコンテナケース16箱分出土した。弥生土器は前期に属するものが多く小破片が大部分を占め、石器には打製石斧や黒曜石石核などがある。木器は三又鋤・平鋸・三又鋸・柱材・杭・用途不明品などが出土した。

まとめ 調査区は谷地形の中程に位置しており、予想より少量の遺物の出土しかなかったが、破損した打製石斧が数点出土しており、当時の石器流通の経路について貴重な資料を得ることができたことが成果としてあげられる。谷地形を利用したと考えられる弥生時代の水田遺構は本調査区内では検出されなかった。

調査報告書は2004年度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置 (37 東光寺 0127 1:8000)



2. 遺物出土状況 (南東から)



3. 遺物出土状況 (北西から)

0236 箱崎遺跡第33次調査 (HKZ-33)

所在地 福岡市東区馬出5丁目502・503
 調査原因 納骨堂建設
 調査期間 2002.9.24~10.8

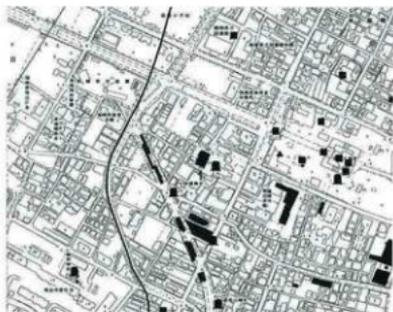
調査面積 150㎡
 担当者 中村啓太郎
 処 置 記録保存

位置と環境 箱崎遺跡は博多湾に面した砂丘上に立地し、本調査区は箱崎八幡宮の西側約50mに所在する恵光院内に位置する。

検出遺構 標高約2.8mで地山の黄褐色砂となり、この面で遺構を検出した。検出した遺構は井戸、土壇墓、溝、土坑、柱穴等である。東西方向に延びる溝は屋敷などを区画するものであろうか。柱穴は現在のところ、建物にまとめきれていないがこの溝に平行する傾向にある。時期は12世紀後半以降である。

出土遺物 出土遺物は土師器、須恵器、瓦器、貿易陶磁器類、陶器類、瓦等がコンテナ7箱出土している。

まとめ 今回の調査では中世の集落の一端を検出したと考えられるが、周囲の地点に比べてやや古い様相を示すようである。また出土した須恵器は古代のものであり周囲に該期の遺構が存在する可能性がある。今後行われる周辺の調査の成果と併せて検討したい。



1. 調査地点の位置 (34 箱崎 2639 1 : 8000)



2. 調査区全景 (北から)



3. 17号土壇墓

0237 藤崎遺跡第32次調査 (FUA-32)

所在地 福岡市早良区藤崎1丁目
12-1, 2, 55-1
調査原因 共同住宅建設
調査期間 2002.10.1～2003.1.31

調査面積 1,101㎡
担当者 池田祐司
処置 記録保存

位置と環境 藤崎遺跡は早良平野が博多湾に面した砂丘上に広がり、今回の調査地点はその最高所から後背斜面に位置する。

検出遺構 遺構は主に弥生時代前期末から中期および古墳時代はじめの墳墓と6世期の住居跡を確認した。弥生時代では調査区東側に前期末から中期初頭の甕棺、土壙墓もしくは木棺墓が集まり区画墓の様相を呈す。東側では同時期の木棺墓、甕棺が南北方向に並び、中期の小型棺が散在する。前期の甕棺3基から比較的残りの良い人骨が出土し、中期の小型棺から成人の頭骨が出土した。甕棺の総数は43基、木棺または土壙墓は15基である。古墳時代初頭の遺構は西側で内幅1.7mを測る方形周溝を確認した。中央には赤色顔料を多く出土する土坑が明治時代の擾乱に荒らされており、明治45年に三角縁二神龍虎鏡が出土した石棺墓の痕跡と考えられる。このほかに方形の周溝を2基確認した。南側の調査区では6世紀後半のカマドを持つ住居跡を5棟確認した。カマドは廃棄時につぶされ祭祀を行っている。中世では高取から続く東西方向の溝の続きを確認した。この他に古代の遺構が若干あるが、江戸時代終わりまで遺物は少なく、明治時代以降の井戸等の遺構が多い。

出土遺物 前期の甕棺からは勾玉1、管玉十数個、副葬小壺が出土した。方形周溝からは古式土師器が少量ながら出土した。

まとめ 高い密度で遺構、遺物を検出した。特に弥生時代、古墳時代の墳墓は注目される。弥生時代には、周辺からつながる甕棺墓域の一角で、前期末から中期初頭の古い時期の中心部分を確認することができた。古墳時代の周溝墓は6次調査検出の方形周溝墓群に連なるものである。

報告書は2003年度刊行予定である。



1. 調査地点の位置 (81 室見 0307 1 : 8000)



2. 調査区全景 (西から)



3. ST002、013 (西から)

0238 博多遺跡群第140次調査 (HKT-140)

所在地 博多区上呉服町161-4
 調査原因 共同住宅建設
 調査期間 2002.10.10~12.18

調査面積 90㎡
 担当者 井上蘭子
 処置 記録保存

位置と環境 博多遺跡群は、博多湾沿いに連なる古砂丘、那珂川右岸下流域に立地する。本調査区は、博多遺跡群の中央東寄りに位置し、東で護聖院、瑞応院と接する。北は107次調査地点、東は120次調査地点、南は102次調査地点と接する。

検出遺構 現地表下1~3m、標高約5~3mの間に遺構面が9~12面検出された。基盤層は黄白色砂層である。時期は8世紀頃から16世紀ごろまでで、検出遺構は集石遺構、土坑、ピット、井戸等である。根石のある柱穴も検出され、掘立柱建物の存在が推定されるが、調査区が狭小であったため、大きさは不明である。土師器杯が多量に出土した土坑、人頭大の礫を並べた遺構も検出されている。

出土遺物 包含層や遺構から土師器杯、陶器、瓦、明青花、龍泉窯系青磁、白磁、須恵器、銅銭等が検出されている。

まとめ 本調査区は、聖福寺関連の寺院敷地が広がっていたとされる102・120次調査地点と隣接している。調査区が狭かったために明確な遺構の広がりや確認できなかったが、瓦、輸入陶磁器、銅銭の出土や掘立柱建物などから本調査区も寺域に含まれていたと推定される。

報告書は2003年度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置 (48 博多 0121 1:8000)



2. I区第5面遺構平面図 (北東から)



3. II区第5面土師皿出土状況 (北西から)

0239 比恵遺跡群第81次調査 (HIE-81)

所在地 福岡市博多区博多駅南4丁目
188番.189番

調査原因 マンション建設

調査期間 2002.10.15~12.10

調査面積 486㎡

担当者 瀧本正志

処置 記録保存

位置と環境 比恵遺跡群の所在する洪積台地は、春日市から博多駅南側近くまで島状に高低を繰り返しながらのびる丘陵で、福岡平野のほぼ中央に位置し、御笠川と那珂川とに挟まれる。調査地はこの洪積台地の最北端部に位置し、標高5~10mを測る。

検出遺構 検出した遺構は弥生時代末~古墳時代前期の河川、木材集積遺構、土坑、柱穴等である。調査区西辺部に位置する河川は東岸側の検出にとどまったが、南北に流れを呈し、幅員は12m前後が推定される。東岸では丸太材を組み合わせた木材集積遺構の一部等を検出した。

出土遺物 遺物は、大規模な木材集積遺構内から祭祀に使用したと考えられる手焙り土器の完形土器を含む数点の完形土器が1ヵ所から集中して出土したのをはじめ、石垂などの石製品、平銀などの木製品がコンテナ14箱程出土した。

木材集積遺構については井堰の可能性が高いが、遺構の平面的配置から汐止め遺構や護岸遺構の可能性もあり、今後の調査結果を待つて判断する必要がある。

まとめ 本調査では、那津官家関連遺構や住居跡などの具体的所見を得ることはできなかったが、大規模な木材集積遺構の存在から極めて近辺に集落の存在が指摘されよう。

調査報告書は2003年度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置 (37 東光寺 0127 1:8000)



2. 第1調査区西半部全景 (西から)



3. 木材集積遺構SX08 (南から)

0240 元岡・桑原遺跡群第30次調査 (MTO-30)

所在地 福岡市西区大字桑原字牛切外

調査原因 大学建設用地造成工事

調査期間 2002.8.1～9.30

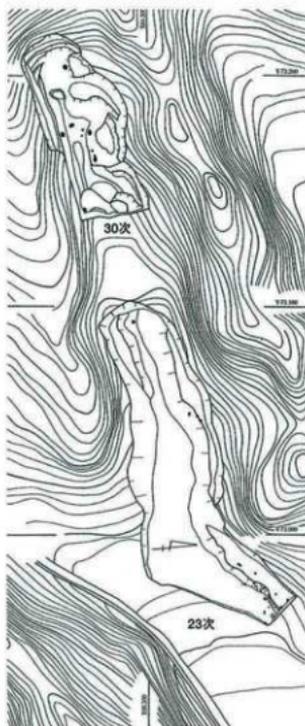
調査面積 2,450㎡

担当者 二宮忠司

処置 記録保存

位置と環境 福岡市と志摩町との境界に中世山城である馬場城がある。馬場城から派生した瘦尾根がヤツデ状に広がるが、その丘陵と丘陵にある谷状の一角に昨年確認調査を行ったE-2地点の西側を調査対象とした。

検出遺構 伏焼土壇が大小合わせて6基検出したが、出土遺物は全くない。壁が高温で焼かれていることから炭焼き窯と考えられる。



2. 23・30次調査区遺構全体図



1. 調査地点の位置 (139 桑原西部 1 : 8000)



3. 調査区遠景 (東から)

0241 西新町遺跡第15次調査 (NSJ-15)

所在地 福岡市早良区西新6丁目1-10
調査原因 高校改築
調査期間 2002.10.3～10.29

調査面積 1800㎡
担当者 岸本 圭
処 置 記録保存

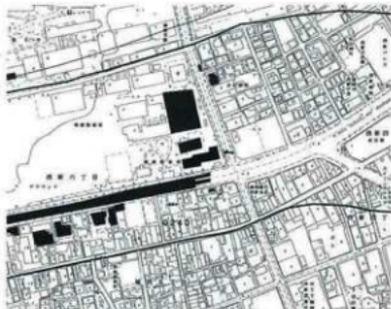
位置と環境 西新町遺跡は早良平野の北東端、博多湾に面した古砂丘上に位置する。修猷館高校改築に伴う文化財調査は平成10年度から継続して実施されているが、今回は敷地の南東隅にある校舎の解体に伴うものである。

検出遺構 調査区の北側には図書館があり、昭和59年度に発掘調査が実施され古墳時代の住居跡が検出されている。遺跡は校舎の基礎により大きく破壊を受けており、また基礎間にもコンクリート片・瓦片を含む攪乱が広範に広がっており遺構の残存は悪い。古墳時代の土坑1基と近世の井戸1基を検出した他は、浅い落ち込みや小ピットが分布するに過ぎない。なお、校舎の南側にトレンチをいれて遺構の有無を確認したが、近世のピットがあるのみで、古墳時代の遺構は検出されなかった。

出土遺物 出土遺物は古墳時代の土師器と近世の陶磁器で、パンケース1箱分である。土師器には朝鮮半島系とみられる甗が含まれている点が注目される。陶磁器には碗類の他に窯道具が若干出土した。

まとめ 今回の調査では、遺構・遺物ともにごく僅かしか確認できなかったが、西新町遺跡の集落が今回の調査区まで延びていないことが確認され、集落の範囲を考える上での資料が提供されたものとすることができよう。

調査報告書は2004年度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置 (71 西新 0240 1 : 8000)



2. 調査区全景 (北から)



3. 土坑1 (南から)

0242 元岡・桑原遺跡群第31次調査 (MOT-31)

所在地 福岡市西区大字元岡字宮草
 調査原因 大学建設用地造成工事
 調査期間 2002.10.1～2003.2.28

調査面積 1,975㎡
 担当者 二宮忠司
 処置 瓦溜・製鉄遺構確認調査

位置と環境 調査地点は幅30m～60mの谷部のほぼ中央部に位置し、両側に痩せ尾根が八の字状に広がっている。周辺部の西側尾根には前方後円墳である元岡古墳群I群1号墳と、円墳1基がある。

検出遺構 溝18条、瓦溜2ヶ所、鍛冶炉6ヶ所、基壇状遺構(礎石)?1ヶ所、柱穴多数検出された。瓦溜は北側台地に「コ」字状に瓦を検出した。瓦の出土部分は溝状となっており、幅4～5m、深さ0.2～0.4mある。SX-04の中にも瓦の一群が出土した。溝状遺構は18条検出した。中央部に集中しており、北西側には瓦も出土している。

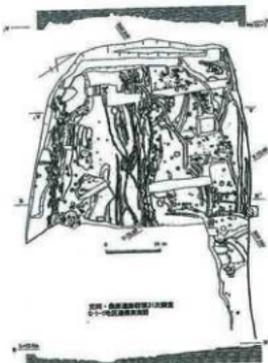
鍛冶炉は南側に集中して検出された。SX-04の北側にほぼ列をなして6基検出された。鍛冶炉にはそれぞれ廃滓土壙をもつ。焼土、釉の羽口等も出土。

北側に鍛冶炉・古墳時代の竪穴住居址・大溝が検出され、溝幅は1.5m前後で深さ2mを測る。

出土遺物 瓦・土師器・須恵器・鉄滓等が出土した。
まとめ 今回は瓦溜遺構・製鉄遺構の確認調査であったが、平安時代の遺構の広がりや古墳時代の大溝・竪穴住居址等を検出した。平成15年度に平安時代遺構を調査する予定である。



1. 調査地点の位置 (140 元岡 0772 1 : 8000)



2. G地区遺構実測図



3. 調査地点全景 (東から)

0243 雑餉隈遺跡群第14次調査 (ZSK-14)

所在地 博多区新和町2丁目24-1

調査原因 集合住宅建設

調査期間 2002.11.1～2003.1.17

調査面積 645㎡

担当者 岡三リビング館(株)埋蔵文化財調査室

堀苑孝志・入江俊之

処置 記録保存

位置と環境 福岡市域でも最南端部に位置し、春日丘陵の東辺に平行しながら延びる台地上に立地する。この台地には緩やかな谷が入り込み、こうして形成された舌状の起伏ごとに、麦野A・B・C遺跡群、南八幡遺跡群、そして雑餉隈遺跡群が分布する。

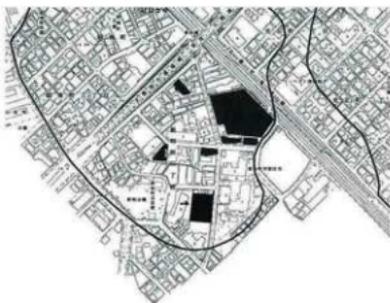
検出遺構 包含層が良好な状態で残存していたことから、鳥栖ローム上面で遺構を確認できた。遺跡の性格は、出土遺物から8世紀前半を主体とした集落跡であることが分かる。確認した遺構は、竪穴式住居跡19軒、土坑8基である。遺構相互が重複するものも認められるが、短期間に営まれたということもあってか、住居跡は規則性を保ち構築されている印象を受ける。

出土遺物 いずれの住居跡も、床面付近から完形の土器が多数出土しており、集落の変遷を具体的に把握できるものと考えられる。さらに竈の片袖脇に掘られた小穴から、完形の土器がまとまって出土する住居跡も幾つかあり、機能的要因なのか祭祀的な意識の所産か興味ある内容である。

これら古代の調査終了後に、旧石器時代を対象とした1.5×2.0mの試掘坑を2箇所を設置したところ、鳥栖ローム上層より、4点の剥片と1点の三稜尖頭器が出土した。材質はいずれもサヌカイトである。

まとめ 当初、遺跡の南端付近ということで、遺構密度は疎らになる傾向を予測した。しかし、まとまった集落の存在が明らかにされ、当遺跡の景観を推測する上で、貴重な成果を与えてくれた。また旧石器の出土も、分布範囲が広域になる可能性を認識させるに値した内容と言える。

報告書は2004年度刊行予定である。



1. 調査地点の位置 (13 雑餉隈 0054 1 : 8000)



2. 調査区北側全景 (南から)



3. SC005カマドと出土遺物 (南から)

0244 博多遺跡群第141次調査 (HKT-141)

所在地	福岡市博多区古門戸町87番	調査面積	286㎡
調査原因	マンション建設	担当者	上角智希
調査期間	2002.11.20～2003.1.24	処置	記録保存

位置と環境 本調査区は博多遺跡群が立地する古砂丘のうち最も海側の「沖の浜」西側に位置する。

検出遺構 2面について調査を行なった結果、12世紀後半から近世にかけての遺構を密に検出した。主な遺構は井戸5基、溝6条、石組遺構1基、土坑28基、柱穴多数である。柱穴には根石の残るものも多く見られた。

出土遺物 コンテナ41箱分の遺物が出土した。中世の土師器・貿易陶磁器や近世の土師器、国産陶磁器のほか、銭貨、博多人形等も出土している。

まとめ 溝の方向は現在の町筋とは異なりほぼ東西、南北方向に走っている。また根石を持つ柱穴群が溝と同軸方向に並ぶ傾向が認められる。

報告書は2003年度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置 (48 千代博多 0121 1 : 8000)



2. 南半第2面全景 (東から)



3. 石組遺構SK051 (北西から)

0245 箱崎遺跡第34次調査 (HKZ-34)

所在地 福岡市東区箱崎3丁目3356-1
調査原因 共同住宅建設
調査期間 2002.11.14~11.28

調査面積 70㎡
担当者 中村啓太郎
処置 記録保存

位置と環境 箱崎遺跡は博多湾に面した砂丘上に立地し、本調査区は遺跡の北端、標高3.8mに位置する。

検出遺構 標高約3mで地山の黄褐色砂となり、この面で遺構を検出した。本来はこの上に1~2面の遺構面が存在している。検出した遺構は井戸、土坑、柱穴等である。柱穴は現在のところ、建物などにまとめきれていない。時期は12世紀後半~14世紀と考えられる。

出土遺物 出土遺物は土師器、貿易陶磁器類、陶器類がコンテナ7箱出土している。

まとめ 今回の調査では中世の集落の一端を検出したと考えられるが、遺構埋土には炭、焼土が混じるものがあり、周囲の状況と併せて考えると大規模な火災があった可能性がある。今後行われる周辺の調査の成果と併せて検討したい。



1. 調査地点の位置 (39 三宅 2639 1 : 8000)



2. 調査区全景 (南から)



3. 第33号井戸

0246 飯氏二塚古墳第2次調査 (IJK-2)

所在地 福岡市西区飯氏字鏡原792他
 調査原因 重要遺跡内容確認調査
 調査期間 2002.11.15~2003.1.15

調査面積 110㎡
 担当者 吉武 学
 処 置 埋め戻して現状保存

位置と環境 高祖山から派生する標高35mの低丘陵上に位置する。第1次調査は、古墳の構造と時期を明らかにする目的で、1993年2月7日～6月16日に実施し、調査報告書が刊行済みである。第2次調査は前方後円墳の範囲確認、及び第1次調査の補足を目的として実施した。

検出遺構 古墳周囲の平坦地に周溝の存在が示唆されたため、南側を除く三方に3本のトレンチを入れたが、いずれも表土直下は花崗岩風化土となり、開墾などにより削平を受けていることが分かった。一部に地山整形による窪みも見られたが、古墳に関連する遺構は確認できなかった。

次に、石室掘り方と墓道の確認調査を実施した。石室掘り方の確認のため、両側壁と奥壁に幅80cm、高さ4mのトレンチを設けた。いずれのトレンチでも、石室床面より25～60cmほど高いレベルに古墳築造前の旧表土が現れ、これを掘り込んで腰石を据えていた。墓道部分は樹木を避け3.5×2mの範囲で掘削を行った。その結果、閉塞石両側の石積みは大きく開いて前庭部の貼り石となり、墓道埋土は版築によって堅く締められていることが明らかとなった。さらに南壁の土層断面の観察により、掘削時に盗掘坑と考えると掘り下げた部分の下に、2次埋葬の墓道と思われる溝状の窪みが一部存在することが分かった。2次墓道の版築は1次墓道ほど丁寧ではない。1・2次墓道とも、時期を示す遺物は出土していない。

出土遺物 古墳周囲のトレンチから甕棺片・須恵器片等が、掘り方トレンチと墓道部分から弥生土器・土師器・黒曜石・龍泉窯系青磁などの破片が、計コンテナ2箱分出土した。

ま と め 調査の結果、石室と墓道の構築方法の新知見が得られ、周溝が存在しないことが明らかとなった。

報告書は2003年度刊行予定。



1. 調査地点の位置 (121 飯氏 0881 1 : 8000)



2. 墓道・石室全景 (南から)



3. トレンチ掘削状況 (西から)

0247 箱崎遺跡第35次調査 (HKZ-35)

所在地 福岡市東区箱崎3丁目9番33号
調査原因 ビル建設
調査期間 2002.12.2～12.10

調査面積 32㎡
担当者 中村啓太郎
処置 記録保存

位置と環境 箱崎遺跡は博多湾に面した砂丘上に立地し、本調査区は遺跡の北端、標高3.8mに位置する。

検出遺構 現地表下30cmで第1面の遺構検出面である暗褐色土となる。さらに20cm程下げると地山の黄褐色砂となる。この面で第2面としたが、出した遺構の大半は上層で検出出来なかったものである。検出した遺構は井戸、土坑、柱穴等である。柱穴は現在のところ、建物などにまとめきれていない。時期は12世紀後半～14世紀と考えられる。

出土遺物 出土遺物は土師器、貿易陶磁器類、陶器類がコンテナ3箱出土している。

まとめ 今回の調査では中世の集落の一端を検出したと考えられるが、遺構埋土には炭、焼土が混じるものがあり、周囲の状況と併せて考えると大規模な火災があった可能性がある。今後行われる周辺の調査の成果と併せて検討したい。



1. 調査地点の位置 (34 箱崎 2639 1 : 8000)



2. A区北半全景 (東から)



3. 溝 SD03 (東から)

0248 那珂遺跡群第86次調査 (NAK-86)

所在地 博多区那珂1丁目550番
 調査原因 共同住宅建設
 調査期間 2002.12.5～2003.2.19

調査面積 370㎡
 担当者 長家 伸
 処 置 記録保存

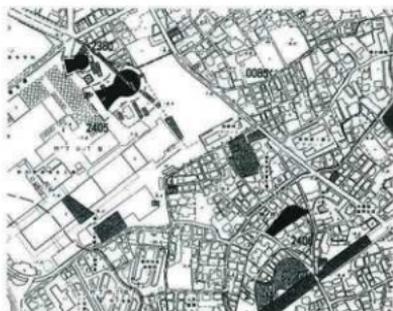
位置と環境 那珂遺跡群は福岡平野の中央部分を北流する那珂川と御笠川に挟まれた洪積台地上に立地する。本調査地点は台地の中央部分にあたり、調査地点の南側には那珂八幡古墳が位置している。

検出遺構 遺構面は鳥栖ローム層上面で、標高7.7～8.1mを測り、南から北に向かって緩やかに傾斜している。遺構には弥生時代中期後半～後期・古墳時代後期・中世の3時期が認められる。前2者が遺構・遺物の主体となり、竪穴住居跡10棟・掘立柱建物5棟・井戸1基等の遺構がある。中世に位置付けられる遺構には溝・ピットがあるが、建物としてまとめることができていない。

出土遺物 遺物は総計でコンテナ20箱分出土している。注目される遺物としては多脚の獣脚硯があるが、調査地点内で関連遺構・遺物は認められない。

まとめ 今回の調査では弥生時代中期後半及び古墳時代後期の竪穴住居跡・掘立柱建物が比較的良好な状態で検出された。また獣脚硯の出土も注目される。

報告書は2003年度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置 (37 東光寺 0085 1:8000)



2. 調査区東半全景 (西から)



3. 調査区西半 (西から)

0249～51 三宅廃寺第3～5次調査 (MKG-3～5)

所在地	第3次地点 福岡市南区南大橋1丁目1157番7 第4次地点 福岡市南区南大橋1丁目1157番8 第5次地点 福岡市南区南大橋1丁目1159番3	調査面積	第3次地点 63.8㎡ 第4次地点 72.7㎡ 第5次地点 92.7㎡
調査原因	個人専用住宅建設	担当者	田中寿夫
調査期間	2002.11.28～2003.1.8	処置	記録保存

位置と環境 三宅廃寺は、御笠川左岸に展開する沖積平野に接する台地縁辺部に立地している。沖積部から台地縁辺部には、老古墳を初めとして古代から中世の遺跡が多数点在している。調査地点は、建売分譲予定地の北西部の一区画178.8㎡を対象として実施した。当該地点は、本来、北西から南東方向に開析された谷部に位置しており、基盤層は、砂礫層である。標高は約14.5m前後を測る。調査区は、住宅建設予定範囲を対象に、63.8㎡について実施した。当該区は、第2次調査区の西側に接している。



1. 調査地点の位置 (39 三宅 0144 1 : 8000)

検出遺構

0249 (第3次地点)
検出した遺構は、溝1条、及び柱穴である。県公社団地の建築及び解体工事の影響で、遺構のほとんどは削平されており、遺存状況は悪い。溝は、幅が約40cm、深さ10～15cmで長さ約5mについて確認した。溝の走向は北北西から南南東で、谷が開く方向と平行しており、またこれまでの調査で確認された建物群等の方向とは大きくずれている。



2. 第3次調査区全景 (東から)

0250 (第4次地点)
検出した遺構は、溝1条、及び柱穴である。溝は、幅が約50cm、深さ10～25cmで長さ約4mについて確認した。溝の走向は北西から南東方向で、谷が開く方向とほぼ平行している。これまでの調査で確認された建物群等の方向とは大きくずれている。



3. 第4次調査区全景 (東から)

0251 (第5次地点)
検出した遺構は、溝1条、柱穴多数、焼土坑、円形土坑などである。溝は、幅が約80～120cm、深さ65～90cmで長さ約5mについて確認した。溝は第1次調査で確認された1号溝の延長部で、ほぼ東西に延び、これまでの調査で確認された建物群等の方向とほぼ一致している。柱穴は大型の掘立柱建物のもので堀方は一辺1m弱の方形のもの他、径30cmほどの柱穴が多数確認

できた。奈良～平安期のものが主で、一部鎌倉期のものがある。焼土坑（鍛冶炉か）は平安末～鎌倉期。

出土遺物 奈良及び平安期を中心とした土師器、須恵器の他、布目及び格子目瓦（平瓦）が第5次調査地点からまとまった量出土している。なお、円形土坑から墨書のある土師器碗が1点出土している。

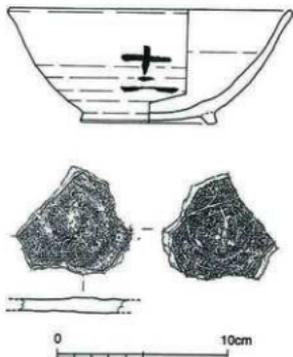
まとめ 今回の調査では古代の寺院跡の一端を確認することができた。特に第5次調査地点では、第1次調査で確認された建物区画溝の西側延長部分が確認できた。当該寺院跡の平面区画を今後推定する上で大きな成果である。



4. 第5次調査1区全景（東から）



5. 第5次調査2区全景（東から）



6. 第5次調査区出土遺物実測図（1/3）

0252 箱崎遺跡第36次調査 (HKZ-36)

所在地	福岡市東区箱崎5丁目2-33・36	調査面積	199.04㎡
調査原因	共同住宅建築	担当者	本田浩二郎
調査期間	2002.12.11～2003.2.21	処置	記録保存

位置と環境 箱崎遺跡は、福岡市の北東部に位置し筥崎宮を中心として営まれたきた古代から中世・近世までの遺跡である。近年の調査では古墳時代前期の集落も調査されており存続年代の長い複合遺跡であることが判明している。箱崎遺跡は博多湾と右岸に形成された南北に延びる古砂丘上の北端部に立地している。標高は4m前後を測り、近隣には吉塚遺跡群・堅粕遺跡群等が存在している。

検出遺構 調査対象地の現状は宅地であり、南北に狭長な地形を呈する。調査は北側を1区、南側を2区と設定し、1区より着手した。遺構面は暗灰褐色砂質土層面上と基盤層である褐色砂層面上の二面を設定した。1面とした遺構面では14世紀代の整地面と柱穴・溝・井戸・廃棄土坑・方形土坑などの遺構を検出した。遺構密度は予想よりも濃く、柱穴列・溝などの方向性を示す遺構も検出された。これらの遺構は現在の町割りとはほぼ同方向の主軸を採り、14世紀以降町割りが大きく変化していないことを示す。2面では1面で検出できなかった遺構と井戸の掘り下げを行った。井戸は桶を井筒として使用するものが多く標高0m付近で湧水する。2区では調査期間の都合より褐色砂層面上で遺構検出を行った。井戸・柱穴・廃棄土坑。土坑墓などの遺構が検出された。井戸は15世紀代の石組の井筒を持つものが検出された。

出土遺物 土師器・貿易陶磁器・国産陶器・須恵器・滑石製品・銅製品・銅銭・人骨などの遺物がコンテナケース30箱分出土した。

まとめ 本地点は箱崎遺跡の北端部と考えられていたが、実際の調査では濃密な遺構が検出された。遺跡北側では砂丘が急激に落ち、遺跡範囲は延びないと想定されていたが、調査地点から北側に向けて砂丘は緩やかに下るが、落ちは検出されず、遺構密度は北側に向かって濃くなる状況である。これらの成果より箱崎遺跡の範囲は更に北側に拡大することが明らかとなった。



1. 調査地点の位置 (34 箱崎 2639 1 : 8000)



2. 1区第1面全景 (南から)



3. 2区第2面全景 (南から)

0253 箱崎遺跡37次調査 (HKZ-37)

所在地 東区馬出5丁目地内
 調査原因 道路建設
 調査期間 2002.12.17～2003.3.31

調査面積 493㎡
 担当者 中村啓太郎
 処置 記録保存

位置と環境 箱崎遺跡は博多湾に面した砂丘上に立地し、本調査地点は箱崎八幡宮の南側約50m、27次調査C区の東に位置する。

検出遺構 標高約2.5mで地山の黄褐色砂となり、この面で遺構を検出した。検出した遺構は井戸、土塋墓(木棺墓)、溝、土坑、柱穴等である。柱穴は現在のところ、建物にまともきかれていない。時期は12世紀後半～14世紀を中心とし、近世に至る。溝は東西方向に延び、西側は27次調査と連なると考えられる。時期は比較的新しい。遺構の覆土には竊状を呈するものが多数あり、本調査区が後世に水の影響を受けた可能性が考えられる。また調査の最後に井戸の下層を掘削した。その結果、古代と考えられる土師器1点を出土した。本地点の黄褐色土砂層はそれ以降に形成されたと思われる。

出土遺物 出土遺物は土師器、須恵器、瓦器、輸入陶磁器類、陶磁器類、瓦、石製品、鉄製品等がコンテナ50箱出土している。

まとめ 今回の調査では中世集落の一部を確認したが、遺構面を含む黄褐色砂層の上部は古代以降に形成され、後世水の影響を受けたと考えられる。集落も規模、構造などについては現時点で検討できていない。今後27次調査の結果と併せて検討したい。

報告書は2004年度以降発行予定である。



1. 調査地点の位置 (34 箱崎 2639 1 : 8000)



2. 調査区東側全景 (西から)



3. 調査区西側全景 (西から)

0254 今宿五郎江遺跡第8次調査 (IMG-8)

所在地 西区今宿町108-1
調査原因 区画整理
調査期間 2001.12.19~2003.1.8

調査面積 297㎡
担当者 杉山富雄・阿部泰之
処置 記録保存

位置と環境 今宿平野前面の砂州上に発達した砂丘と背後の丘陵部との間は後背湿地となり、近世までその姿をのこしていた。遺跡はここに突出した中位段丘の残存部である台地を中心とした範囲に広がる。調査地点はその西縁部に立地し、段丘崖により湿地より一段高い位置にあった。現在は畑地で、地山は礫層上の粘土層である。

検出遺構 現況はかなり削平されており、表土以下、地山の一部までを失っている。このためか、遺構の遺存状態は不良である。調査区西辺部の台地から後背湿地の泥層にむかう傾斜面で長方形の土坑を検出した。2基が台地肩部に沿って並び、その間をつなぐように溝が1条走る。台地上では隅円長方形の土坑3のほかに小穴数基が遺存した。土坑は覆土の特徴から中世かそれ以降の時期のものと考えられる。同様にして柱穴はそれより古い時期を考えることができる。

出土遺物 遺物は少量が遺構覆土から出土した。糸切底土師器、石鍋がある。いずれも細片または小破片の資料である。

まとめ 遺物は少量で、平安時代末から中世にかけての時期を示している。少数の柱穴のほかは、遺構の規模にしては遺物が極少ないこと、斜面の堆積中からも遺物の出土が少ないことなどから、生活の中心を離れた位置にあることを示している。大形の土坑、溝などから生産の場としての機能を示すものか。

調査報告書は2005年度刊行予定。



1. 調査地点の位置 (112 今宿 0626 1 : 8000)



2. 調査区全景 (西から)

0255 今宿五郎江遺跡第9次調査 (IMG-9) 谷遺跡群第1次調査 (TAN-1)

所在地 西区今宿町地内

調査原因 区画整理

調査期間 2002.12.26~2003.3.29

調査面積 2.120m²

担当者 杉山富雄・阿部泰之

処置 記録保存

位置と環境 福岡市文化財分布地図上では谷遺跡・今宿五郎江遺跡・大塚遺跡に囲まれた谷地として埋蔵文化財包蔵地外としてきた地点である。北側の独立した中段段丘（今宿五郎江遺跡）の延長と南側の丘陵末端の傾斜面（谷遺跡）、その間を南西から北東方向に流れていたと考えられる浅く低湿な谷地にかけて遺構、遺物が出土した。調査は遺物の分布がごく薄い谷中央部を境に北側を1区、南側を2区として進めた。

1区の調査 1区は、北半部が段丘面にかかる。表層は削平されている。多数の柱穴のほかに、溝、長方形の竪穴住居1棟を検出した。柱穴から掘立柱建物1棟（1×2間）を復元できる。段丘から谷地へ向かって後期弥生土器の包含層が形成されている。下部は投棄されたような状態が見てとれる。上部では少量の須恵器、平安時代の瓦が混じり二次的に形成されたものと考えられる。包含層下部の土器に混り、木器が出土した。ヤスの部材のような尖頭器が複数あるほかに、平鍬、盾、白等がある。土器が特に集中する場所ではガラス管玉・小玉が出土している。

2区の調査 2区は西側部分が丘陵端の緩い傾斜面に位置する以外は谷の堆積物である。傾斜面の末端部では、溝が検出された。南半部の東面する位置では溝の埋没後に後期弥生土器の包含層が形成されている。また、1区包含層と対面する位置にも形成される。北面する斜面では整地層、土坑群が検出された。土坑は不正な平面形で断面が袋状を成す。溝から後期弥生土器に混り銅鐵、貨泉の出土があった。貨泉は1区包含層中からも出土した。谷底の堆積物からは晩期の縄文土器が極少量出土している。

調査報告書は2005年度刊行予定。



1. 調査地点の位置 (112 今宿 0626 1 : 8000)



2. 調査区全景 (東から)



3. 低湿地の遺物出土状況 (南から)

0256 有田遺跡第205次調査 (ART-205)

所在地 福岡市早良区小田部二丁目155-1.156 調査面積 346㎡
調査原因 共同住宅建設 担当者 瀧本正志
調査期間 2003.1.20～2.21 処置 記録保存

位置と環境 有田遺跡の所在する洪積台地は、福岡市西部の早良平野のほぼ中央に位置し、標高15m前後を測る独立中位段丘である。台地は八つ手状に分岐し、当該調査地は台地の中央部、標高10.5mを測る丘陵背上に位置する。

検出遺構 検出した遺構は、弥生時代前期末～中期初頭の甕棺墓12基・箱式木棺墓1基と飛鳥時代末～奈良時代の掘立柱建物2棟・柵列1条である。甕棺墓は単棺木蓋式、複棺接口式、複棺呑口式等があり、上甕に甕や鉢などを使用している。墓塚に甕棺を45°前後に傾けた状態で据えている。箱式木棺墓は一部が欠失して全容は不明。隅丸長方形の墓塚中央に、棺幅60cmを測る組合せ箱式木棺を設置している。

掘立柱建物は桁行3間×梁行3間の総柱建物で、柱間は全て桁行1.9m、梁行1.45mを測る。柱痕から柱径40cm程であることを知る。二棟の建物は桁柱列を揃え、建物の間は3.9mを測る。柵列は三基の柱穴を一組とし、建物の東側を建物の桁柱方向と同じくする。柵列と建物との間は3.5m、三基の柱穴間(梁行)は1.1mと一定であるが、柵列の桁行は2.1～2.6mと一定しない。

出土遺物 コンテナ箱に55箱の土器が出土している。甕棺墓や木棺墓に副葬品は認められない。また、建物の柱穴からは積極的に時代決定できうる遺物は出土していない。

まとめ 本調査地を中心とする旧丘陵尾根上に弥生時代前期末～中期前半の共同埋葬地が展開している可能性が高い。

周辺地域における発掘調査成果などから、建物群は方形に柵で囲まれた敷地内に規格性を持って配置された倉庫群であることを知る。官衛施設に極めて強く関連するものであろう。

調査報告書は、2004年度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置 (82原 0309 1 : 8000)



2. 掘立柱建物SB01-02 (南から)



3. 甕棺墓SK10 (西から)

0257 元岡・桑原遺跡群第32次調査 (MOT-32)

所在地 福岡市西区大字元岡字宮草

調査原因 大学建設用地造成工事

調査期間 2003.1.20～3.31

調査面積 1,700㎡

担当者 二宮忠司

処 置 製鉄遺構確認調査

位置と環境 G-2-1はG-2の49,900㎡の内、いずれも谷も東側傾斜面を中心に弥生時代甕棺、奈良時代の土師器、須恵器、中世陶磁器をはじめ多量の鉄滓が出土している。鉄滓が多く包含していることから、製鉄遺構確認調査をこの地点に絞って調査することとした。

検出遺構 調査区の大部分が丘陵の落ち際にあたり、すぐに青灰色シルトに達している。調査区の南側でかろうじて遺構を検出できたが、大部分は青灰色シルト層で覆われている。南側には古墳時代の溝、柱穴、堅穴住居址等が検出しているが、詳細な調査には至っていない。

出土遺物 青灰色シルト層からはたしかに土師器、須恵器、鉄滓等は出土するが、G-1-2で見られたごとく鉄滓の量も少なく、製鉄炉を彷彿させる量ではない。

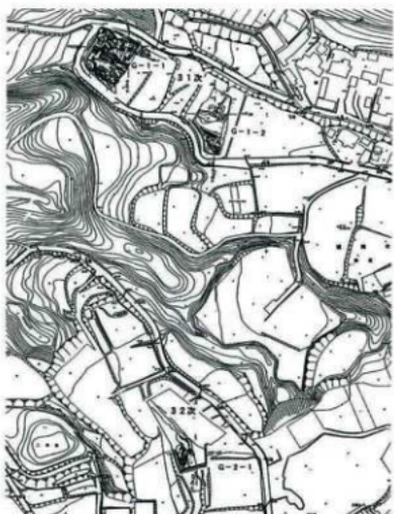
ま と め 今回の調査は製鉄遺構確認調査であったが、鉄滓等の出土も少量で、製鉄遺構の確認にはいたらなかった。この地区の本格調査は2006年を予定している。



3. 調査区全景 (南から)



1. 調査地点の位置 (140 元岡 0767 1 : 8000)



2. 元岡・桑原遺跡群第31次・32次調査地点

0258 那珂遺跡群第87次調査 (NAK-87)

所在地 福岡市博多区東光寺町1丁目376-3 調査面積 20㎡
調査原因 共同住宅建築 担当者 井上 繭子
調査期間 2003.1.31～2.4 処置 記録保存

位置と環境 那珂遺跡群は、福岡平野を貫流する御笠川、那珂側に挟まれた平野内に位置し、春日丘陵から那珂川の蛇行に沿って延びてくる洪積丘陵北端に立地する。本調査区は遺跡群の北西、東光寺剣塚古墳の北側に位置する。遺構面は現地地表下約30cm、標高約8.9～9.1mの鳥栖ローム上面で検出された。

検出遺構 遺構面である鳥栖ロームは北東から南西へ向かい傾斜して落ちる。検出遺構は、溝一条、竪穴住居址3軒、柱穴、土坑である。いずれも削平が激しく、出土遺物はほとんど見られなかったが、わずかな遺物と埋土から、溝は古墳時代～古代の時期と思われる。竪穴住居址はいずれも貼床のみの検出で、プランは不明確であるが、SC04、SC06はおそらく方形になると思われる。SC05、SC06付近の床面には小穴が多数検出された。弥生土器や土師器などがコンテナ一箱程度出土した。

まとめ 本調査区の南側には東光寺剣塚古墳が位置するが、今回は、古墳時代～古代の溝、弥生時代～古墳時代に属すると思われる竪穴住居址が検出され、当該時期の集落が広がっていると考えられる。特に、北東へ向かい延びていくと推定される。



1. 調査地点の位置 (37 東光寺 0085 1 : 8000)



3. 竪穴住居址SC04 (北から)



2. 調査区全景 (東から)

0259 飯倉B遺跡第2次調査 (IKR-B-2)

所在地 城南区荒江1丁目592ほか
 調査原因 共同住宅建設
 調査期間 2003.2.3～3.20

調査面積 339㎡
 担当者 蔵富士寛
 処置 記録保存

位置と環境 飯倉遺跡群は早良平野東側に位置する低丘陵である飯倉丘陵上に広がる遺跡の総称であり、B遺跡は丘陵北側に位置する。調査地点は丘陵谷部近くにあたり、調査区内は西に向かって緩やかに傾斜する。

検出遺構 遺構は標高4～6mの明黄褐色土上で検出した。内容は竪穴住居5、掘立柱建物3である。

竪穴住居はいずれも遺存状況は悪く、かろうじて壁溝が残るのみである。しかしその状況をみればいずれの住居も方形を呈し、4本の主柱を持つものであるといえる。規模は一辺3～4mほど。なお、調査区内にはごく浅い溝状の遺構をいくつか検出しているが、これらは住居の壁溝にあたる可能性もある。

掘立柱建物は3棟を確認しているが、他にも多くの柱穴が存在しており、更に多くの建物の存在が予想される。いずれも2×2間の総柱建物で、柱間は1.5～1.7mを測る。

出土遺物 コンテナ5箱程。須恵器・土師器がその大半を占める。住居址および掘立柱建物等に伴うものであろう。

まとめ すべての遺構が古墳時代後期に位置づけることのできるものである。掘立柱建物の柱穴はいずれも住居址を切り込んでおり、竪穴住居群は掘立柱建物群に先行するものといえよう。

報告書は2003年度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置 (73 茶山 0243 1:8000)



2. 竪穴住居群 (南西から)



3. 掘立柱建物群 (西から)

0260 箱崎遺跡第38次調査 (HKZ-38)

所在地 福岡市東区箱崎3-9-49

調査原因 共同住宅建設

調査期間 2003.2.3~3.8

調査面積 90㎡

担当者 荒牧宏行

処置 記録保存

位置と環境 博多湾に沿って形成された砂丘上に箱崎遺跡は立地する。現況は旧来の商店街が建ち並び、海岸浜は埋め立てられ旧地形を看取ることが困難となっている。共同住宅建設等に伴い小面積の調査が進行しているが、博多同様、中世から近世にかけての生活遺構が密に重複し検出されてきている。

検出遺構 遺構検出面は現在の地盤から140cm下げた標高2.4m前後の地山となる砂丘上で行った。柱穴、土坑が多数、井戸5基を検出した。時期は13世紀以降、近世までのものを含む。留意される遺構に布掘の下底に石を敷いた柱列や覆土に焼土塊を多量に含むものがあげられる。周辺の調査において、13世紀の焼土層が検出されていることから関連が注目される。

出土遺物 遺物のなかには龍泉窯系、阿安窯系の中国陶磁器も多く含み、総量16箱が出土した。

まとめ 本調査では中世の町並みのわずかな一角を見出したに過ぎないが、現在、急増している箱崎遺跡の調査の進行とともに居住地の性格、変遷がより明らかになるものと思われる。



1. 調査地点の位置 (34 箱崎 2639 1 : 8000)



2. 西半部遺構全景 (西から)



3. 井戸SE80 (南から)

0261 高畑遺跡第19次調査 (TKB-19)

所在地 博多区板付6丁目地内
 調査原因 道路建設(外環状線)
 調査期間 2003.1.21~2.28

調査面積 204m²
 担当者 吉武 学
 処置 記録保存

位置と環境 御笠川と那珂川に挟まれた南北に長い低丘陵上に位置し、鞍部を挟んで北側は板付遺跡となる。第18次調査地点の北側に隣接する。

申請地は上記丘陵を東西に横断するものであるが、丘陵上は削平により遺構が存在しないため、東西の斜面部分が調査対象となった。塀の建設予定部分のみを対象とする幅2mの調査区で、東からⅠ区、Ⅱ区とした。

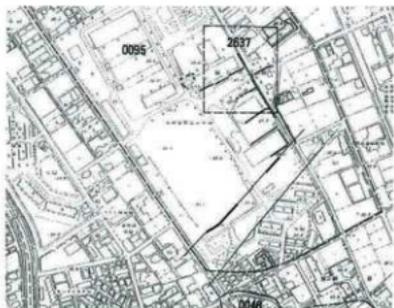
検出遺構 調査はまず重機によるⅠ区の表土剥ぎから開始し、人力による掘削と記録の作成を行いながら、順次Ⅱ区へと移行した。

Ⅰ区は、中世の溝と時期不明の小ピットを検出した。しかし、南側第18次調査で確認した古代官道の延長部分は、調査区が狭いことに加え、遺構面が深いことや、作業の安全性、工事工程との兼ね合い等から調査を断念せざるをえなかった。

Ⅱ区は、調査区の西側で丘陵が落ちて谷部となる。丘陵斜面で古墳時代中期の竪穴住居跡・土坑・ピット少数を、谷部で弥生時代後期の溝、古墳時代中期の井戸をそれぞれ検出した。谷部も削平を受けており、下層に古代までの遺物を含む包含層が堆積していたことから、古代ないし中世の初め頃までに水田化したようである。

出土遺物 弥生土器、土師器、初期須恵器、古代瓦の他、滑石製紡錘車などが出土した。量はコンテナ25箱を数えるが、これらは主にⅡ区の溝や井戸、包含層から出土した。

まとめ 概ね南側第18次調査区と同じ内容の遺構・遺物であり、その調査成果を追認したと言えるよう。報告書は2003年度に刊行予定である。



1. 調査地点の位置 (19 高畑 0095 1 : 8000)



2. 調査区全景・手前がⅠ区(北東から)



3. Ⅱ区の竪穴住居跡(北東から)

0262 藤崎遺跡第33次調査 (FUA-33)

所在地 福岡市早良区百道1丁目4番
調査原因 共同住宅建設
調査期間 2003.3.3～3.12

調査面積 150㎡
担当者 吉留秀敏
処置 記録保存

位置と環境 藤崎遺跡は新砂丘上に展開する墳墓、集落遺跡である。これまで砂丘頂部を中心に弥生時代前期～中期の甕棺、石棺、木棺、古墳時代前期の方形周溝墓などが確認・調査されている。対象地はこうした墳墓域の範囲内にある。調査前の標高は約4.5mである。なお対象地は二辺を道路に面する角地の約6×25mの範囲である。

検出遺構 地表下1.5mの軟弱な砂層中に遺構面がある。壁面保全、安全確保のために全壁面に傾斜45°ののり面を取ったために遺構検出面は極めて狭い範囲となった。遺構としては弥生時代中期の甕棺3基、古墳時代の土坑1基、不明遺構6基である。

出土遺物 甕棺は単棺1基、合口式棺2基であり、何れも小型棺であった。古墳時代土壌からは土師器甕、壺破片が出土した。遺物合計コンテナ4箱である。

まとめ 今回の調査は地下鉄藤崎駅建設関連調査範囲(1・6次)の北側にあたる。調査例の少ない百道1丁目区画では東側の25次調査に次いで2回目の調査となった。調査範囲が狭く得られた成果は僅かであるが、須玖Ⅱ式小児棺が3基検出され、該期の墓域の北側への広がりを確認すると共に、25次と同様に小児棺が卓越する状況が確かめられた。砂丘北側斜面(海浜側)には小児墓域が展開する可能性も出てきた。



1. 調査地点の位置 (81 室見 0307 1 : 8000)



2. 北側検出遺構全景 (東から)



3. 甕棺SK04 (南から)

平成14年度 福岡市新指定文化財

福岡市教育委員会では、平成15年2月5日の福岡市文化財保護審議会の答申を得て、同年3月10日「樹下婦人図」など5件、9点を新たに福岡市指定文化財として指定しました。これで福岡市の指定文化財は140件、2,768点になります。

① 樹下婦人図

中央区唐人町の個人商店に所蔵されています。2枚の杉戸に油彩で画いたもので、作者は和田三造(1883-1967)。ヨーロッパに留学する直前の明治42(1909)年の制作です。この絵は、帰福中の作者がお世話になった知人のために画いたものです。渡欧前の作品として稀少であるばかりでなく、近代美術史においても貴重な価値があります。

② 木造観音菩薩立像

東区志賀島の荘厳寺の観音堂に安置されています。この像は、総高183.1cmで、台から頭部までを一つの材から彫り出した一木造です。また、面貌の厳しさと豊かな胸、張り出した腰など平安時代前期の特徴がよく示されています。これらの優れた技法をもつこの時代の彫刻は市内に少なく、本市を代表する仏像といえます。

③ 銅造菩薩坐像

木造観音菩薩立像と同じく荘厳寺に所在する銅製の仏像です。この像は、総高37.2cmで、ろうがた銅型による鑄造で造られています。繊細な宝冠や頭髮の細かな線刻、胸飾りの精緻さなど、こうらい高麗の仏像の特徴を見ることができます。今から700年程前の高麗時代後半の作品と考えられます。全体に火による焼損が認められますが、我が国でも稀少な高麗仏であり、日朝文化交流史の一端を示すものとしても貴重な仏像です。

④ 志賀島の盆踊り

この盆踊りは20年程前までは、荘厳寺観音講の婦人たちが、同寺から踊り始め、初盆の家や道路の辻々で踊っていましたが、現在では8月16・17日を中心に志賀島の渡船場そばで踊られています。この盆踊りは、紅白の紙で装飾した竹の中に小豆を入れ、両端に切り紙の房を付けた綾と呼ばれる一種の打楽器を打ち鳴らして踊る点に特徴があります。また、歌詞の調子や旋律から海路沿いに伝えられたと推定され、伝承からは、少なくとも江戸時代の終わり頃から歌い、踊りつがれてきたものと考えられます。

⑤ 吉武熊山古墳他3基

この古墳群は、室見川の西岸の丘陵上、西区大吉吉武に所在し、今から約1,300年前に造られたと考えられます。吉武熊山古墳は、亡くなった人を埋葬する石製の部屋の一部に壁画をもつ古墳で、装飾古墳と呼ばれているものです。この壁画には、赤色の顔料を用いて、円・渦などの文様や右手を挙げた人物が描かれています。当時の死に対する思想を示しているものと考えられます。また、装飾古墳は市内では2例しか確認されておらず、地域の古墳文化を考察する上で、極めて重要です。

平成14年度 福岡市指定文化財

指定区分	種別	指定名称	員数	所在地	所有者及び 保持(保存)団体
有形文化財	絵画	樹下婦人図 <small>じげふじんず</small>	2面	福岡市中央区唐人町一丁目 12番6号	紙谷 睦和 <small>かみや ちとせ</small>
	彫刻	木造観音菩薩立像 <small>きぞうくわんおんぼさつたつぞう</small>	1軀	福岡市東区大字志賀島813番	宗教法人 荘厳寺 代表役委員 山崎 公明 <small>しゅうごんに しょうごんじ さんざき きみあき</small>
		銅造菩薩坐像 <small>どうぞうぼさつざざう</small>	1軀	福岡市東区大字志賀島813番	宗教法人 荘厳寺 代表役委員 山崎 公明 <small>しゅうごんに しょうごんじ さんざき きみあき</small>
民俗文化財	無形民俗	志賀島の盆踊り <small>しあがしまのぼんおどり</small>		福岡市東区大字志賀島	志賀島の盆踊り保存会 代表 小林 孝 <small>しあがしまのぼんおどり ぼんおどりぞんかい こだいら たかし</small>
記念物	史跡	吉武熊山古墳 他3基 <small>よしたけくまやまこふん ほかさんき</small>	4基	福岡市西区大字吉武656番 他13筆	倉光 善重 他9名 <small>くらみつ ぜんじゆう ほかきゅうめい</small>



1. 樹下婦人図



2. 木造観音菩薩立像



3. 銅像菩薩坐像



4. 志賀島の盆踊り



5. 吉武熊山古墳（奥壁裝飾文様）

平成14年度福岡市域内埋蔵文化財関係報告書・年報・関連報告

集 書 名	副 題	調査番号
734 青木4	一青木道跡群第4次調査の報告一	0148
735 有田・小田部38	一有田道跡群第202次調査一	0117
736 井尻B道跡11	一赤道跡群井尻遺跡に伴う発掘調査報告 井尻B道跡第1次調査の報告一	9958
737 今宿五郎江道跡端	一第5次調査報告一	0055
738 今宿道跡2	一第3次調査の概要一	8826
739 外環状道路関係埋蔵文化財調査報告書16梅林道跡4	一第6次調査一	0132
740 大橋E道跡5	一福岡市南区所在大橋E道跡第7次調査報告一	0111
741 大原D道跡群4	一「大原D道跡群第4次・第5次・第6次調査報告論文時代編一	9518 9729 9901
742 上月限B道跡	一一般県道水城下白井線関係埋蔵文化財発掘調査報告書一	0125
743 九州大学統合移転用地内埋蔵文化財発掘調査概報2	一元岡・桑原道跡群発掘調査一	
744 元岡桑原道跡群2	一桑原石ヶ元古墳群調査の報告一	9602
745 鴻臚館	一平成13年度発掘調査報告書一	0109
746 雀居7	一福岡空港西側整備に伴う埋蔵文化財調査報告一	9609
747 雀居8	一福岡空港西側整備に伴う埋蔵文化財調査報告一	9715
748 雀居9	一福岡空港西側整備に伴う埋蔵文化財調査報告一	9819
749 重留村下道跡2	一第2次調査報告一	0160
750 下月限C道跡端	一福岡空港周辺整備工事に伴う下月限C道跡第4次発掘調査報告一	9828
751 外環状道路関係文化財発掘調査報告書17-	一曰佐道跡一	0011
752 外環状道路関係文化財発掘調査報告書18	一笠抜道跡第1・2次調査報告一	0021 0022
753 外環状道路関係文化財発掘調査報告書19	一寺島道跡一	0012
754 外環状道路関係文化財発掘調査報告書20	一野多目A道跡第7次調査の報告一	0014
755 下月限島越道跡・水町古墳	一〔下月限〕第1次・2次・3次調査報告、(水町)第1次調査報告一	9755 9756 9849 0054
756 那珂33	一那珂道跡群第79次調査報告一	0057
757 博多86	一博多道跡群第95次調査報告一	9554
759 博多88	一博多道跡群第125次調査報告一	0023
760 博多89	一博多道跡群第128次調査報告一	0058
761 博多90	一博多道跡群第129次調査報告一	0062
762 博多91	一博多道跡群第130次調査報告一	0102
763 博多92	一博多道跡群第131次調査報告一	0112
764 博多93	一博多道跡群第133次調査報告一	0128
765 博多94	一博多道跡群第136次調査報告一	0149
766 博多95	一博多道跡群第137次調査報告一	0152
767 箱崎14	一箱崎道跡第20次調査報告一	9959
768 箱崎15	一箱崎道跡第24次調査報告一	0047
769 羽根戸古墳群5	一羽根戸古墳群G群25号墳の調査一	0151
770 比恵31	一比恵道跡群第67次調査の概要一	9907
771 比恵32	一比恵道跡群第76・第77次調査の概要一	0127 0135
772 福岡城跡大手門	一第48次調査報告一	0129
773 三苦5	一三苦道跡第5次調査報告書一	0015
774 麦野A道跡	一麦野A道跡群第8次調査報告一	0005
775 古武道跡群 傍	一飯盛・古武園場整備事業関係調査報告書9一	8335 8416 8535
776 諸岡B道跡20次		9862
777 席田青木道跡5	一空港線関係埋蔵文化財発掘調査報告2一	0107
778 吉塚8	一吉塚道跡群第9次調査報告一	0130
779 立花寺5	一立花寺道跡群第5・6次調査報告一	0050 0106
福岡市埋蔵文化財年報Vol.16	2001年度版	

西新町道跡

福岡県教育委員会

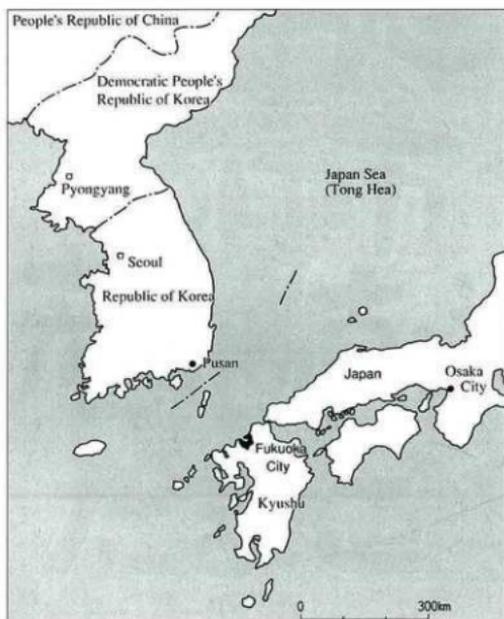
福岡市埋藏文化財年報

VOL.17

平成14(2002)年度版

発行日 平成16年3月31日
編集・発行 福岡市教育委員会文化財部
埋藏文化財課
福岡市中央区天神1丁目8-1
印刷 有限会社 光文堂
福岡市博多区東比恵4丁目5-4
TEL 092-441-4137

THE ANNUAL REPORT
OF
THE BURIED CULTURAL RELICS OF FUKUOKA CITY
VOLUME 17



THE BOARDS OF EDUCATION OF FUKUOKA CITY

MARCH 2004

JAPAN